

第5回川崎市地域福祉実態調査（令和元年度調査）

結果概要

宮前区版

目次

■ 調査の目的	- 1 -
■ 調査の設計	- 1 -
■ 概要を利用するにあたって	- 1 -
1. 回答者の基本属性	- 3 -
2. 『川崎市地域福祉計画』について	- 8 -
3. 近隣地域とその課題について	- 10 -
4. 地域活動やボランティア活動について	- 24 -
5. 保健・福祉に関することについて	- 29 -
6. 東日本大震災後の意識の変化について	- 32 -
7. 今後の地域福祉の推進について	- 36 -
8. 自由回答のまとめ	- 41 -
資料 アンケート調査票	- 61 -

調査の結果

■ 調査の目的

本調査は、川崎市地域福祉計画に基づいて、市民の地域福祉に関する意識を多面的に調査することにより、地域における生活課題を明らかにし、『第 6 期川崎市地域福祉計画』の策定に必要な基礎資料を得ることを目的とする。

■ 調査の設計

【調査対象者】

市内在住の 20 歳以上の男女（外国人を含む）各区 900 人、全市合計 6,300 人

【調査時期】

令和元年 11 月 28 日～令和元年 12 月 20 日

【抽出方法】

住民基本台帳及び外国人登録から無作為抽出

【調査内容】

- ・基本属性
- ・『川崎市地域福祉計画』について
- ・居住地域について
- ・地域活動やボランティア活動について
- ・保健・福祉に関することについて
- ・東日本大震災後の意識の変化について
- ・今後の地域福祉の推進について

■ 概要を利用するにあたって

- (1) 図中の n とは、基数となる実数のことである。
- (2) 回答は n を 100% として百分率で算出してある。小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値と一致しないことがある。
- (3) 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が 100% を超える。

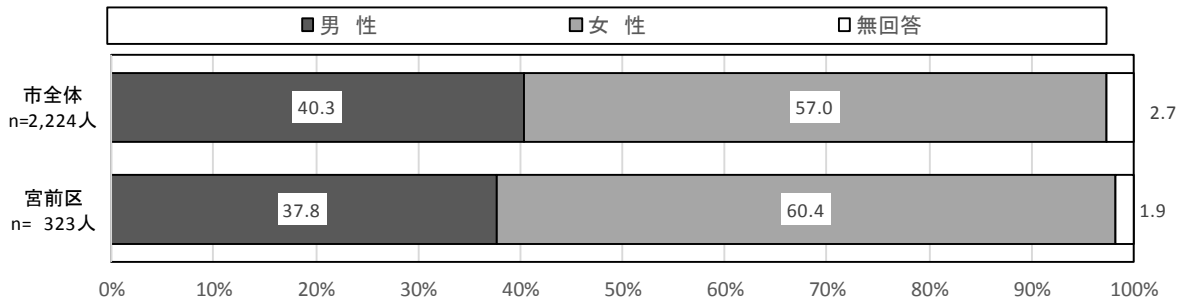
【回収率】

区名	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	不明	全市
配布数（人）	900	900	900	900	900	900	900	-	6,300
有効回収数 （人）	278	305	315	293	323	315	368	27	2,224
有効回収率	30.8%	33.8%	35.0%	32.6%	35.9%	35.0%	40.9%	-	35.3%
（参考） 第 4 回回収率	34.1%	40.4%	36.4%	35.4%	41.8%	34.1%	43.5%	-	37.9%

1. 回答者の基本属性

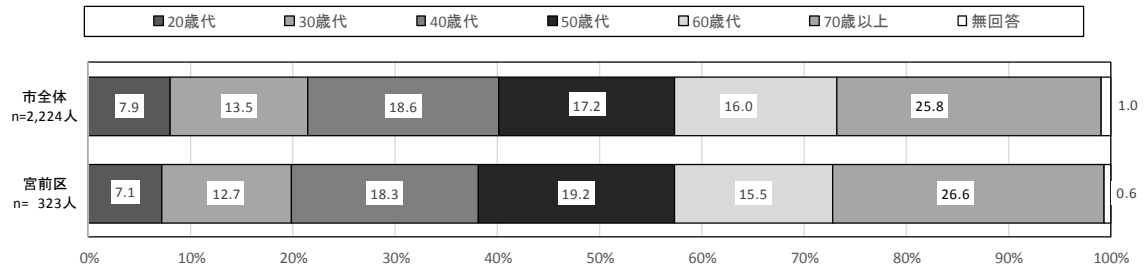
問1 性別を教えてください。(1つに○)

宮前区では、男性が37.8%、女性が60.4%となっている。



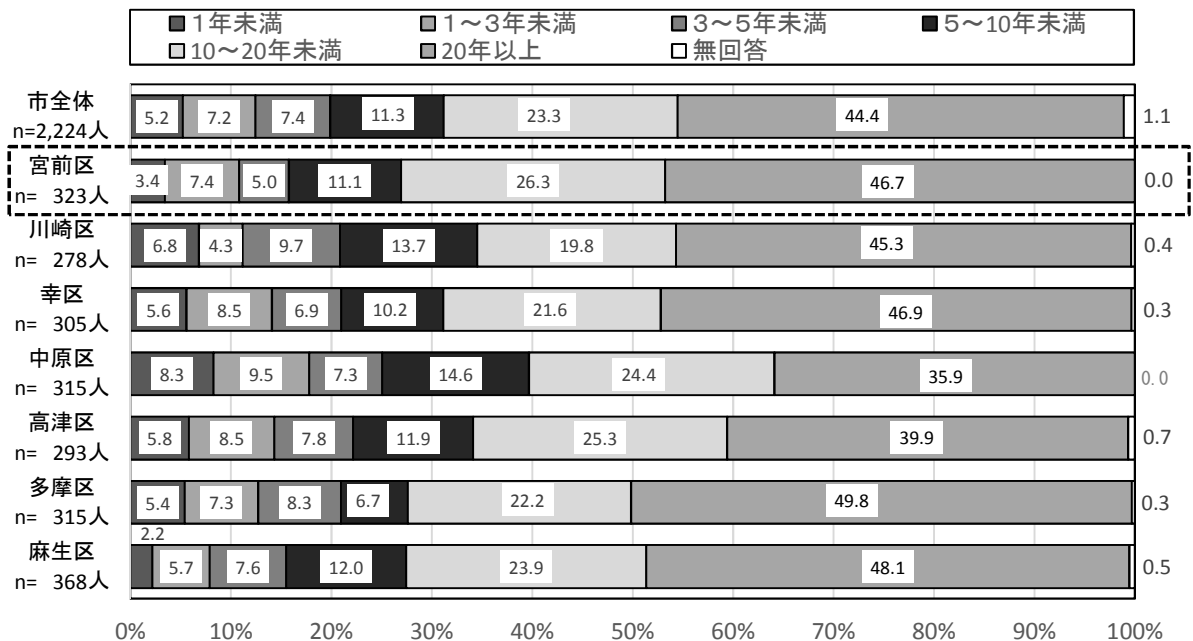
問2 現在の年齢は満何歳ですか。(1つに○)

宮前区では、70歳以上が26.6%で最も高く、次いで50歳代(19.2%)、40歳代(18.3%)となっている。



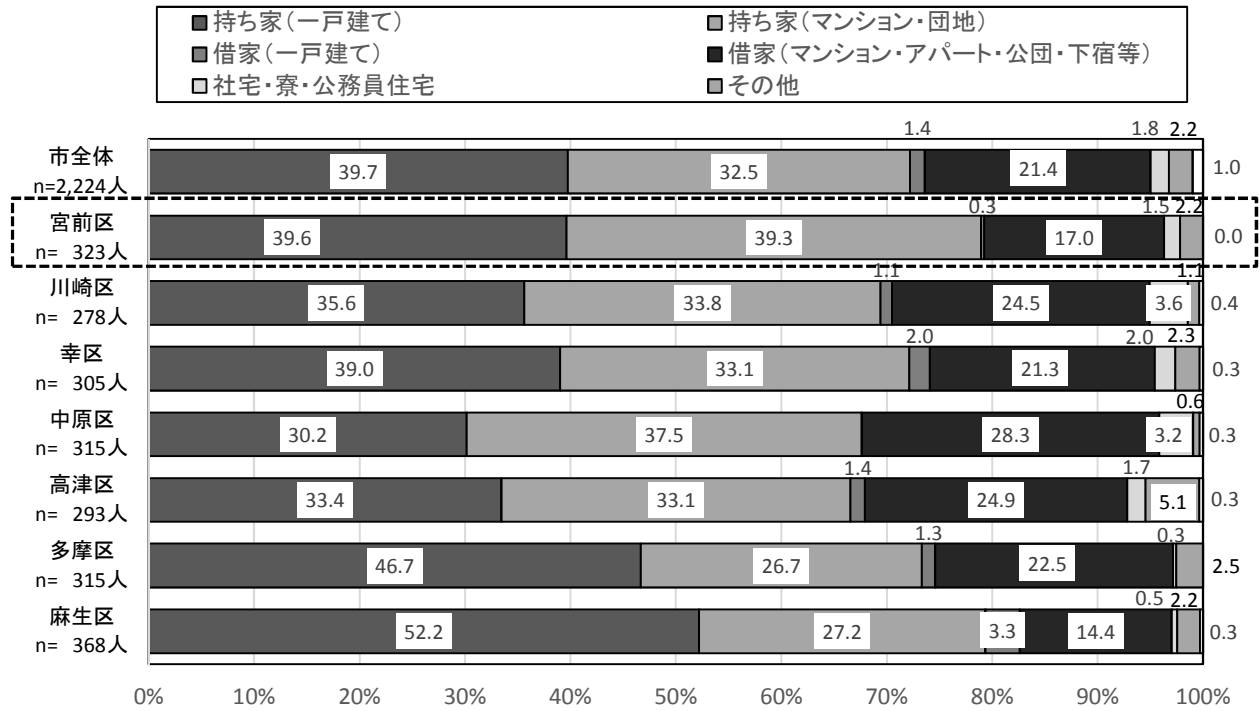
問5 現在お住まいの区には何年住んでいますか。(1つに○)

宮前区では、20年以上が46.7%で最も高く、次いで10~20年未満(26.3%)、5~10年未満(11.1%)となっている。市内6区と比較すると、10年以上の割合(10~20年未満と20年以上を合わせた割合)が73.0%で、最も高い割合となっている。



問6 現在お住まいの形態を教えてください。(1つに〇)

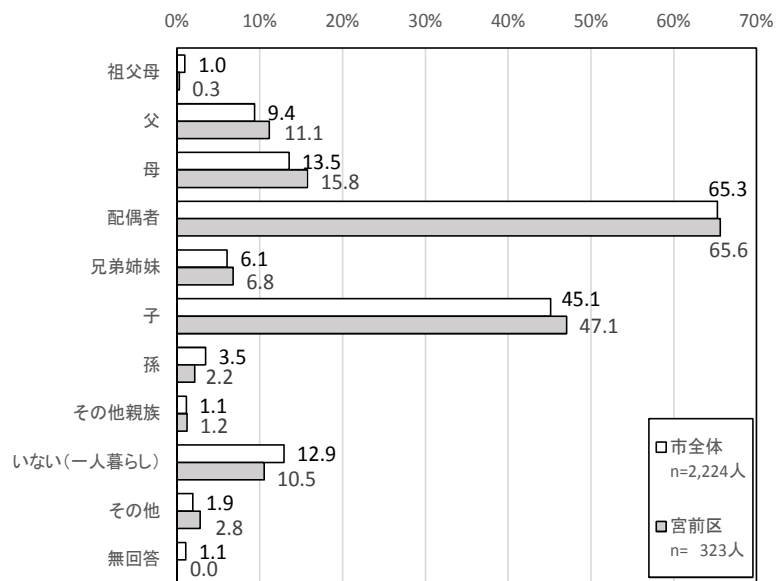
宮前区では、持ち家(一戸建て)の割合が39.6%で、市全体(39.7%)と同程度の割合となっている。市内6区と比較すると、持ち家(一戸建て)と持ち家(マンション・団地)を合わせた持ち家の割合が78.9%で2番目に高くなっている。



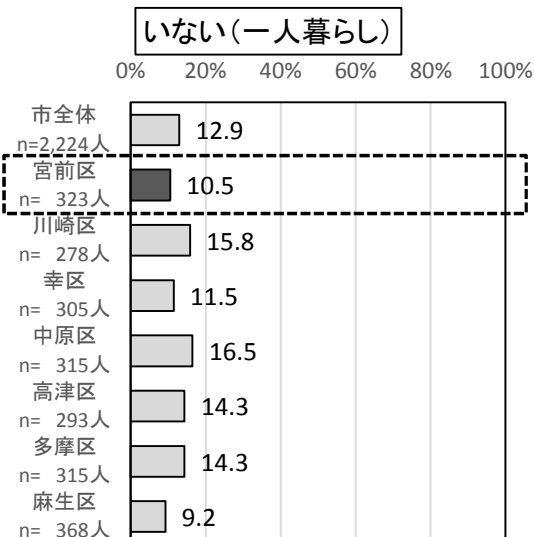
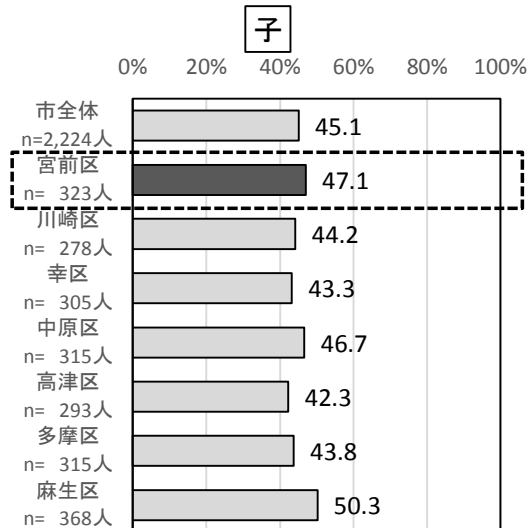
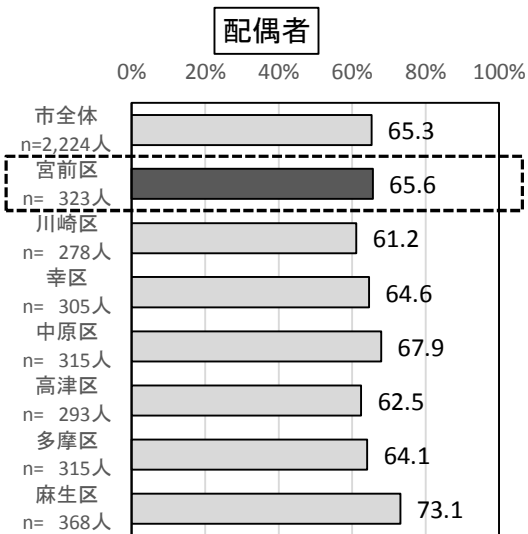
問7 一緒に暮らしているご家族はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

宮前区では、「配偶者」が65.6%で市全体(65.3%)と同程度の割合となっている。

市内6区と比較すると、「配偶者」は65.6%で3番目に高い。また、「子」は47.1%で2番目に高い。一方、「いない(一人暮らし)」は10.5%で2番目に低くなっている。

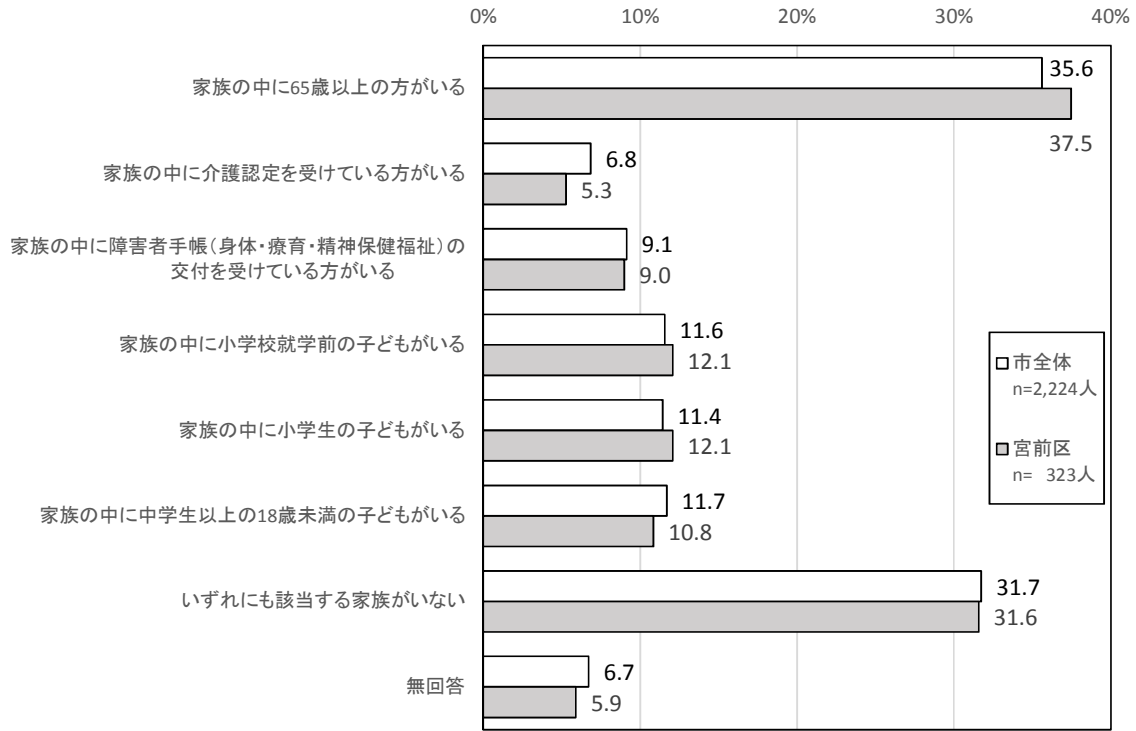


【参考】

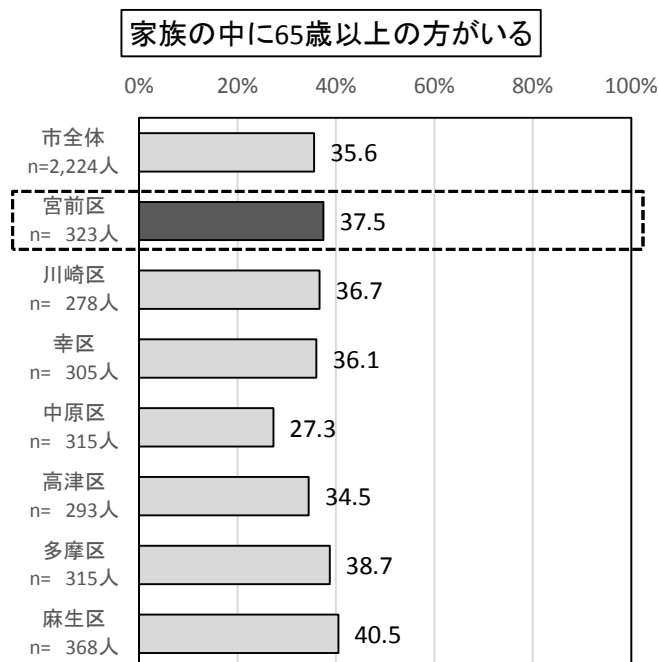


問8 一緒に暮らしているご家族（あなたを含む）のうち、以下の項目に該当する方はいらっしゃいますか。
 （あてはまるものすべてに○）

宮前区では、「家族の中に65歳以上の方がいる」が37.5%で市全体（35.6%）を上回っている。市内6区と比較すると、「家族の中に65歳以上の方がいる」割合は3番目に高くなっている。



【参考】

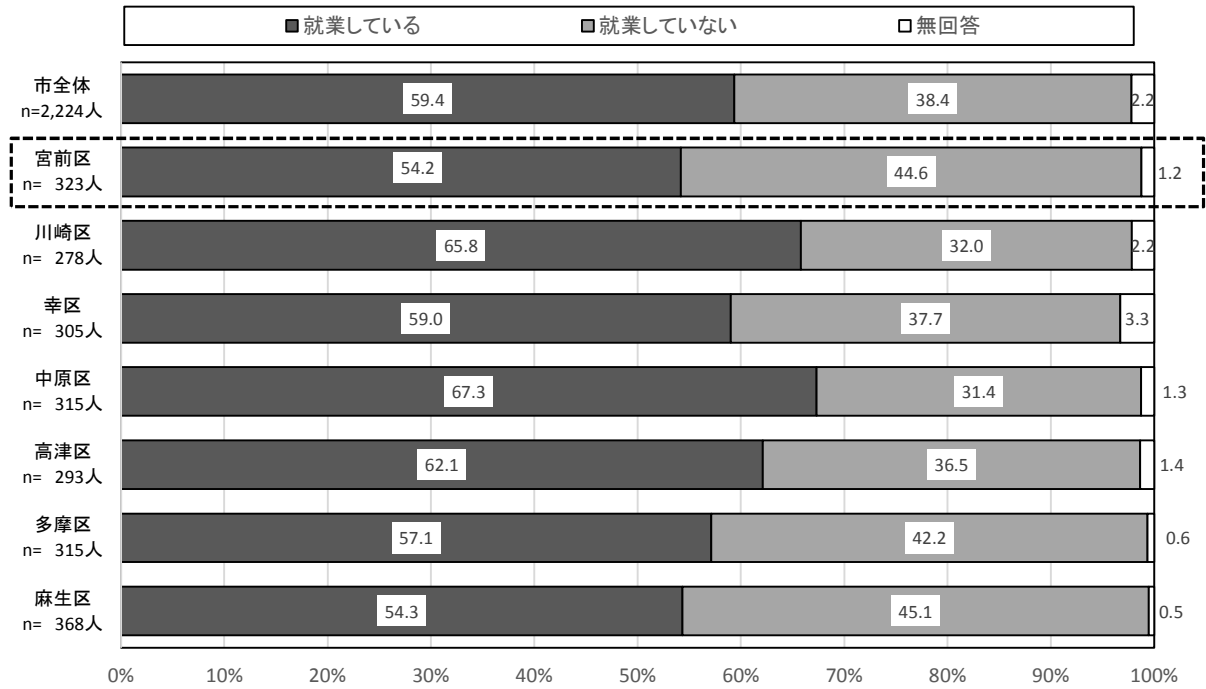


問9 就業の状況はどれに該当しますか。(1つに○)

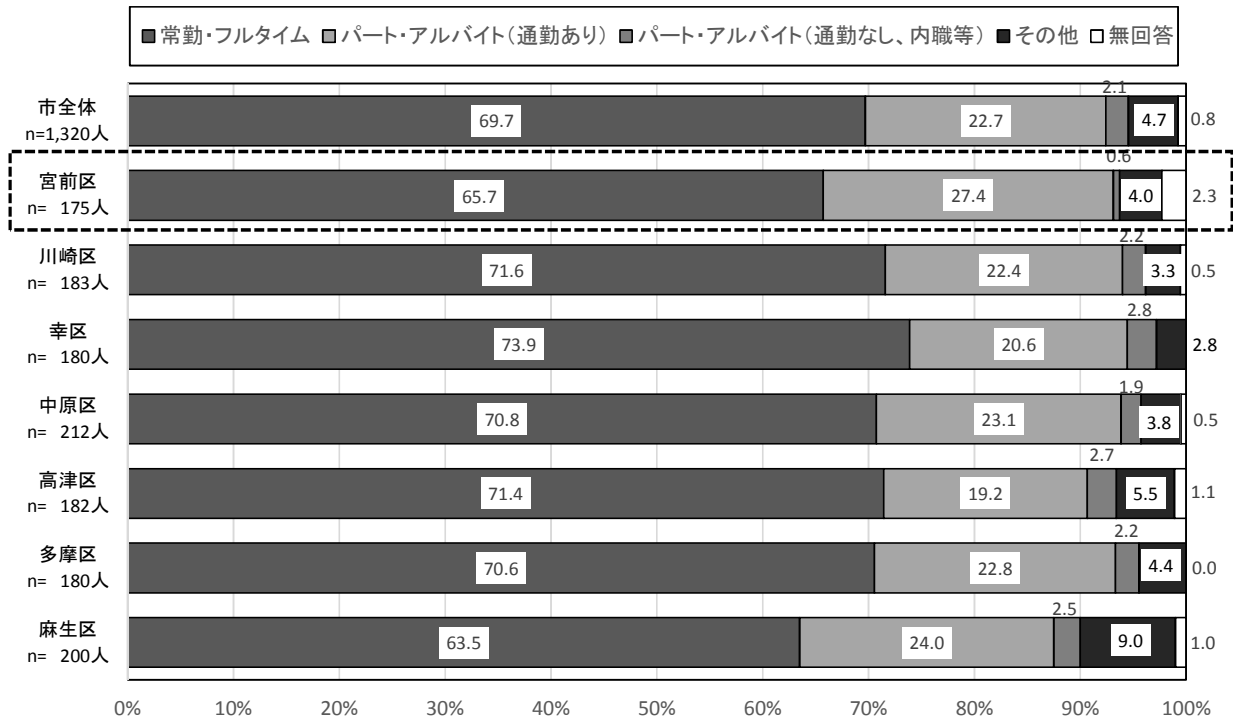
宮前区では、就業している割合が54.2%で市全体(59.4%)を下回っている。市内6区と比較すると、就業している割合は最も低くなっている。

就業形態については、常勤・フルタイムが65.7%で市全体(69.7%)を下回っている。市内6区と比較すると、常勤・フルタイムの割合は2番目に低い。

ア. 就業状況

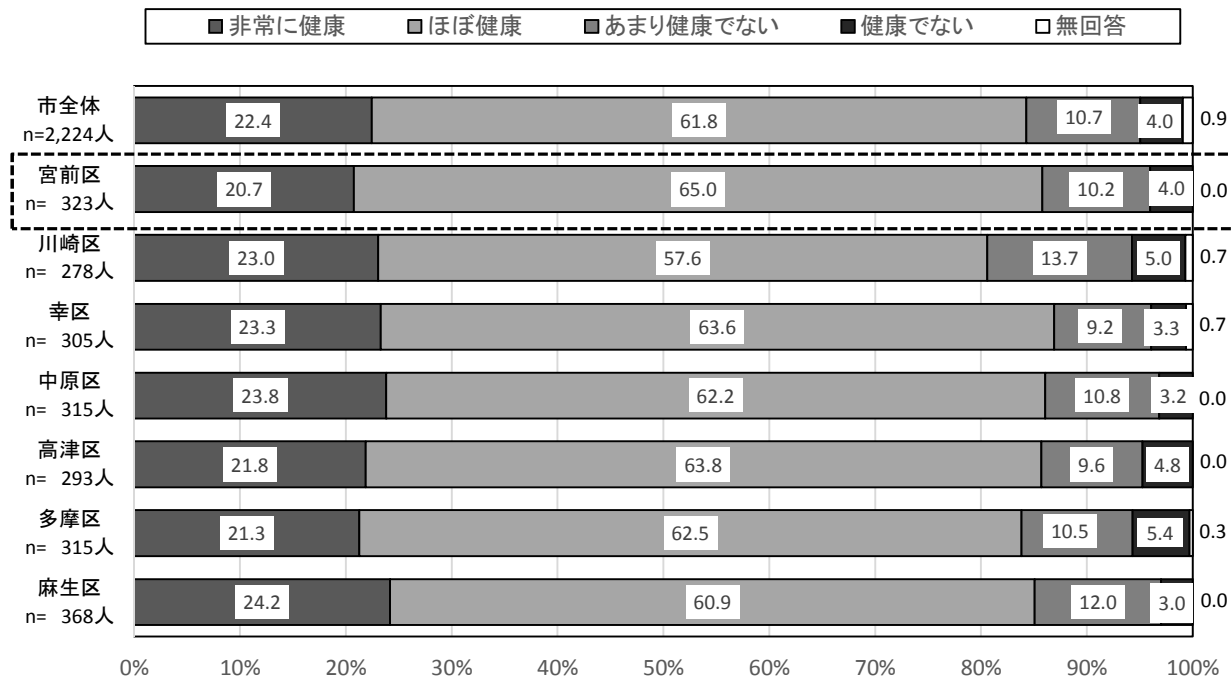


イ. 就業形態



問10 あなたの健康状態は、いかがですか。(1つに○)

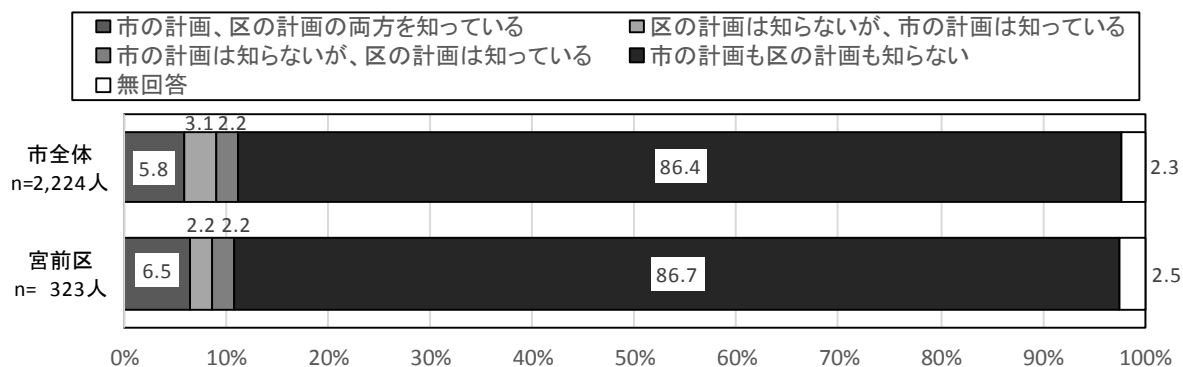
宮前区では、健康状態が「ほぼ健康」の方の割合が65.0%で市全体(61.8%)を上回っている。市内6区と比較すると、「ほぼ健康」(65.0%)、「非常に健康」(20.7%)を合わせた割合が85.7%で3番目に高くなっている。



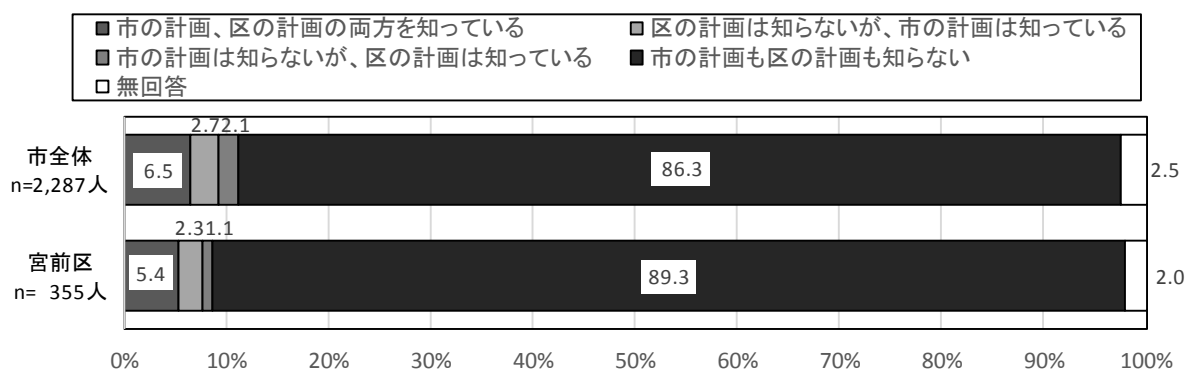
2. 『川崎市地域福祉計画』について

問 12 あなたは、川崎市に『第5期川崎市地域福祉計画』及び『区地域福祉計画』があることをご存じですか。(1つに○)

宮前区では、「市の計画も区の計画も知らない」の割合が86.7%となっている。第4回調査結果と比較すると、「市の計画も区の計画も知らない」の割合は2.6ポイント減少している。



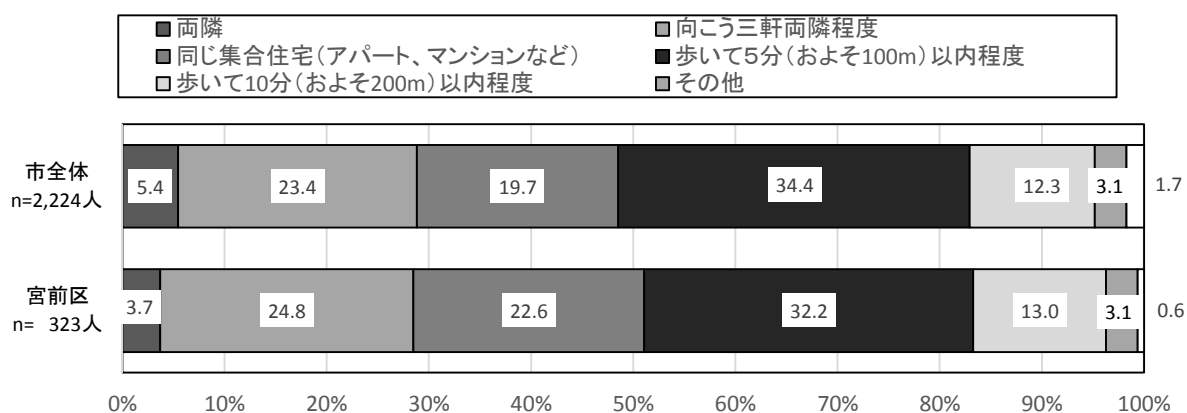
【参考】第4回調査結果



3. 近隣地域とその課題について

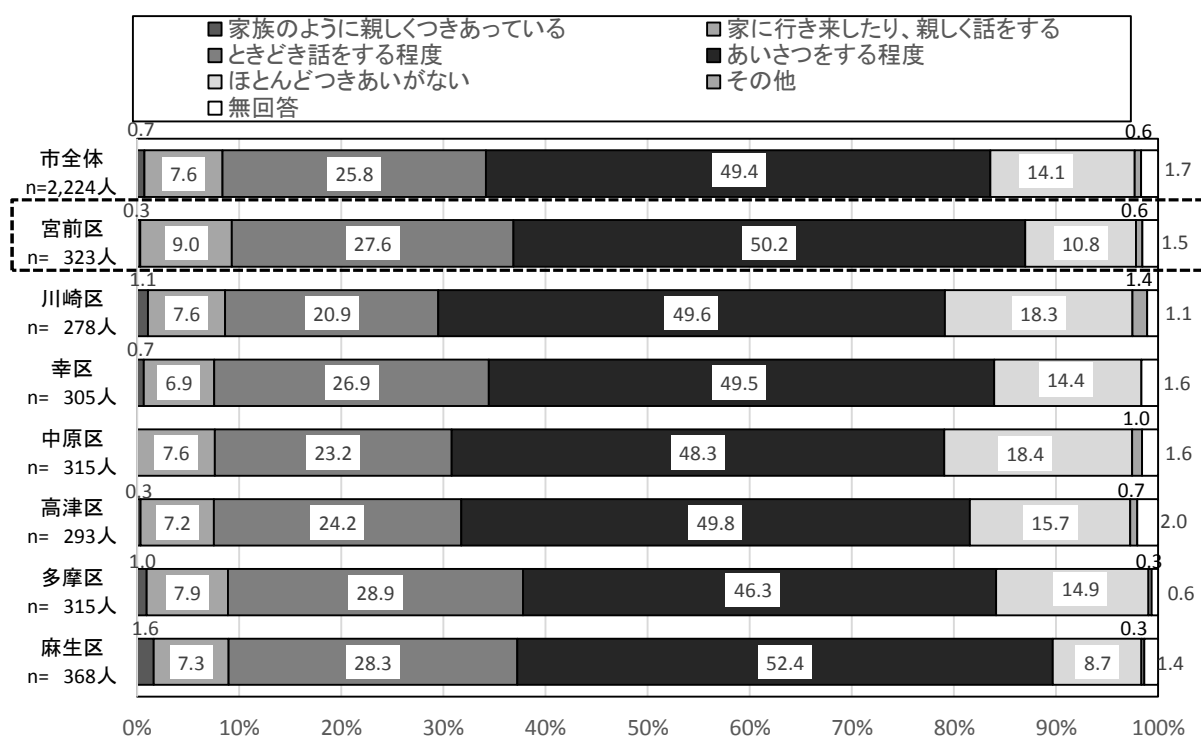
問13 あなたは、「近所」の範囲を、どの程度だとお考えですか。(1つに○)

宮前区では、「向こう三軒両隣」の割合が24.8%で市全体(23.4%)を上回っている。



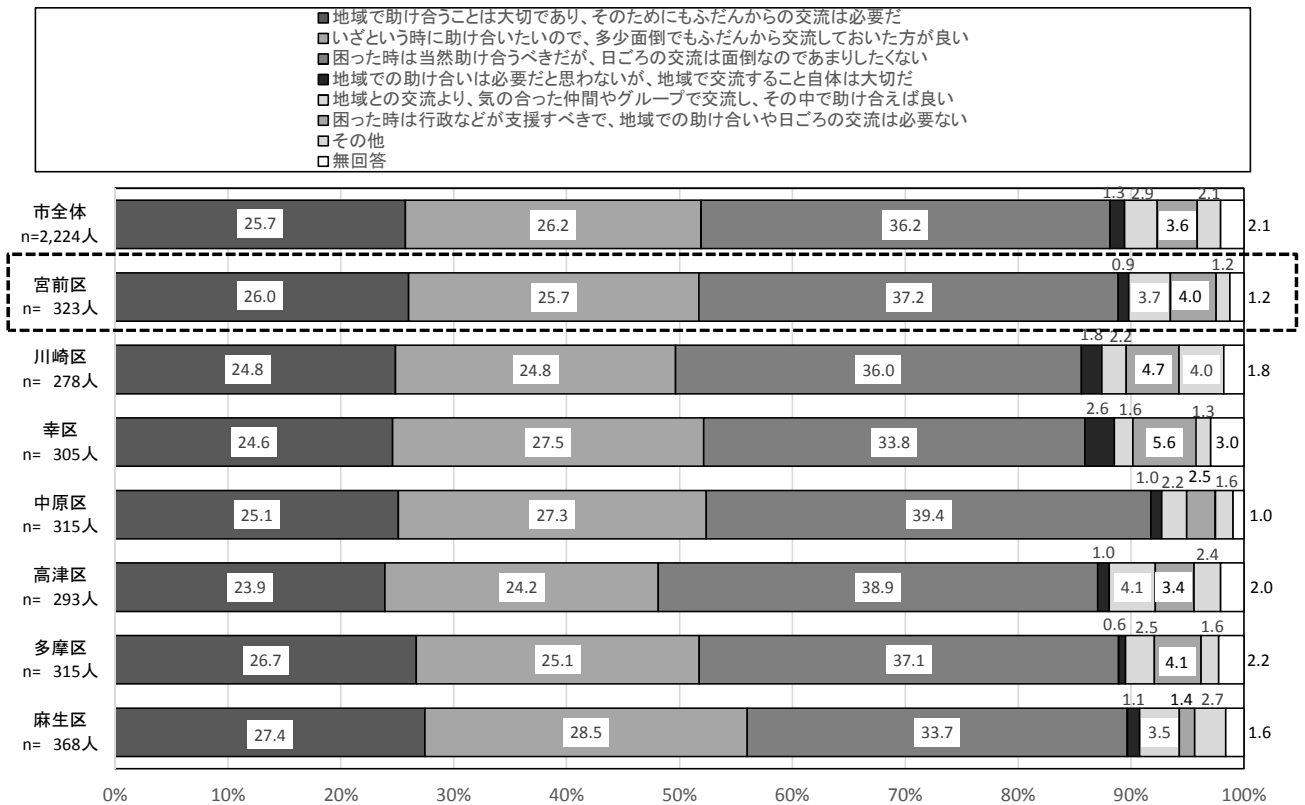
問14 あなたは、ふだんご近所の方との程度のつきあいをしていますか。(1つに○)

宮前区では、「ときどき話をする程度」の割合が27.6%で市全体(25.8%)を上回っている。市内6区と比較すると、「家族のように親しくつきあっている」、「家に行き来したり、親しく話をする」、「ときどき話をする程度」を合わせた割合は36.9%で、3番目に高くなっている。

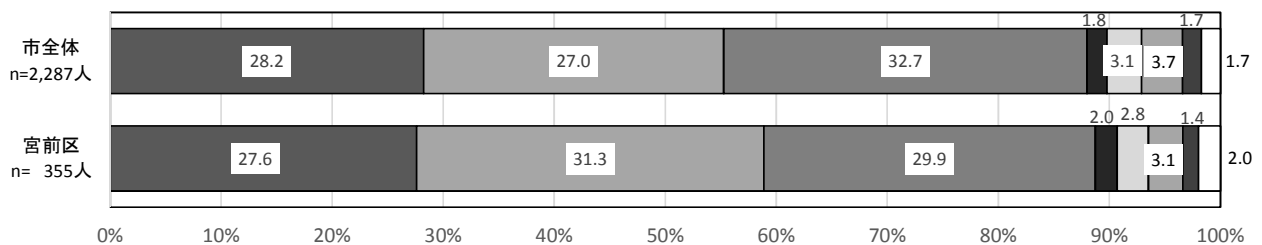


問 15 あなたは、近所づきあいや地域住民同士の交流について、どの程度必要だとお考えですか。（1つに○）

宮前区では、「困った時は当然助け合うべきだが、日ごろの交流は面倒なのであまりしたくない」の割合が37.2%で市全体の36.2%を上回っている。市内6区と比較すると、「地域で助け合うことは大切であり、そのためにもふだんからの交流は必要だ」の割合が26.0%で3番目に高くなっている。第4回調査結果と比較すると、「地域で助け合うことは大切であり、そのためにもふだんからの交流は必要だ」の割合が1.6ポイント減少している。

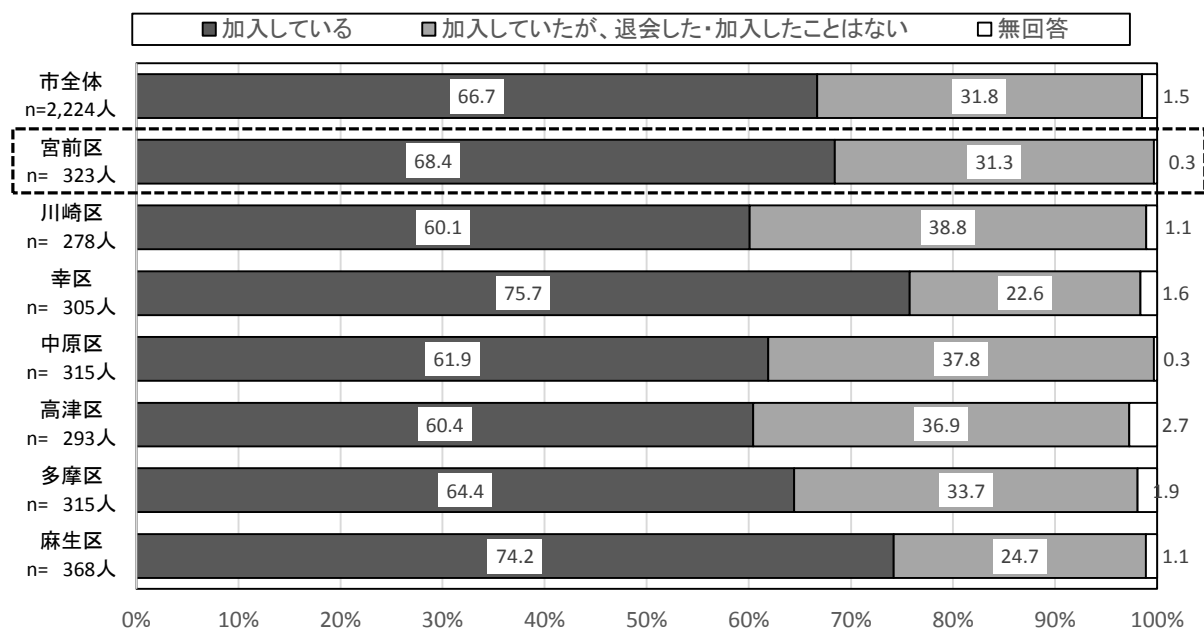


【参考】第4回調査結果



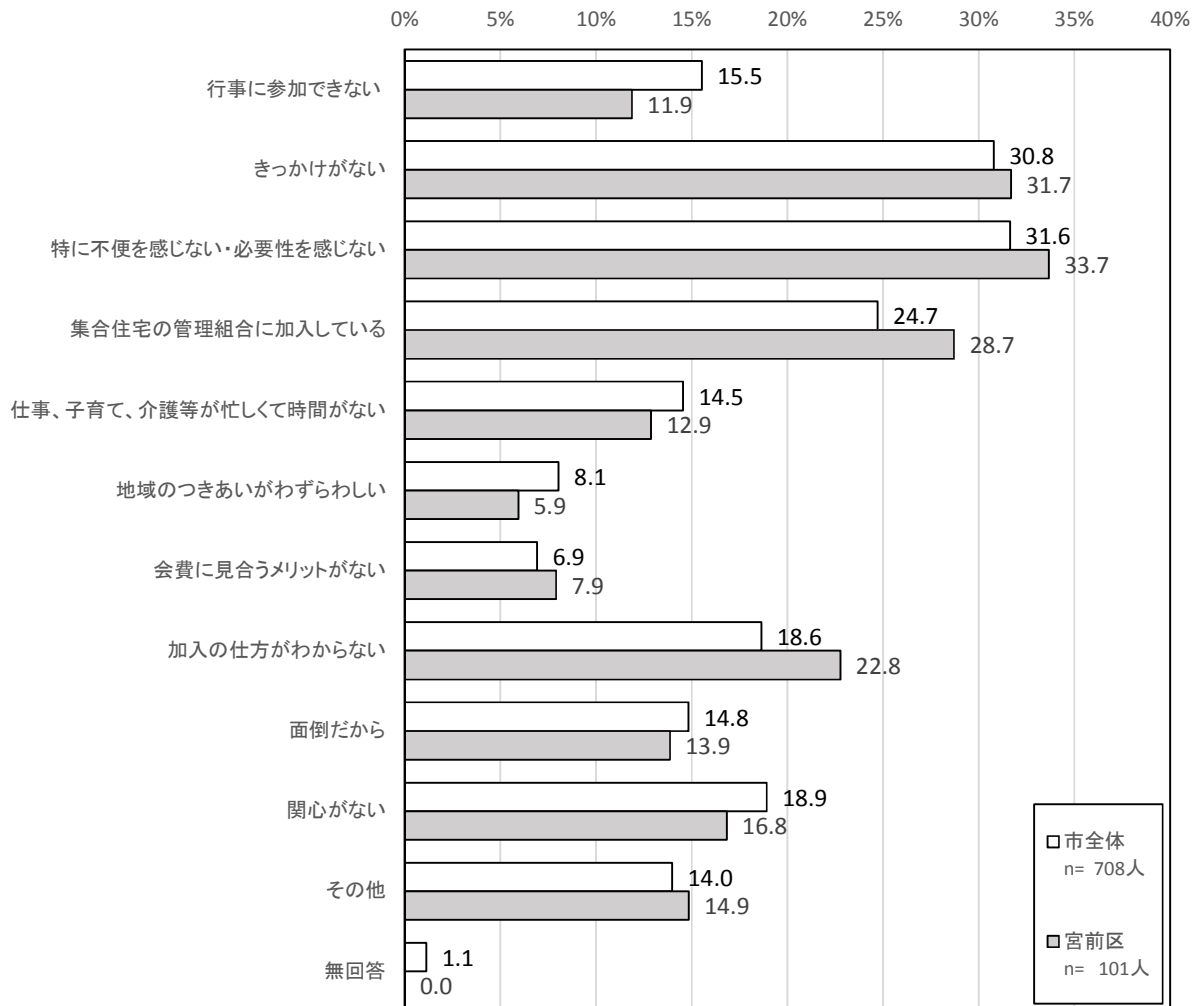
問 16 現在、町内会・自治会に加入していますか。(1つに○)

宮前区では、「加入している」割合が68.4%で市全体(66.7%)を上回っている。市内6区と比較すると、「加入している」割合は3番目に高くなっている。



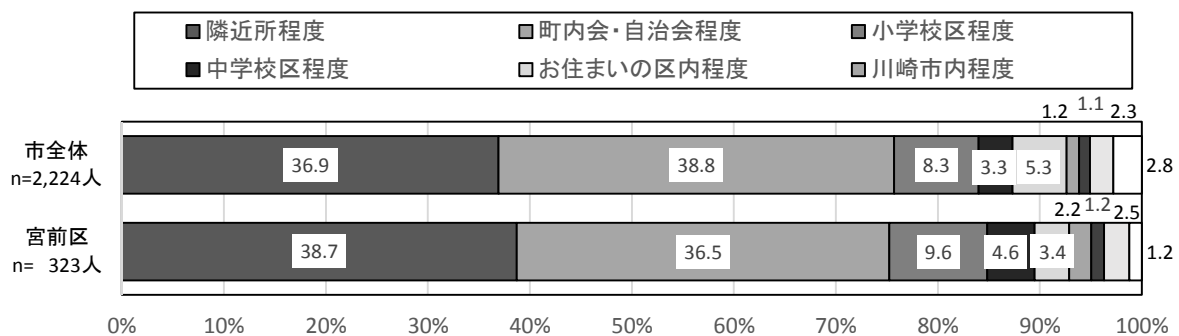
問 16 - 1 《問 16 で「加入していたが、退会した・加入したことはない」とお答えの方》現在加入していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

宮前区では、「特に不便を感じない・必要性を感じない」の割合が 33.7% で市全体（31.6%）を上回っている。また、「きっかけがない」が 31.7% で 2 番目に高くなっている。



問 17 あなたは、助けあいをすることができる「地域」の範囲を、どの程度だとお考えですか。（1つに○）

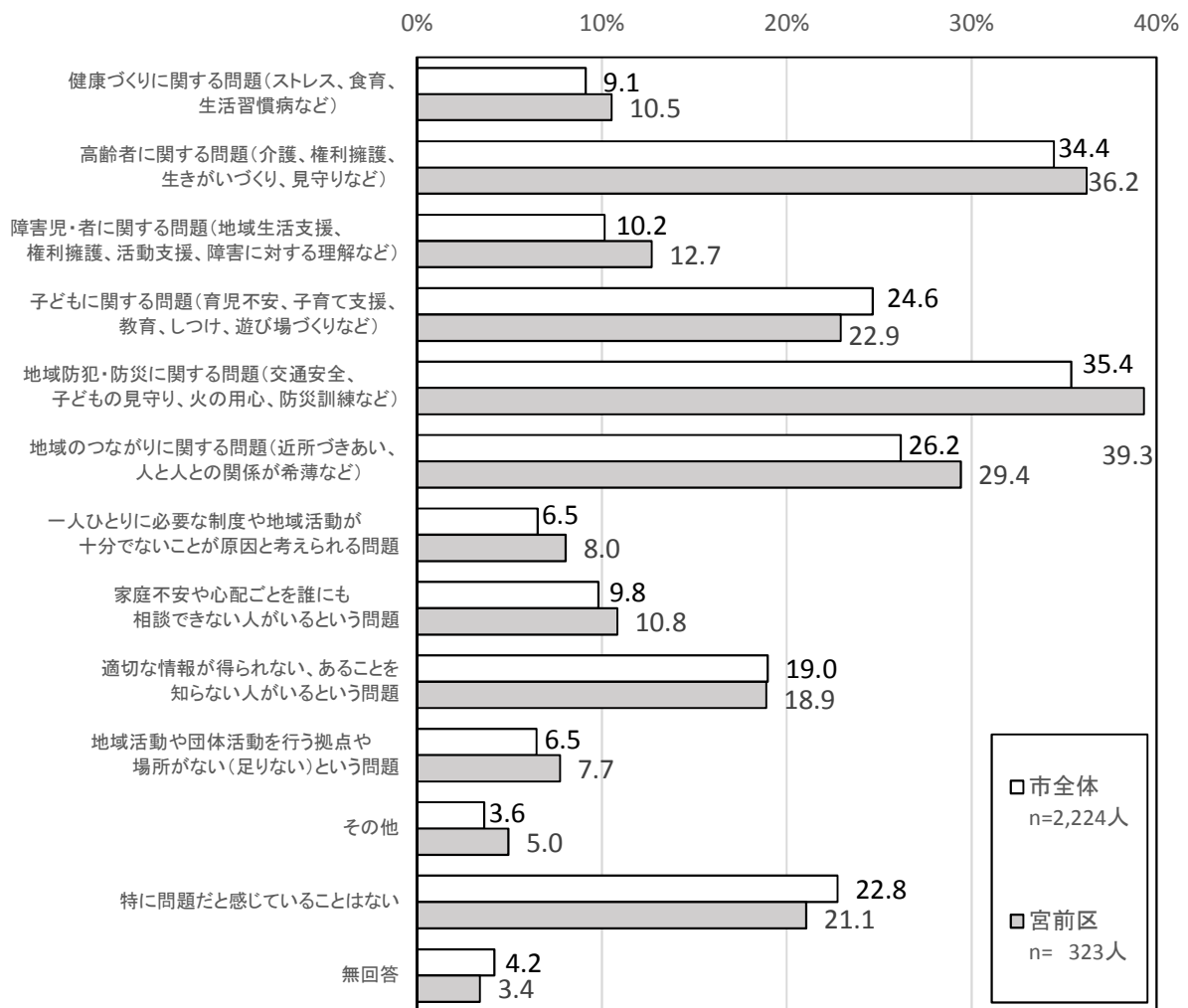
宮前区では、「町内会・自治会」の割合が 36.5% で市全体（38.8%）を下回っている。



問 18 あなたは、その「地域」において、いま何が問題だと感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

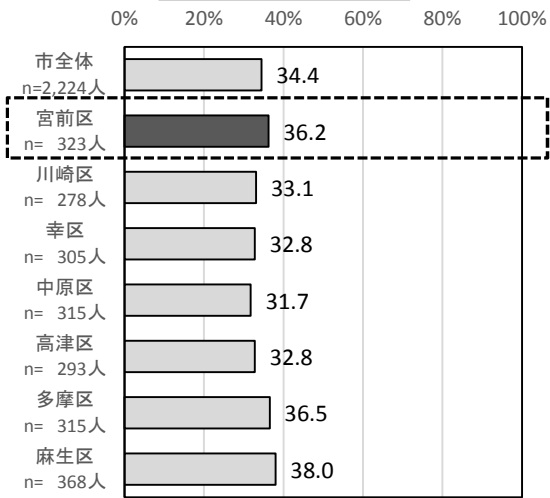
宮前区では、「地域防犯・防災に関する問題（交通安全、子どもの見守り、火の用心、防災訓練など）」（39.3%）、次いで「高齢者に関する問題（介護、権利擁護、生きがいつくり、見守りなど）」の割合が36.2%、「地域のつながりに関する問題（近所づきあい、人と人との関係が希薄など）」（29.4%）となっている。

市内6区と比較すると、「地域防犯・防災に関する問題」（39.3%）については2番目に高い。また、「高齢者に関する問題（介護、権利擁護、生きがいつくり、見守りなど）」（36.2%）は3番目に高く、「適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題」（18.9%）は3番目に低くなっている。

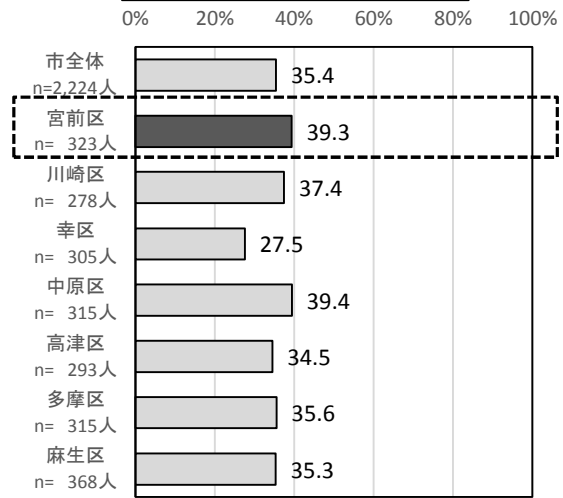


【参考】

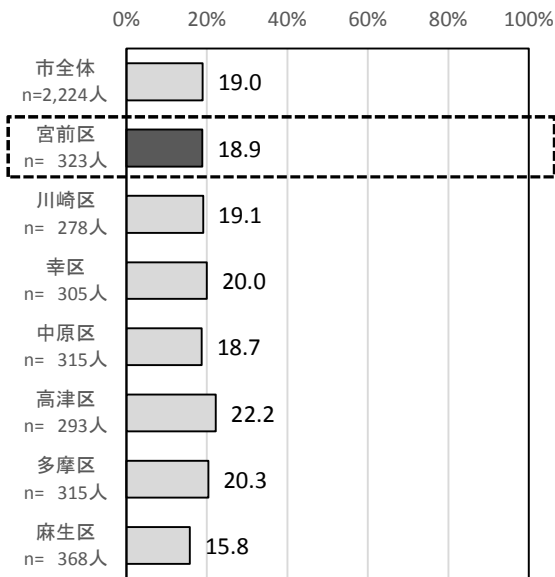
高齢者に関する問題



地域防犯・防災に関する問題

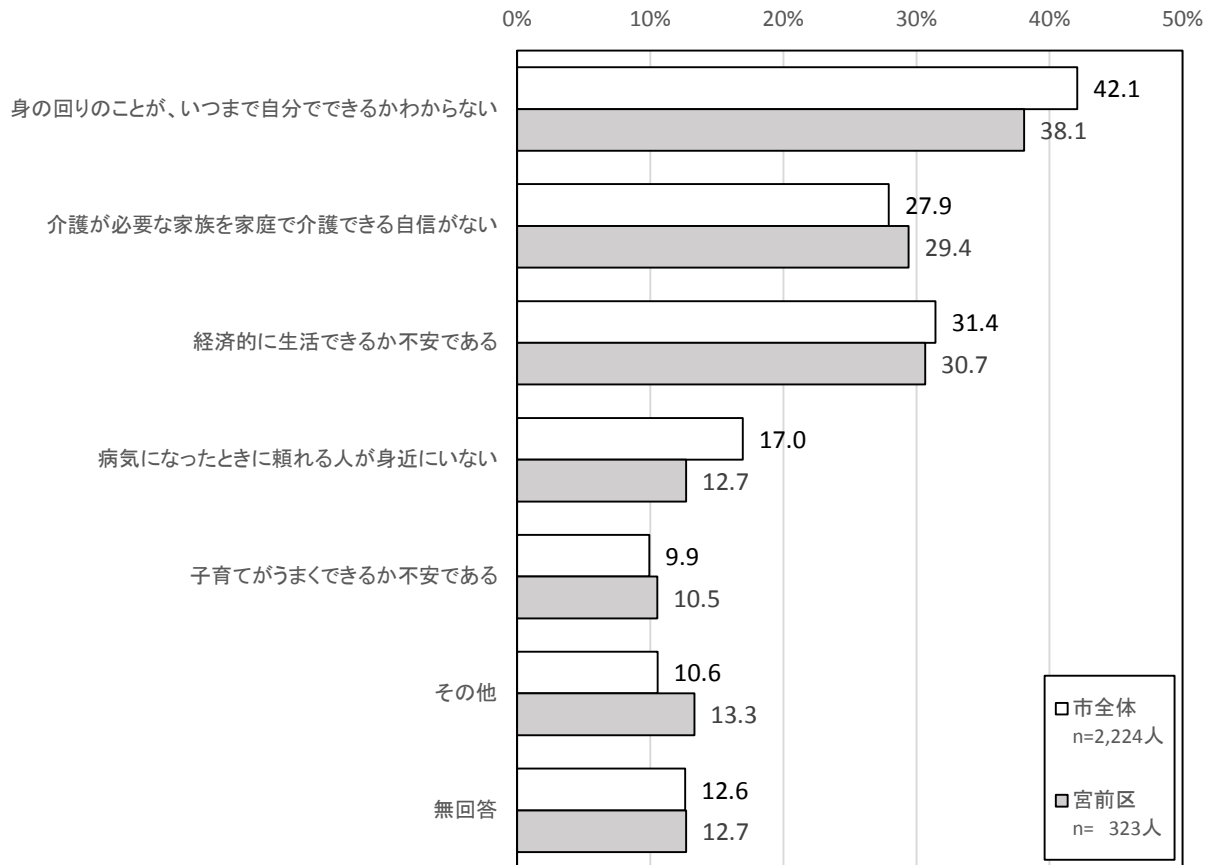


適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題



問19 あなたは、家庭生活の中で次のような不安を感じたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

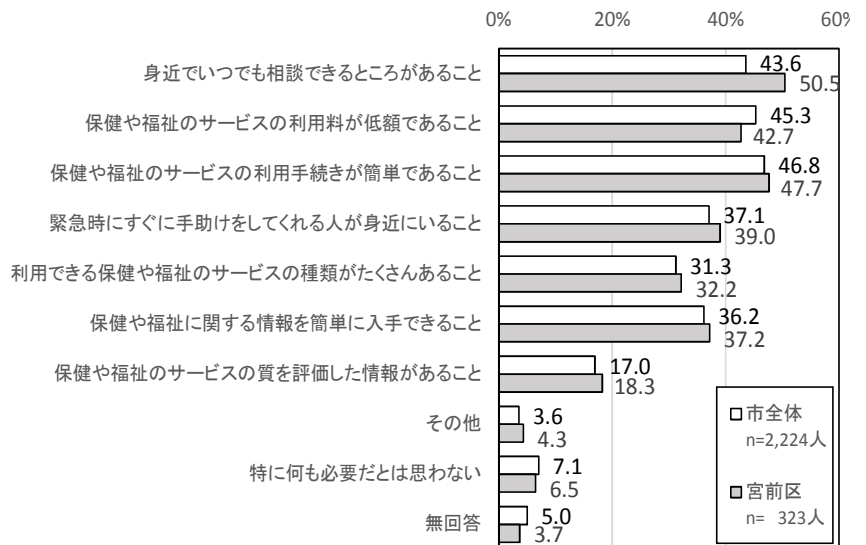
宮前区では、「身の回りのことが、いつまで自分で行えるかわからない」の割合が38.1%で最も高く、次いで「経済的に生活できるか不安である」(30.7%)、「介護が必要な家族を家庭で介護できる自信がない」(29.4%)となっている。



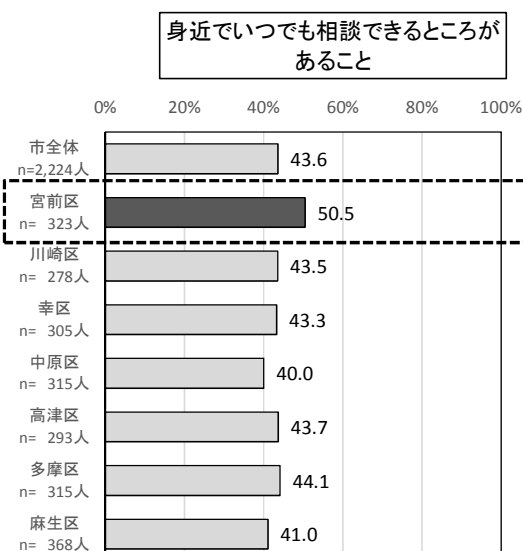
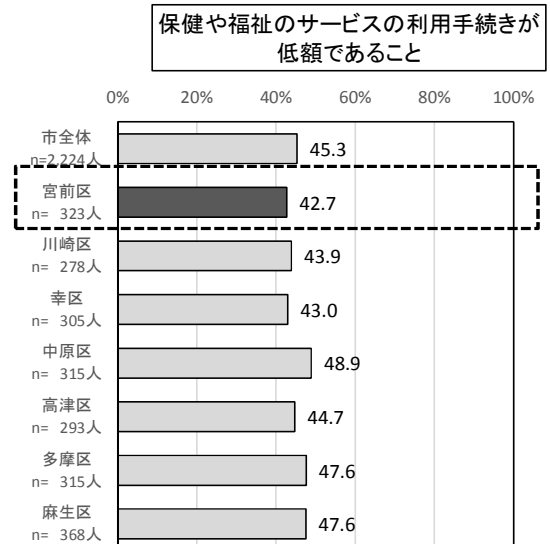
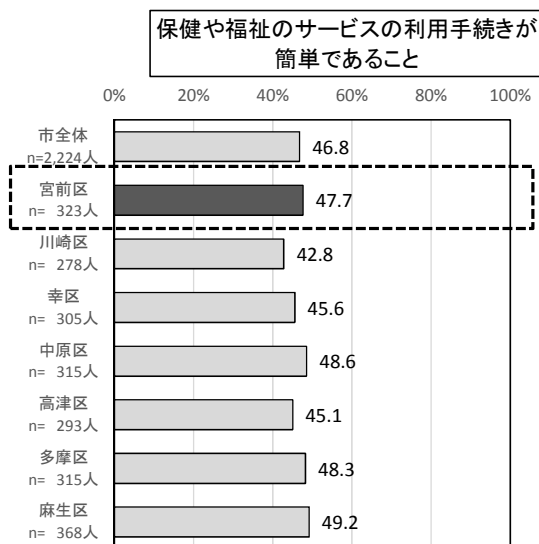
問20 あなたの心配ごとを解決するために必要だと思われることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

宮前区では、「身近でいつでも相談できるところがあること」が50.5%で市全体(43.6%)を上回っている。

市内6区と比較すると、「身近でいつでも相談できるところがあること」が最も高く、宮前区で2番目に高い「保健や福祉のサービスの利用手続きが簡単であること」は、市全体の割合に最も近い。また、「保健や福祉のサービスの利用手続きが低額であること」が42.7%と最も低くなっている。



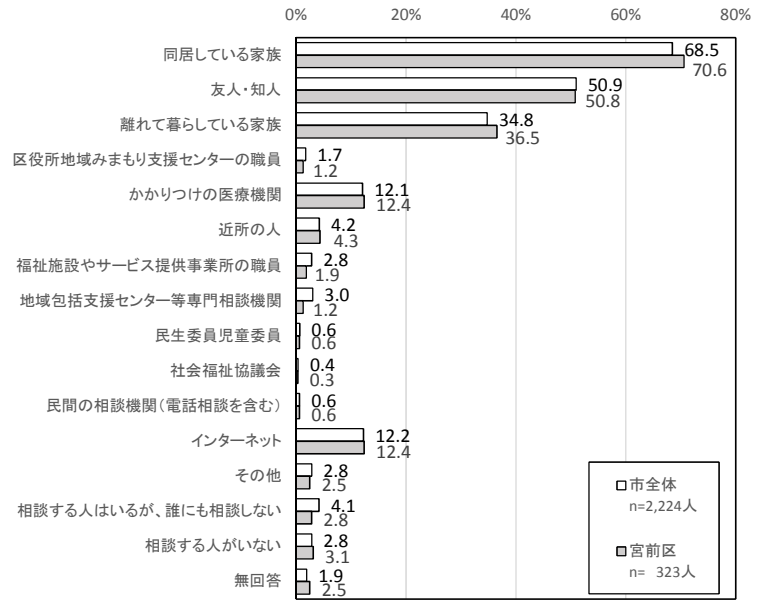
【参考】



問21 あなたは、日常生活で心配ごとや悩みごとがあるとき、誰に相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

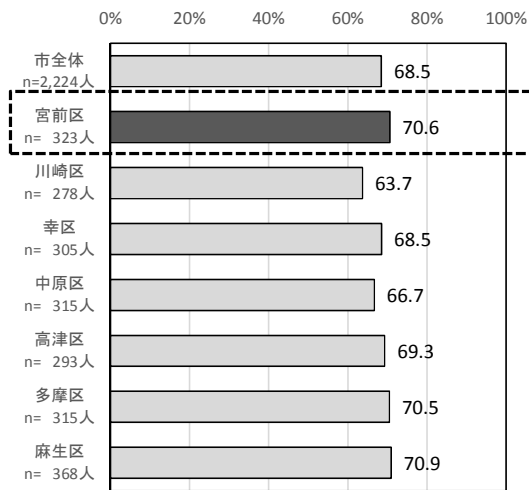
宮前区では、「同居している家族」が70.6%で最も高く、市全体(68.5%)を上回っている。

市内6区と比較すると、「同居している家族」は70.6%と2番目に高い。また、「友人・知人」(50.8%)、「離れて暮らしている家族」(36.5%)は、いずれも市全体に近くなっている。

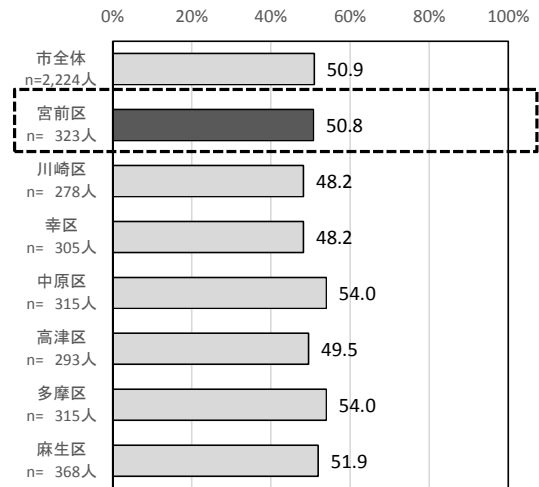


【参考】

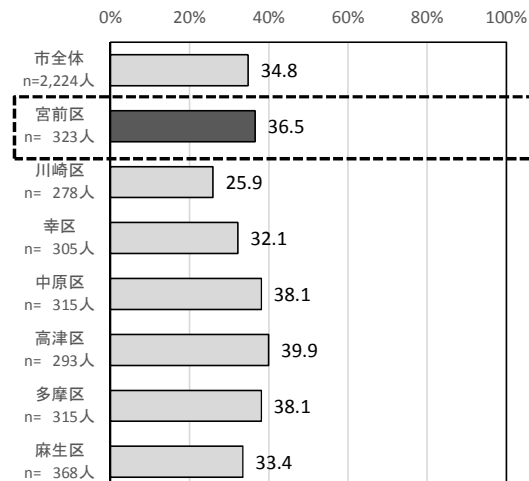
同居している家族



友人・知人

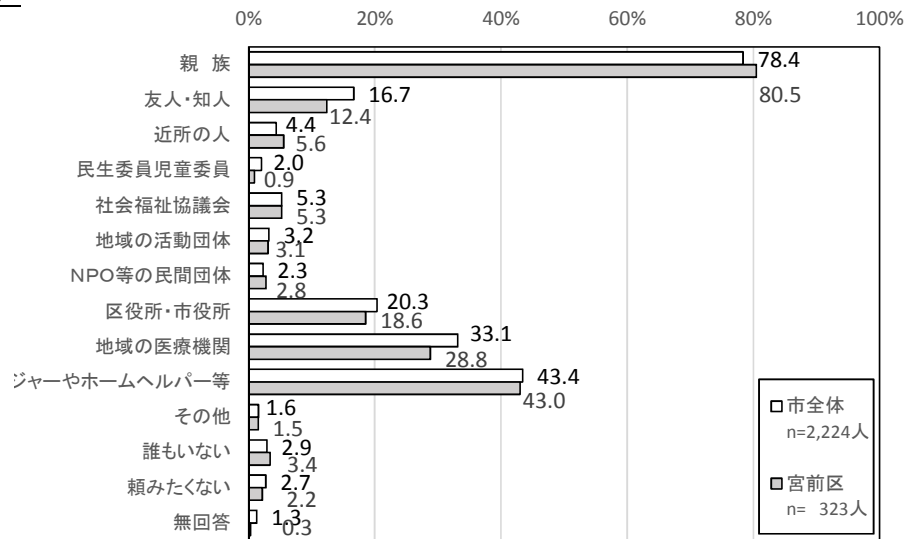


離れて暮らしている家族

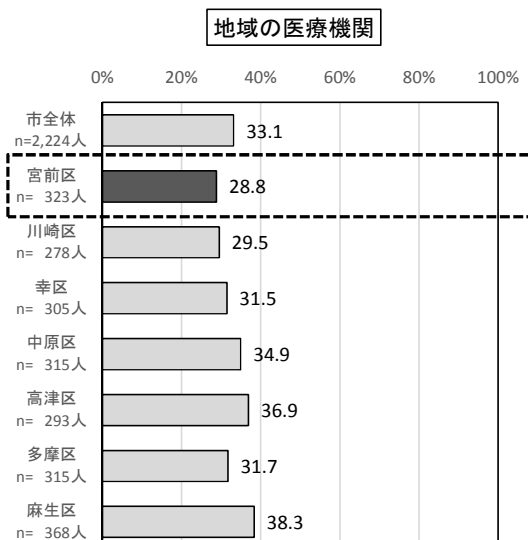
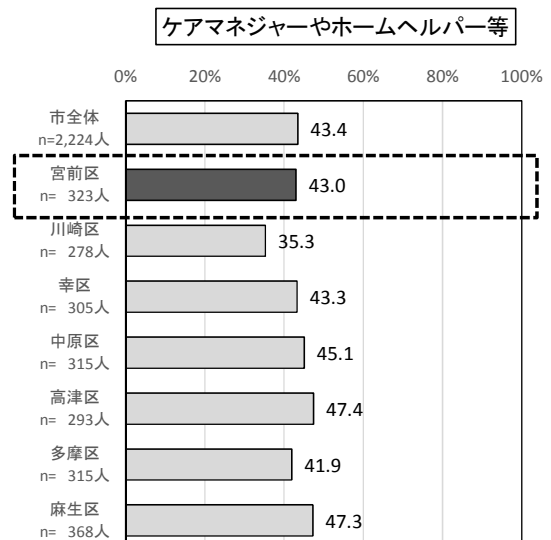
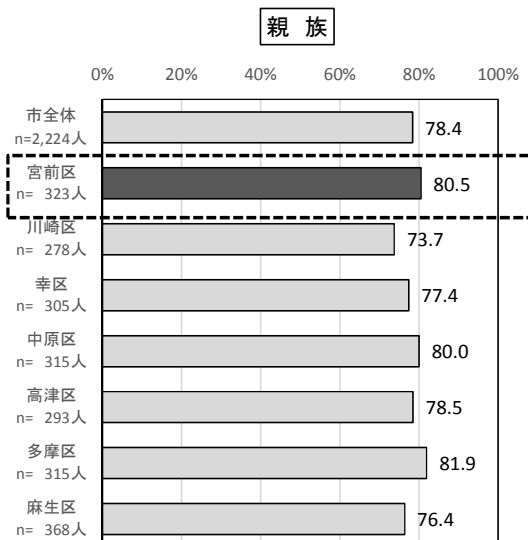


問23 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になり、助けを必要とするとき、誰に助けを頼みたいですか。（3つまでに○）

宮前区では、「親族」は80.5%で市全体（78.4%）を上回っている。市内6区と比較すると、「親族」は80.5%と2番目に高い。また、「ケアマネジャーやホームヘルパー等」は43.0%で3番目に低く、「地域の医療機関」は28.8%で最も低くなっている。



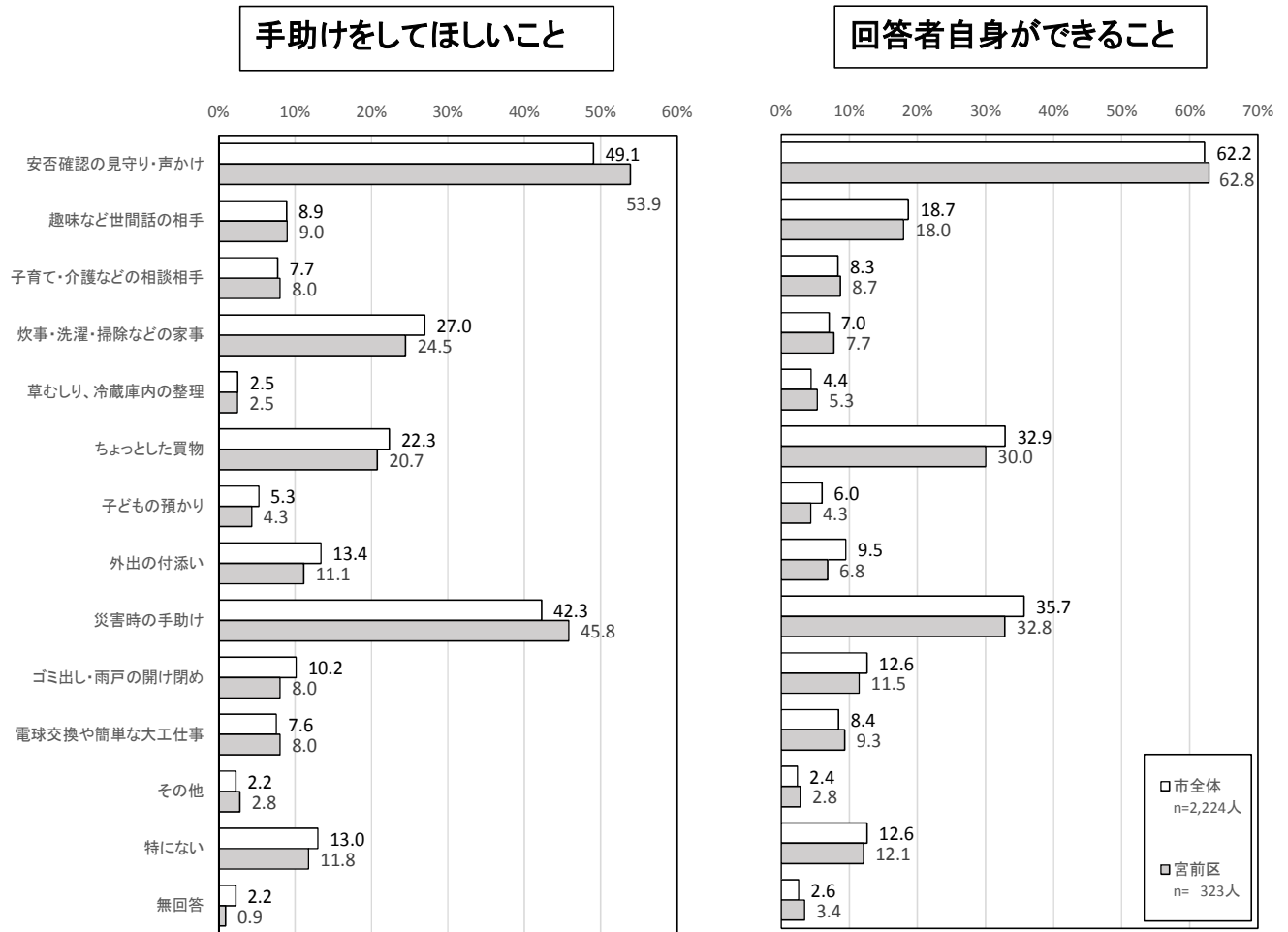
【参考】



問 24 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちにどんな手助けをしてほしいですか。（3つまでに○）

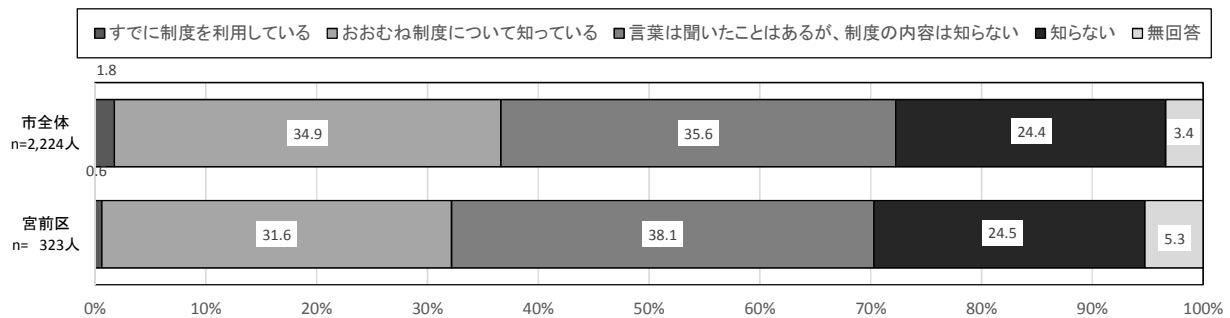
問 25 地域の高齢者や障害者、子育て家庭などが安心して暮らすことができるよう、地域の支え合いとして、あなたご自身ができることは何ですか。（3つまでに○）

宮前区では、手助けをしてほしいことについては「安否確認の見守り・声かけ」の割合が53.9%で最も高く、「災害時の手助け」（45.8%）、「炊事・洗濯・掃除などの家事」（24.5%）となっており、自身ができることについては「安否確認の見守り・声かけ」の割合が62.8%で最も高く、次いで「災害時の手助け」（32.8%）、「ちょっとした買物」（30.0%）となっている。



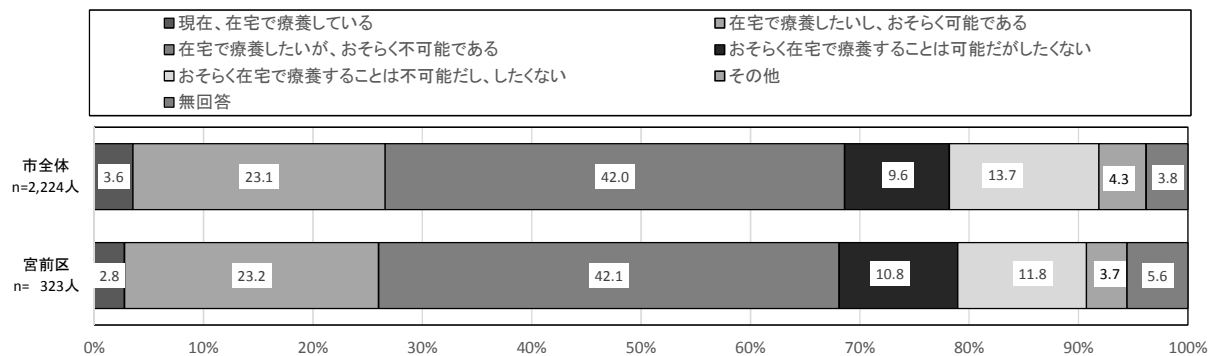
問 26 あなたは、成年後見制度を知っていますか。（1つに○）（新規設問）

宮前区では、「言葉は聞いたことはあるが、制度の内容は知らない」の割合が38.1%で最も高く、次いで「おおむね制度について知っている」の割合が31.6%で最も高く、「知らない」（24.5%）となっている。



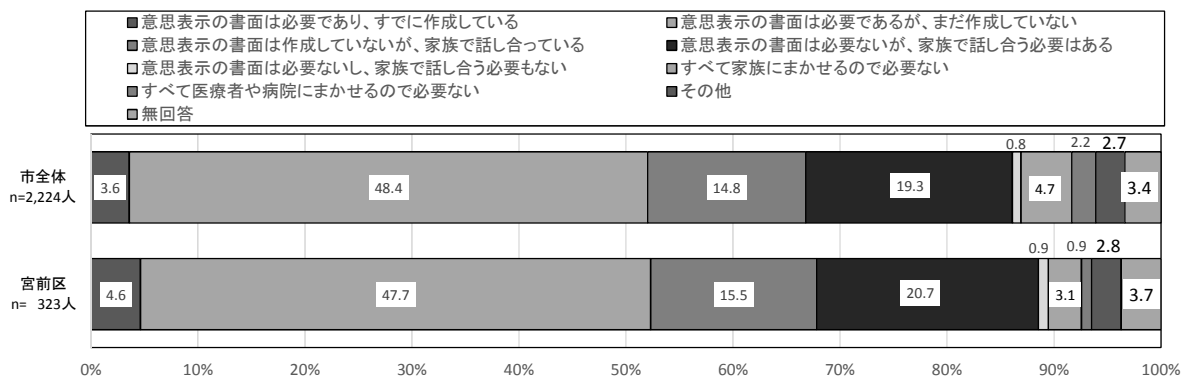
問 27 現在のあなたの生活状況・環境で、あなたやご家族が病気、けが、障害により、長期の医療や介護が必要となった場合に、病院には入院せず在宅で療養することは可能ですか。（1つに○）（新規設問）

宮前区では、「在宅で療養したいが、おそらく不可能である」の割合が42.1%で最も高く、次いで「在宅で療養したいし、おそらく可能である」（23.2%）、「おそらく在宅で療養することは不可能だし、したくない」（11.8%）となっている。



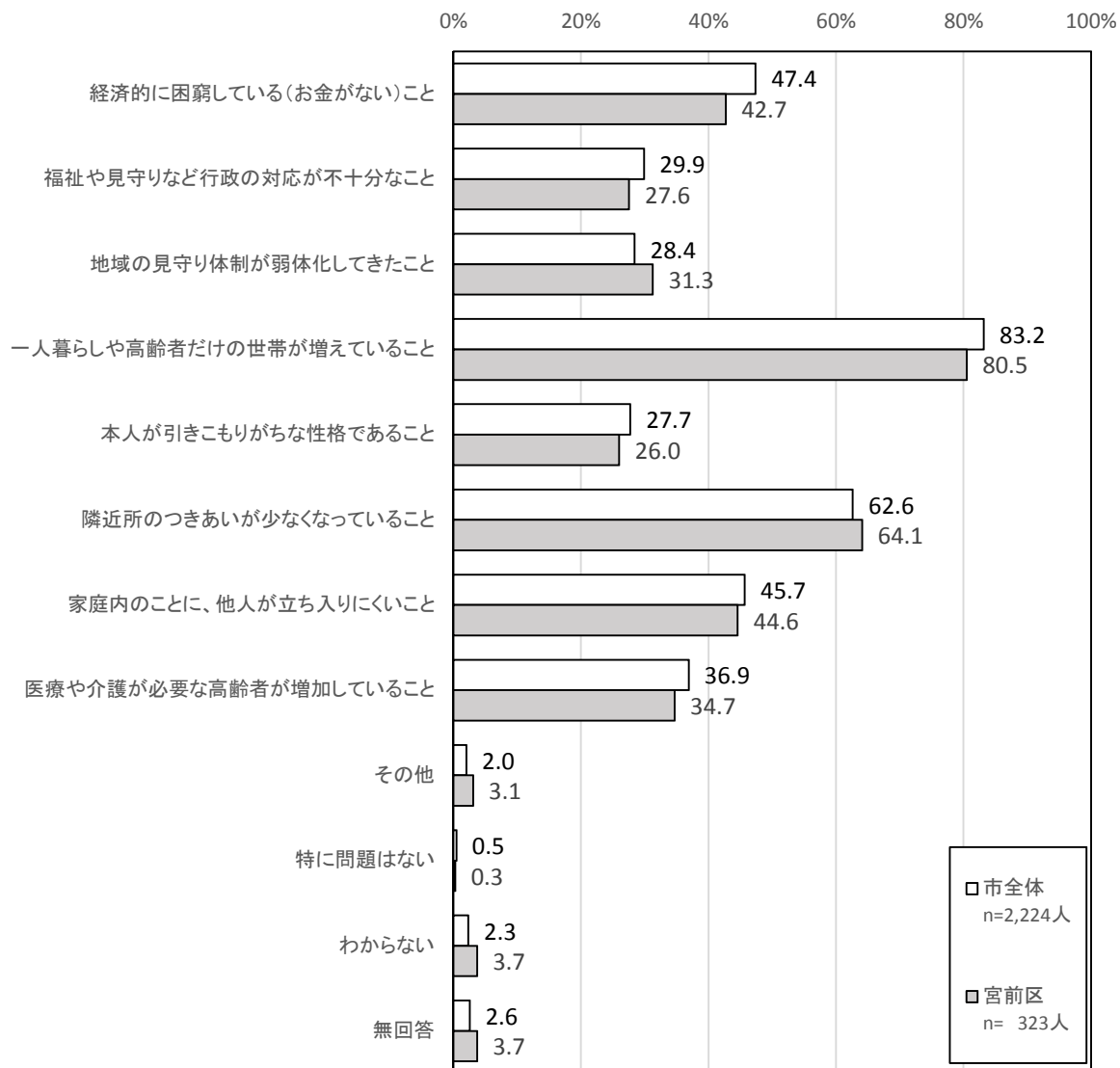
問 28 人生の最終段階における医療について、意思表示の書面や家族での話し合いが必要だと思いますか。（1つに○）（新規設問）

宮前区では、「意思表示の書面は必要であるが、まだ作成していない」の割合が47.7%で最も高く、次いで「意思表示の書面は必要ないが、家族で話し合う必要はある」（20.7%）、「意思表示の書面は作成していないが、家族で話し合っている」（15.5%）となっている。



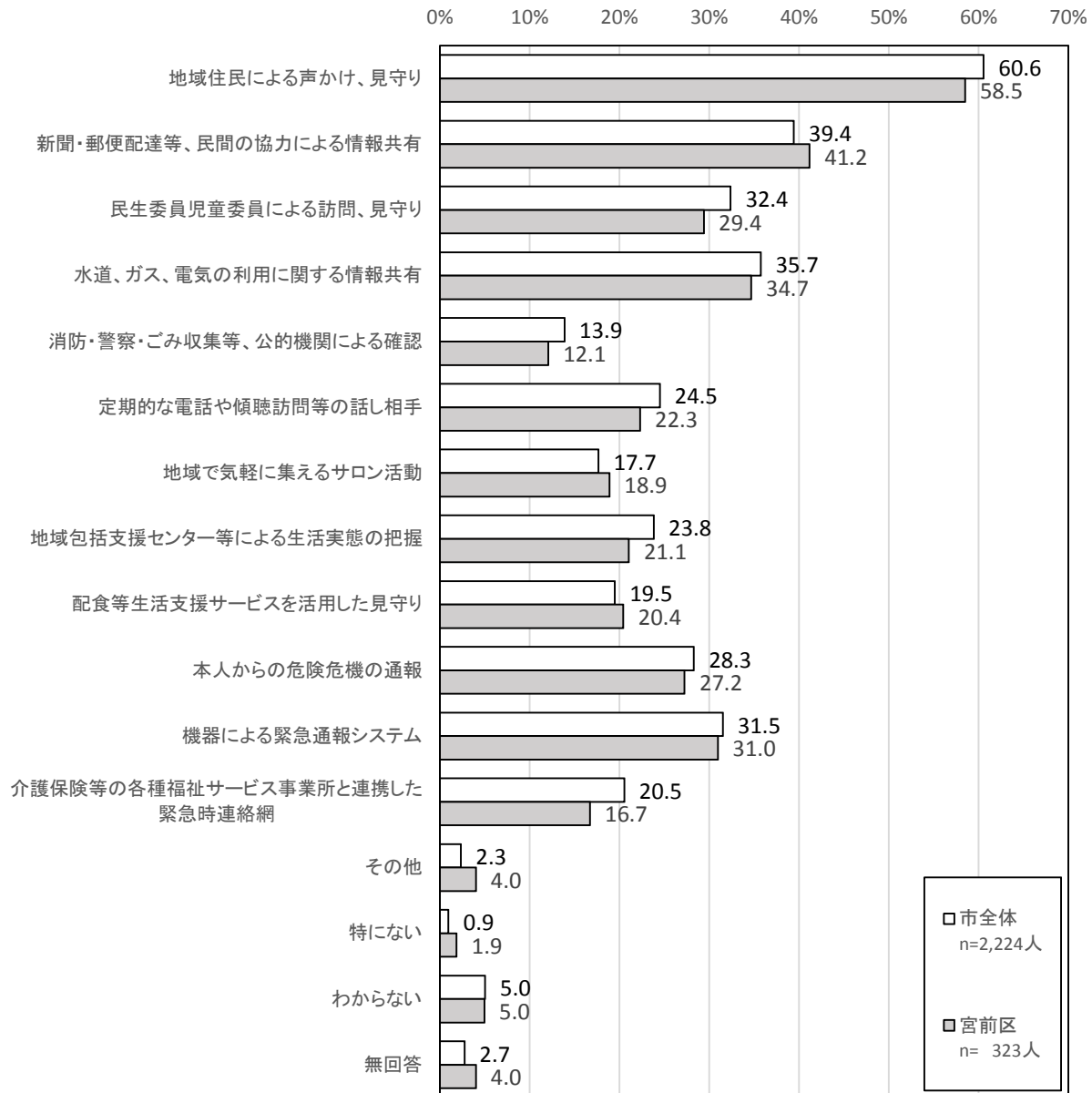
問29 近年、誰にも気づかれずに死亡し、しばらくして発見されるという孤立死が社会問題となっています。孤立死が生じる原因として、どれが大きな問題だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

宮前区では、「一人暮らしや高齢者だけの世帯が増えていること」の割合が80.5%で最も高く、次いで「隣近所のつきあいが少なくなっていること」(64.1%)、「家庭内のことに、他人が立ち入りにくいこと」(44.6%)となっている。



問 30 孤立死を防ぐために、どのようなことが有効だと思いますか。特に有効だと思うものを5つまで選んで○をつけてください。(5つまでに○)

宮前区では、「地域住民による声かけ、見守り」の割合が58.5%で最も高く、次いで「新聞・郵便配達等、民間の協力による情報共有」(41.2%)、「水道、ガス、電気の利用に関する情報共有」(34.7%)となっている。

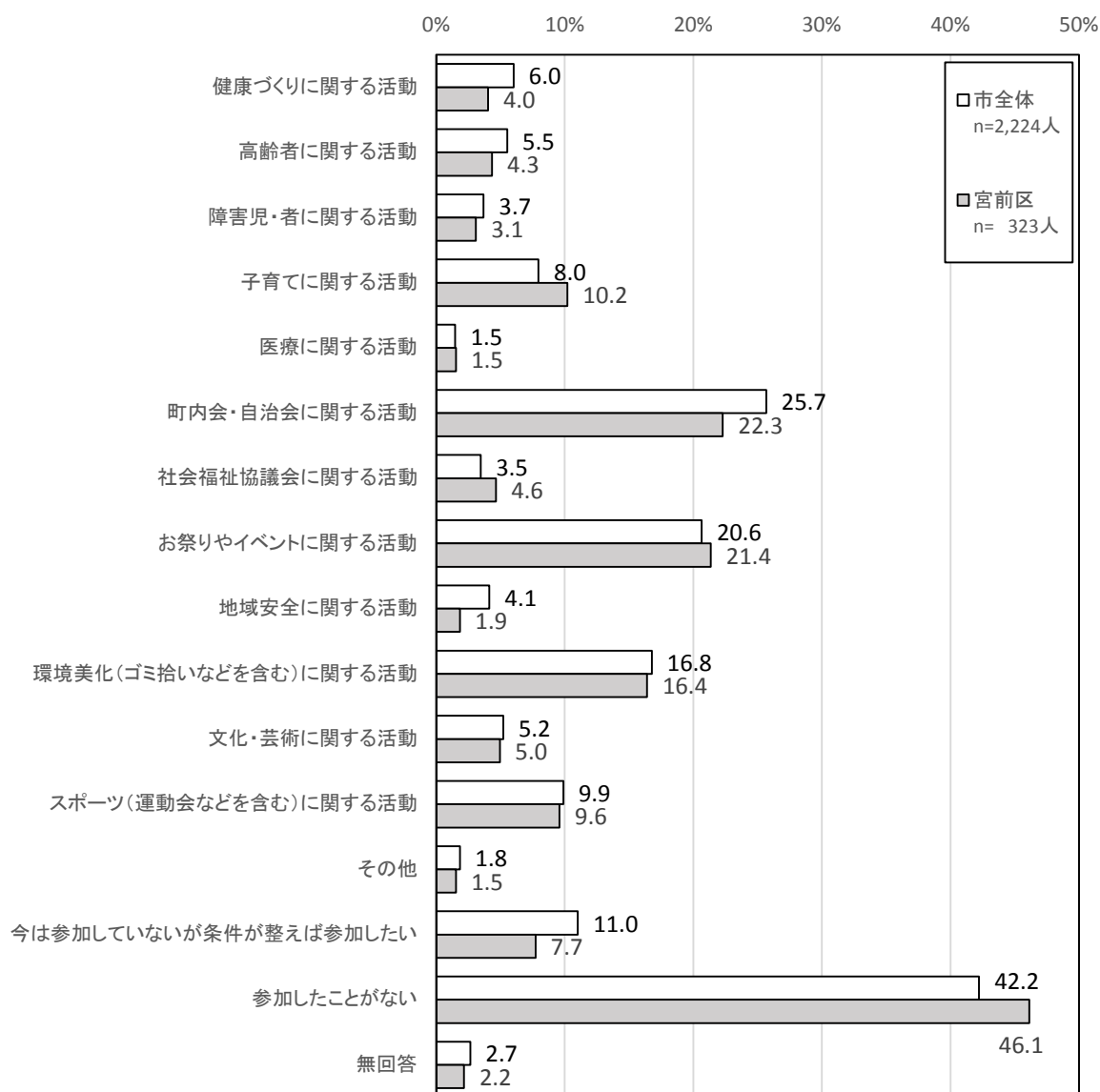


4. 地域活動やボランティア活動について

問 31 あなたは、次のような地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。現在参加しているものも含めてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

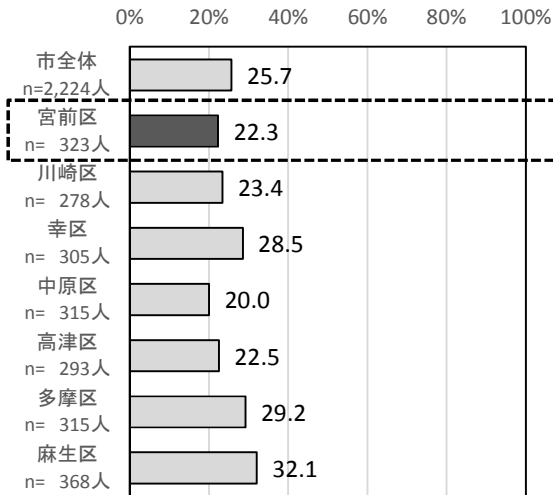
宮前区では、「参加したことがない」の割合が46.1%で最も高く、次いで「町内会・自治会に関する活動」（22.3%）、「お祭りやイベントに関する活動」（21.4%）となっている。

市内6区と比較すると、「社会福祉協議会に関する活動」（4.6%）については、2番目に高く、「町内会・自治会に関する活動」（22.3%）は2番目に低くなっている。また「環境美化に関する活動」の割合は16.4%で市全体の割合に近い。

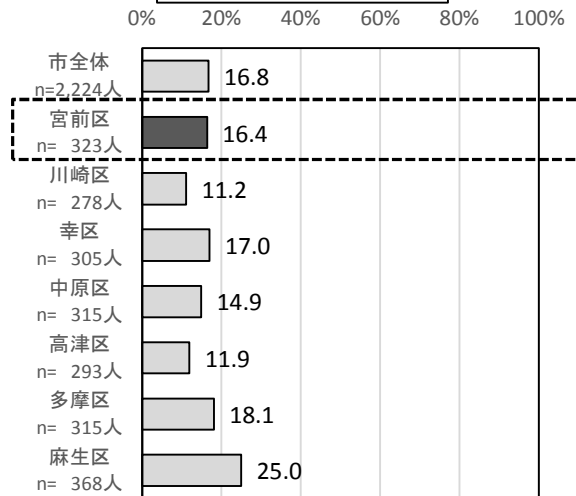


【参考】

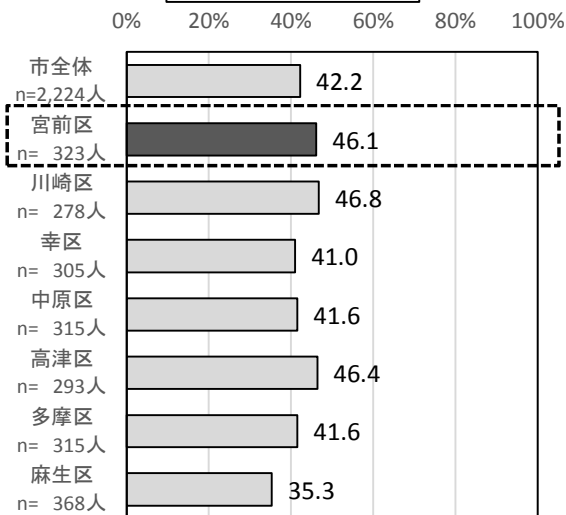
町内会・自治会に関する活動



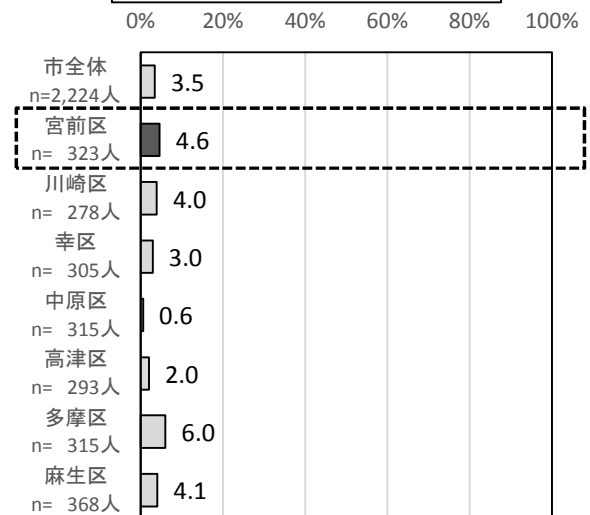
環境美化に関する活動



参加したことがない



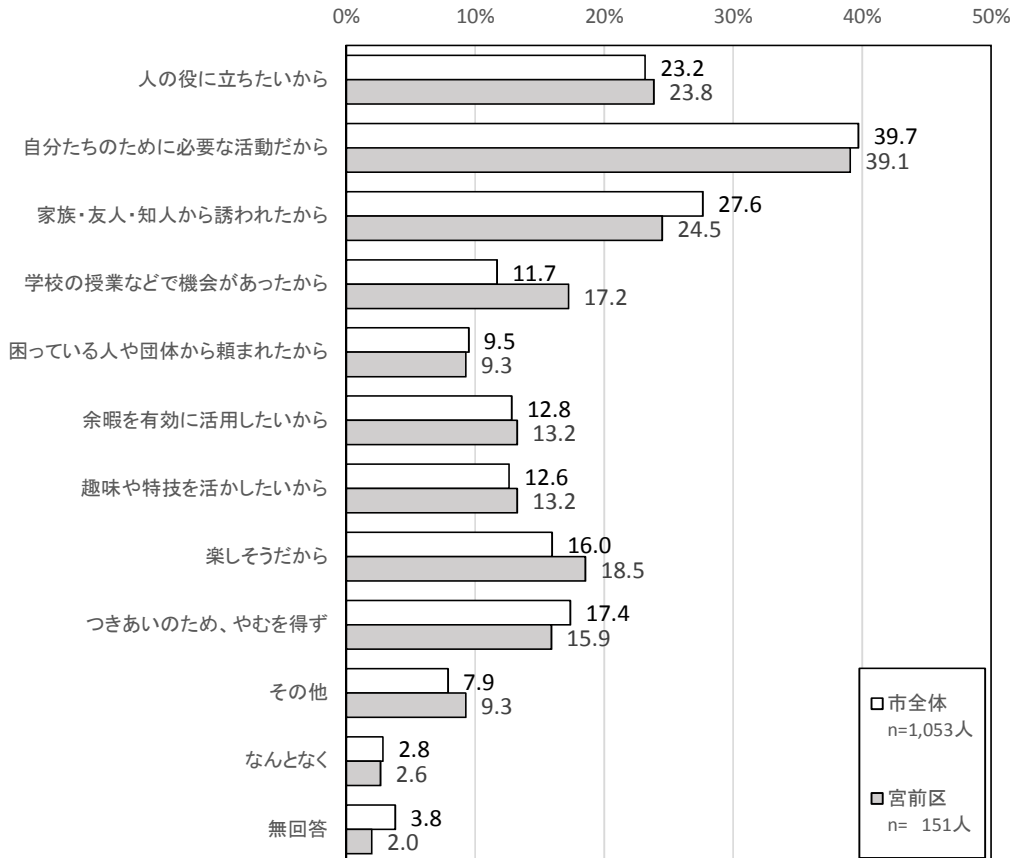
社会福祉協議会に関する活動



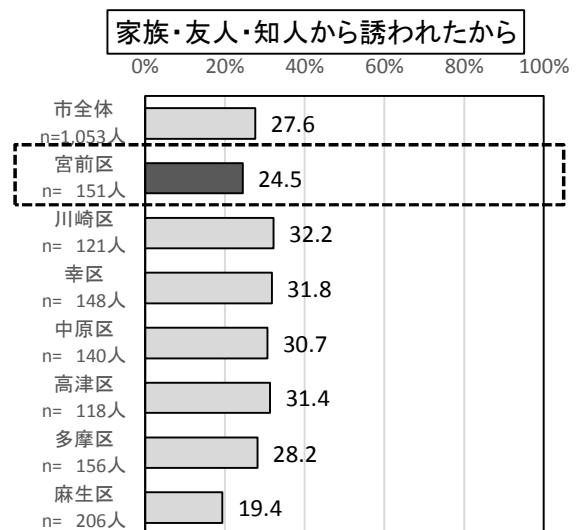
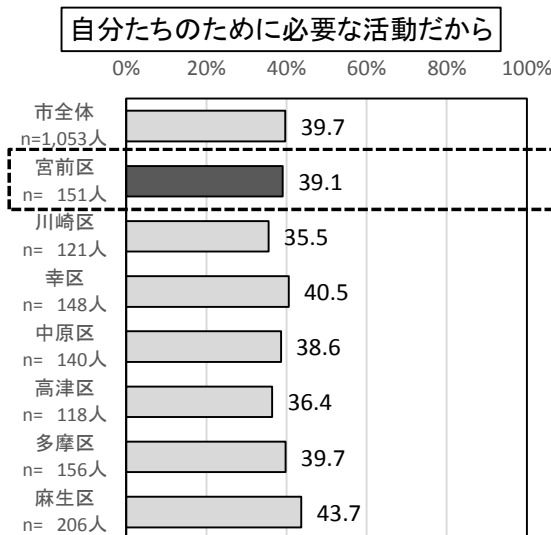
問31-1 《問31で「1」～「13」のいずれか（ボランティア活動に参加したことがある）にお答えの方》活動に参加した動機やきっかけは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

宮前区では、「自分たちのために必要な活動だから」の割合が39.1%で最も高く、次いで「家族・友人・知人から誘われたから」（24.5%）、「人の役に立ちたいから」（23.8%）となっている。

市内6区と比較すると、「家族・友人・知人から誘われたから」の割合は24.5%と2番目に低く、「自分たちのために必要な活動だから」の割合は39.1%と市全体の割合に近い。



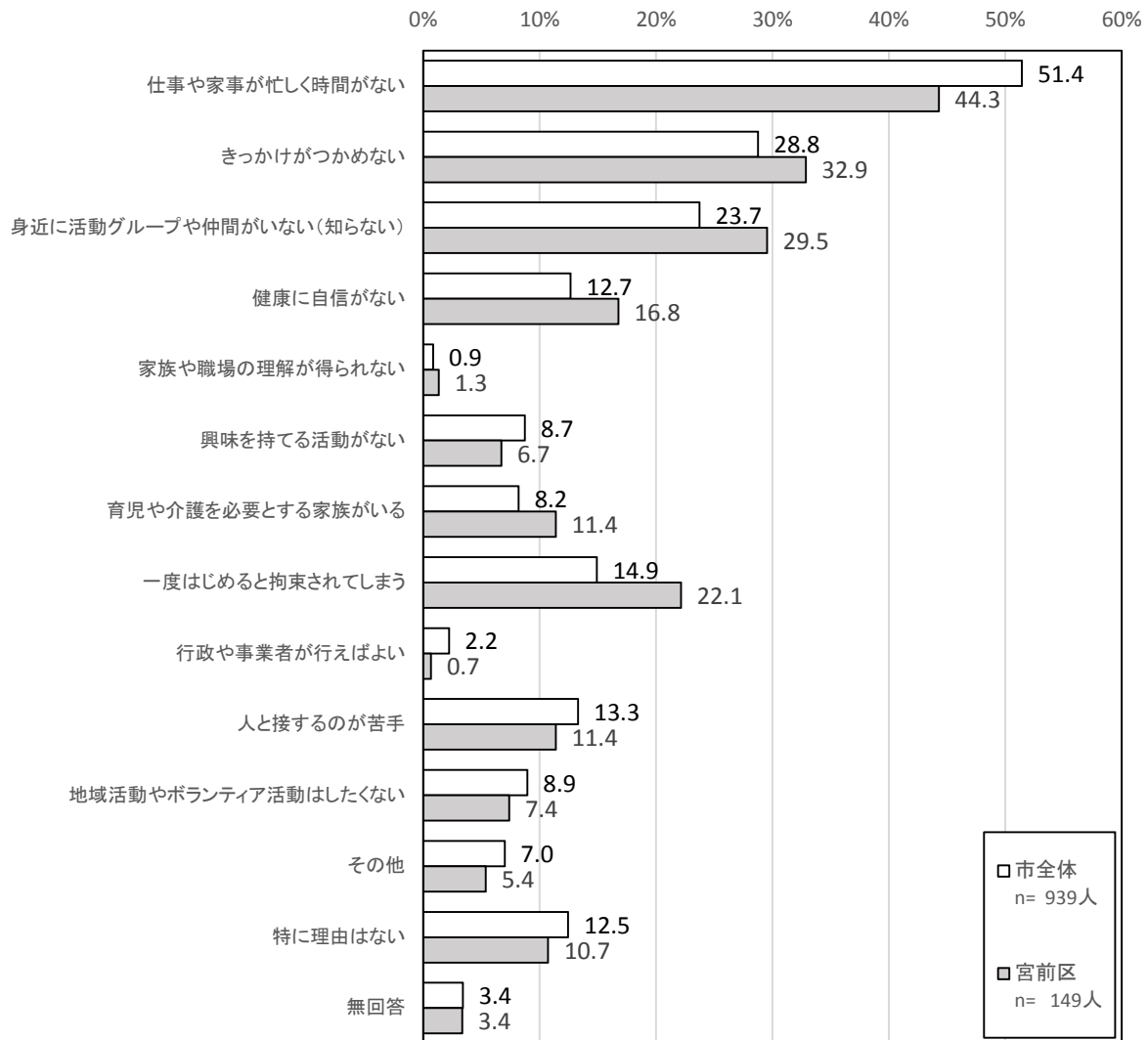
【参考】



問31-6 《問31で「参加したことがない」にお答えの方》

あなたが、地域活動やボランティア活動に参加したことがない理由は、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

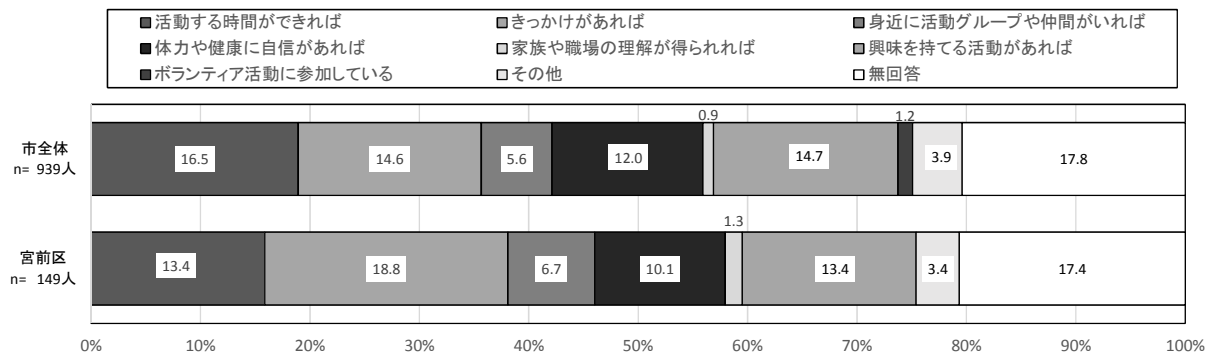
宮前区では、「仕事や家事が忙しく時間がない」の割合が44.3%で最も高く、次いで「きっかけがつかめない」(32.9%)、「身近に活動グループや仲間がいない(知らない)」(29.5%)となっている。



問31-7 《問31で「参加したことがない」にお答えの方》

あなたは、どのような状況になれば、地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。(1つに○)

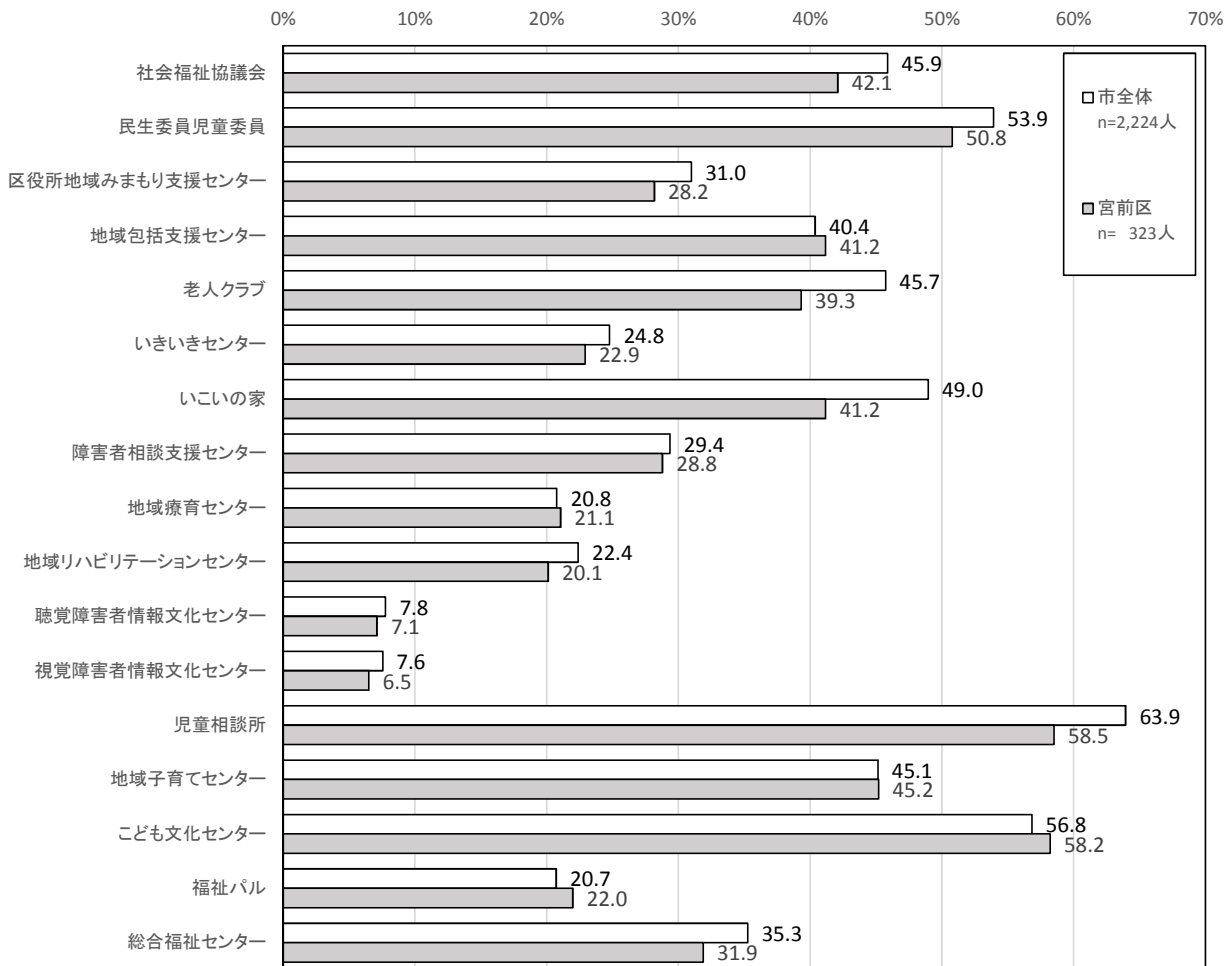
宮前区では、「きっかけがあれば」の割合は18.8%と最も高く、次いで「活動する時間ができれば」、「興味を持てる活動があれば」(13.4%)が2番目に高くなっている。



5. 保健・福祉に関することについて

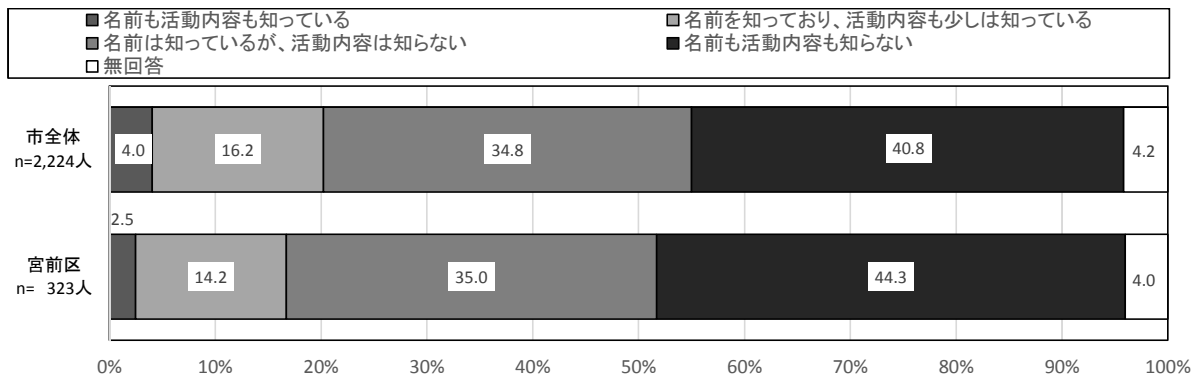
問 32 あなたは、次の保健や福祉の団体・施設等をご存じですか。（団体・施設等について「知っている」「知らない」のいずれか1つに○）

宮前区では、「児童相談所」の割合が58.5%で最も高く、次いで「こども文化センター」（58.2%）、「民生委員児童委員」（50.8%）となっている。



問 33 あなたは、地区・区社会福祉協議会についてどの程度ご存じですか。(1つに○)

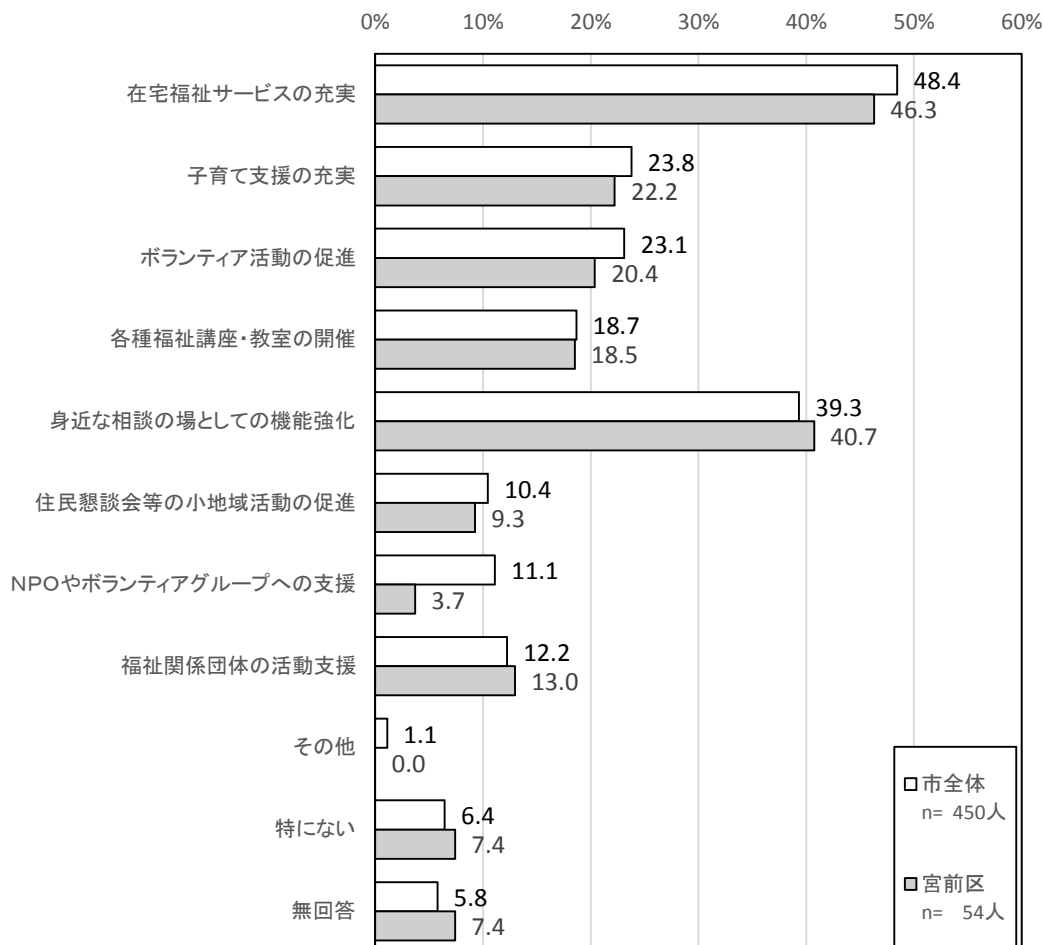
宮前区では、「名前も活動内容も知っている」、「名前を知っており、活動内容も少しは知っている」の合計が16.7%で、市全体(20.2%)を下回っている。



問 33 - 1 《問 33 で「名前も活動内容も知っている」「名前を知っており、活動内容も少しは知っている」にお答えの方》

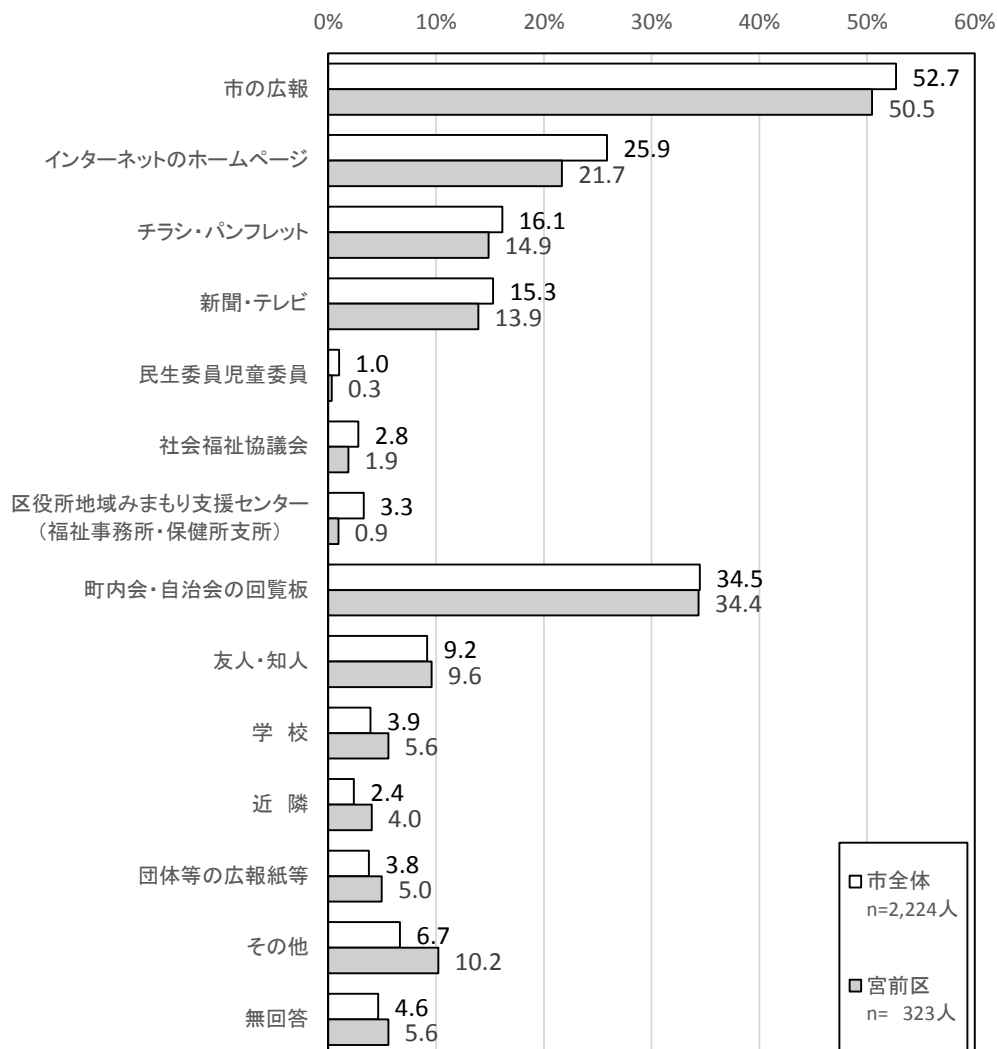
あなたは、地区・区社会福祉協議会の活動として、今後どのようなことを期待していますか。(3つまでに○)

宮前区では、「在宅福祉サービスの充実」の割合が46.3%で最も高く、次いで「身近な相談の場としての機能強化」(40.7%)、「子育て支援の充実」(22.2%)となっている。



問34 あなたは、保健や福祉の情報をどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

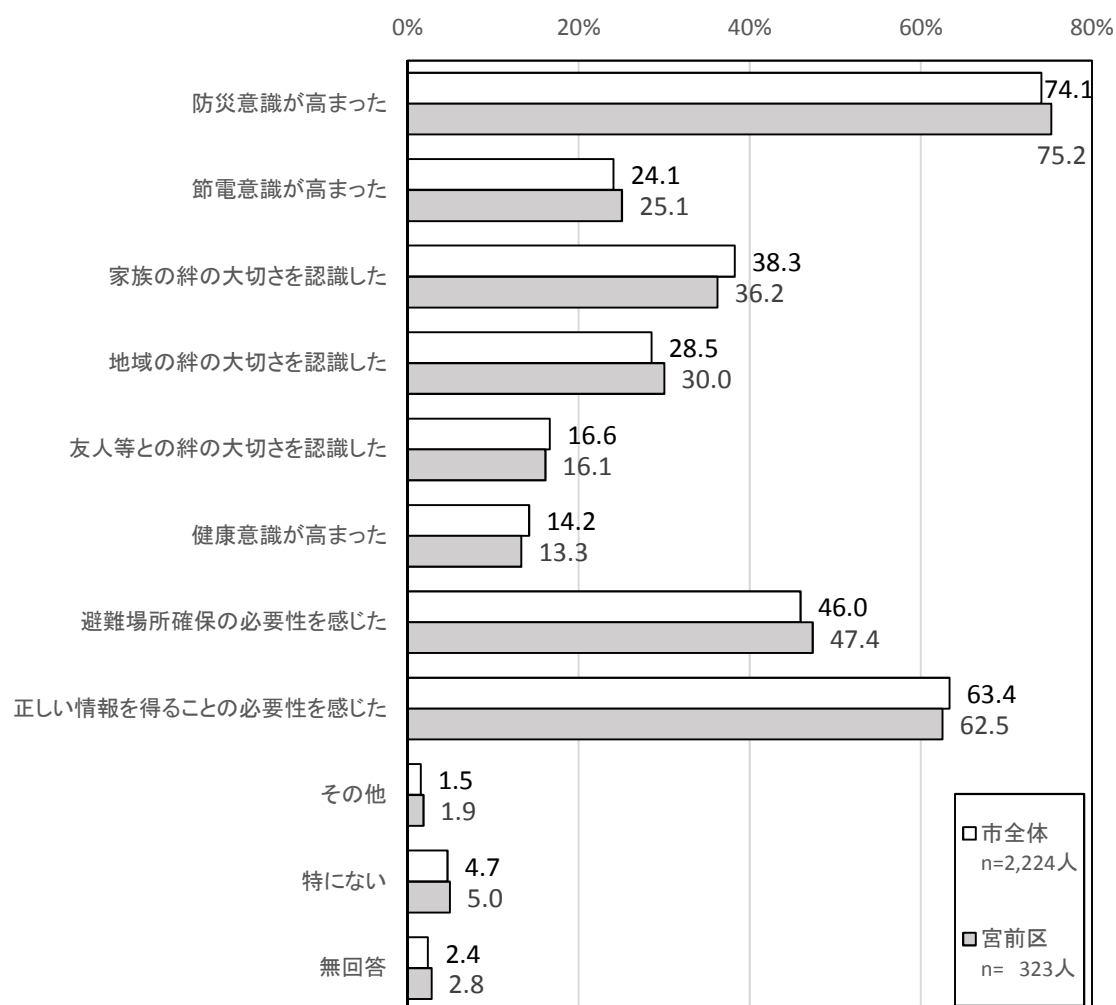
宮前区では、「市の広報」の割合が 50.5%で最も高く、次いで「町内会・自治会の回覧板」(34.4%)、「インターネットのホームページ」(21.7%)となっている。



6. 東日本大震災後の意識の変化について

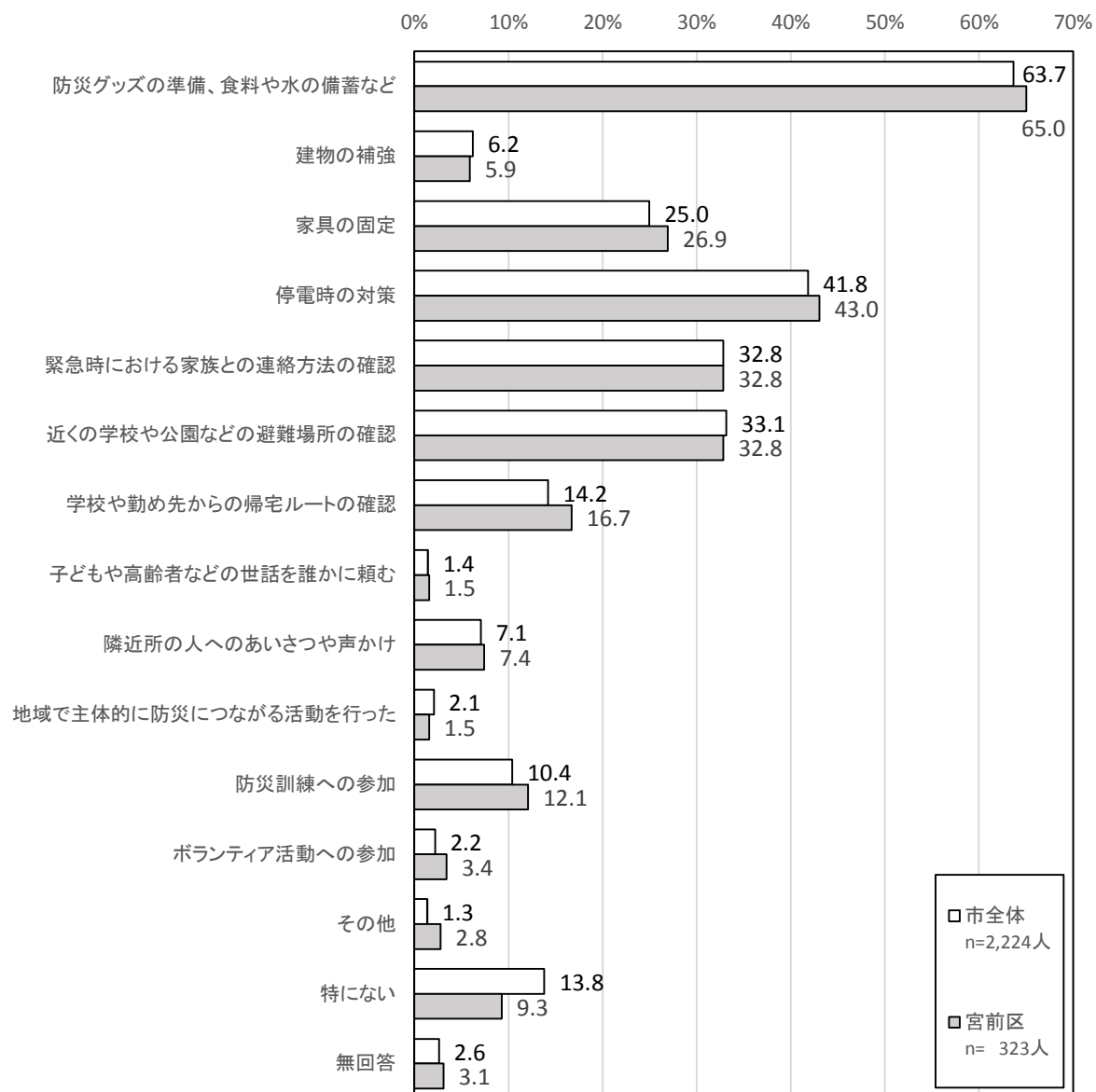
問 36 平成 23 年 3 月に起きた東日本大震災の後、あなたの意識に変化がありましたか。(あてはまるものすべてに○)

宮前区では、「防災意識が高まった」の割合が 75.2%で最も高く、次いで「正しい情報を得ることの必要性を感じた」(62.5%)、「避難場所確保の必要性を感じた」(47.4%)となっている。



問37 平成23年3月に起きた東日本大震災の後、あなたが新たに始めたり強化したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

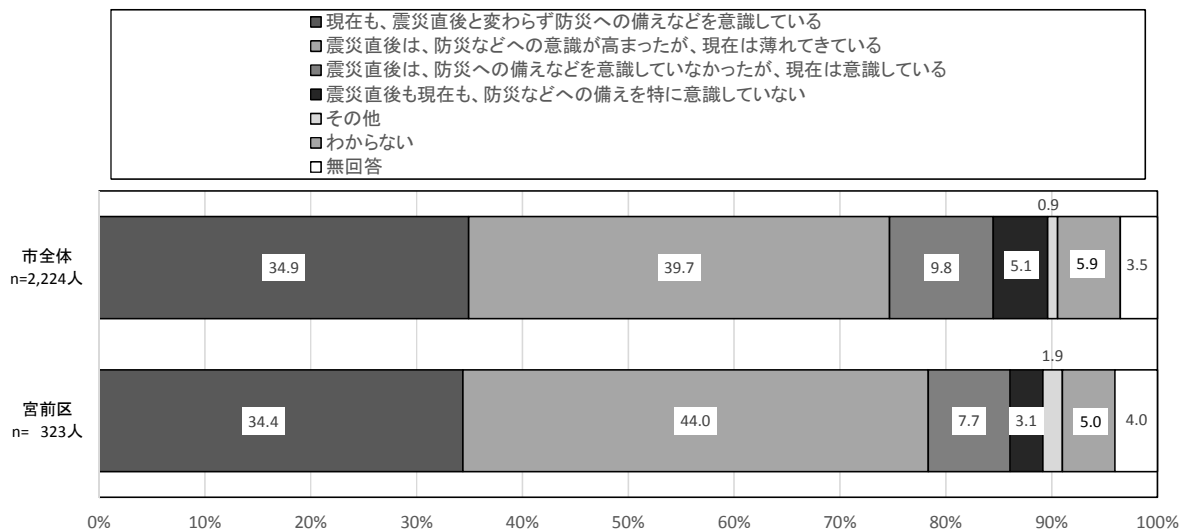
宮前区では、「防災グッズの準備、食料や水の備蓄など」の割合が65.0%で最も高く、次いで「停電時の対策」(43.0%)、「緊急時における家族との連絡の方法の確認」及び「近くの学校や公園などの避難場所の確認」(32.8%)となっている。



問 38 東日本大震災から8年が経ちましたが、震災直後と比べて、現在のあなたの意識は変化しましたか。

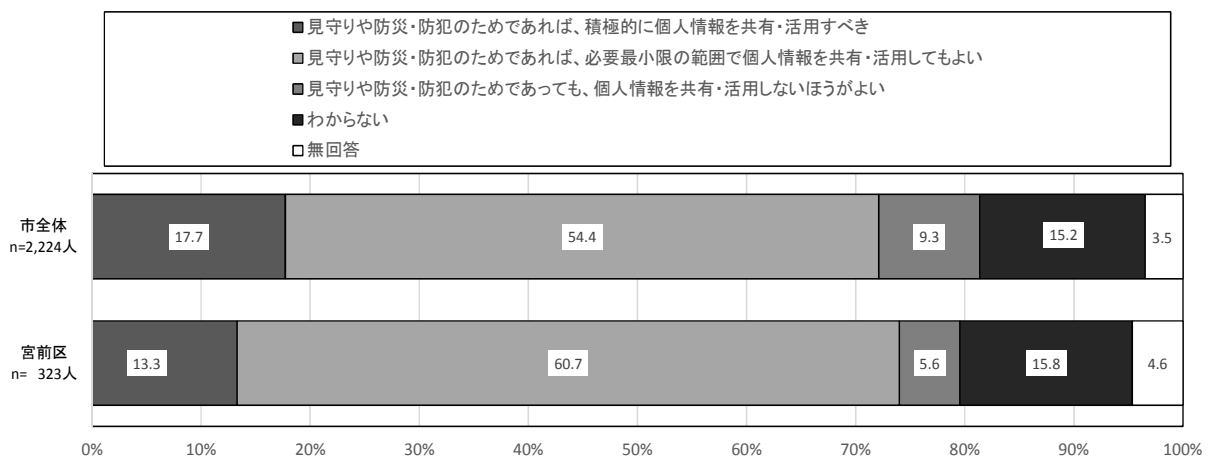
(1つに○)

宮前区では、「震災直後は、防災などへの意識が高まったが、現在は薄れてきている」の割合が44.0%で最も高く、次いで「現在も、震災直後と変わらず防災への備えなどを意識している」(34.4%)、「震災直後は、防災への備えなどを意識していなかったが、現在は意識している」(7.7%)となっている。



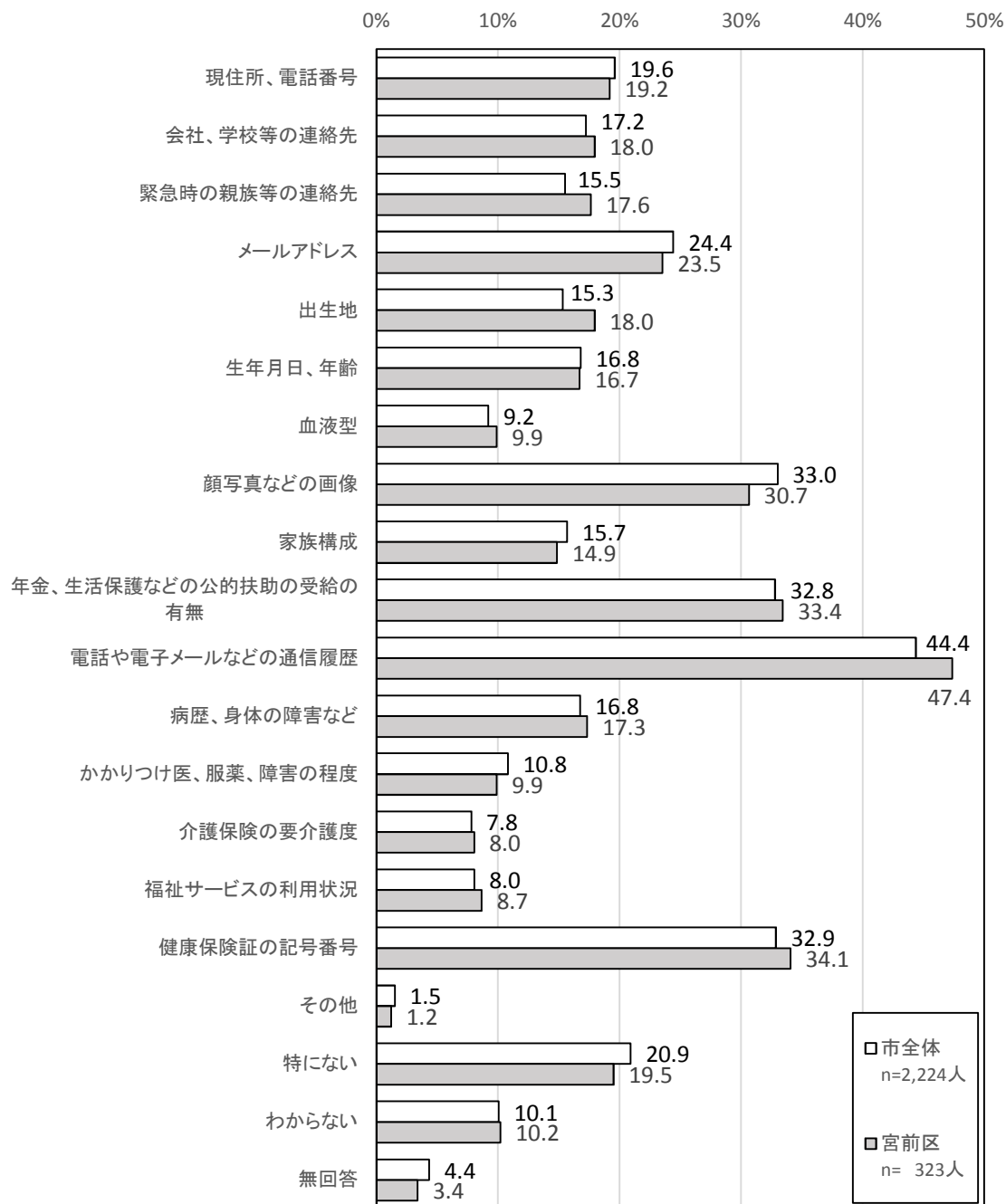
問 39 あなたは、市・区が保有する高齢者や障害者の情報を、見守りや防災・防犯のために、他の部局や自主防災・防犯組織といった関係団体と共有することを、どのようにお考えですか。(1つに○)

宮前区では、「見守りや防災・防犯のためであれば、積極的に個人情報を共有・活用すべき」、「見守りや防災・防犯のためであれば、必要最小限の範囲で個人情報を共有・活用してもよい」の合計が74.0%となっている。



問 41 あなたは次の情報のうち、『防災・防犯などの緊急時に備える』ためであっても、他人に知られたくないものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

宮前区では、「電話や電子メールなどの通信履歴」の割合が47.4%で最も高く、次いで「健康保険証の記号番号」(34.1%)、「年金、生活保護などの公的扶助の受給の有無」(33.4%)となっている。

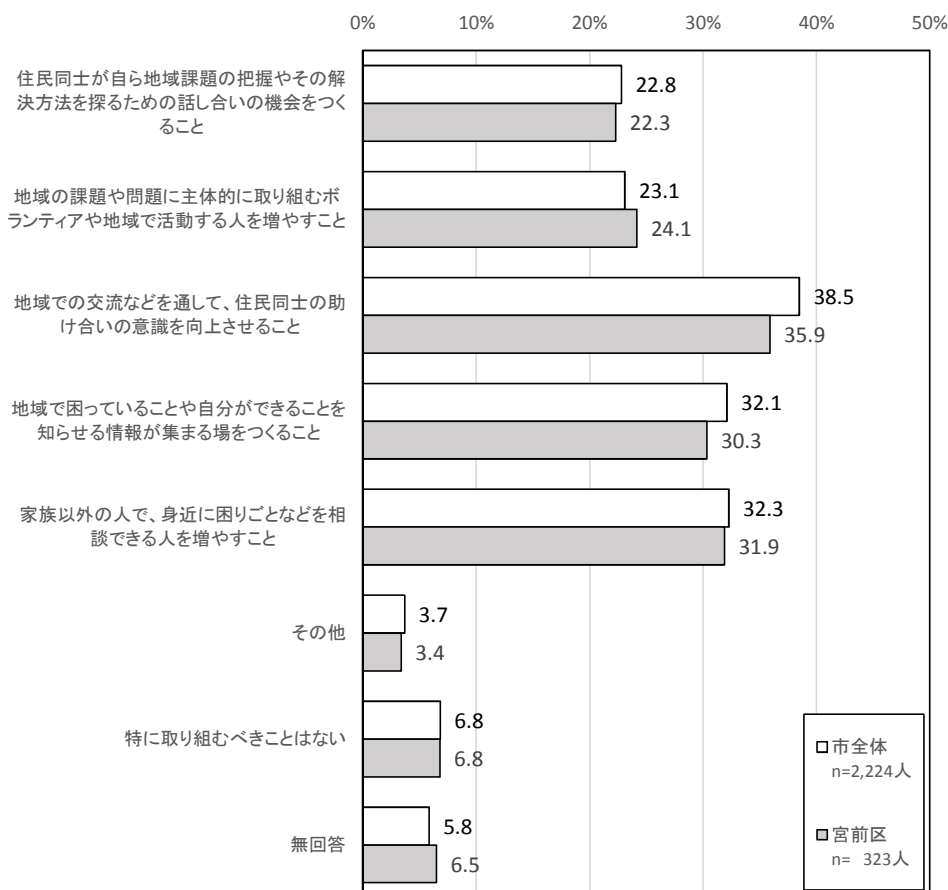


7. 今後の地域福祉の推進について

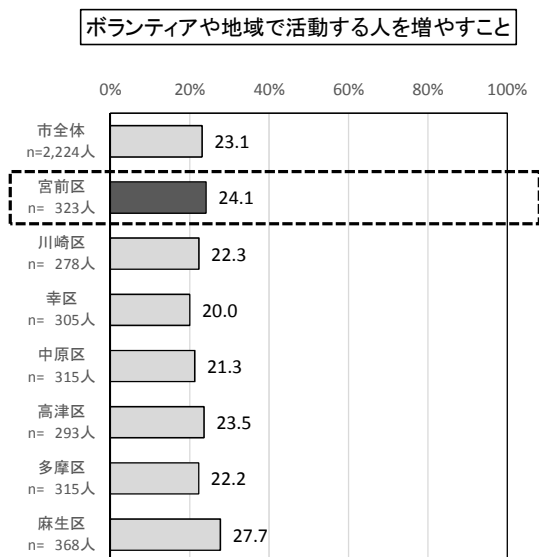
問 42 今後、地域福祉を推進するために、市民が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

宮前区では、「地域での交流などを通して、住民同士の助け合いの意識を向上させること」の割合が35.9%で最も高く、次いで「家族以外の人で、身近に困りごとなどを相談できる人を増やすこと」（31.9%）、「地域で困っていることや自分ができることを知らせる情報が集まる場をつくること」（30.3%）となっている。

市内6区と比較すると「ボランティアや地域で活動する人を増やすこと」については、24.1%で2番目に高い。



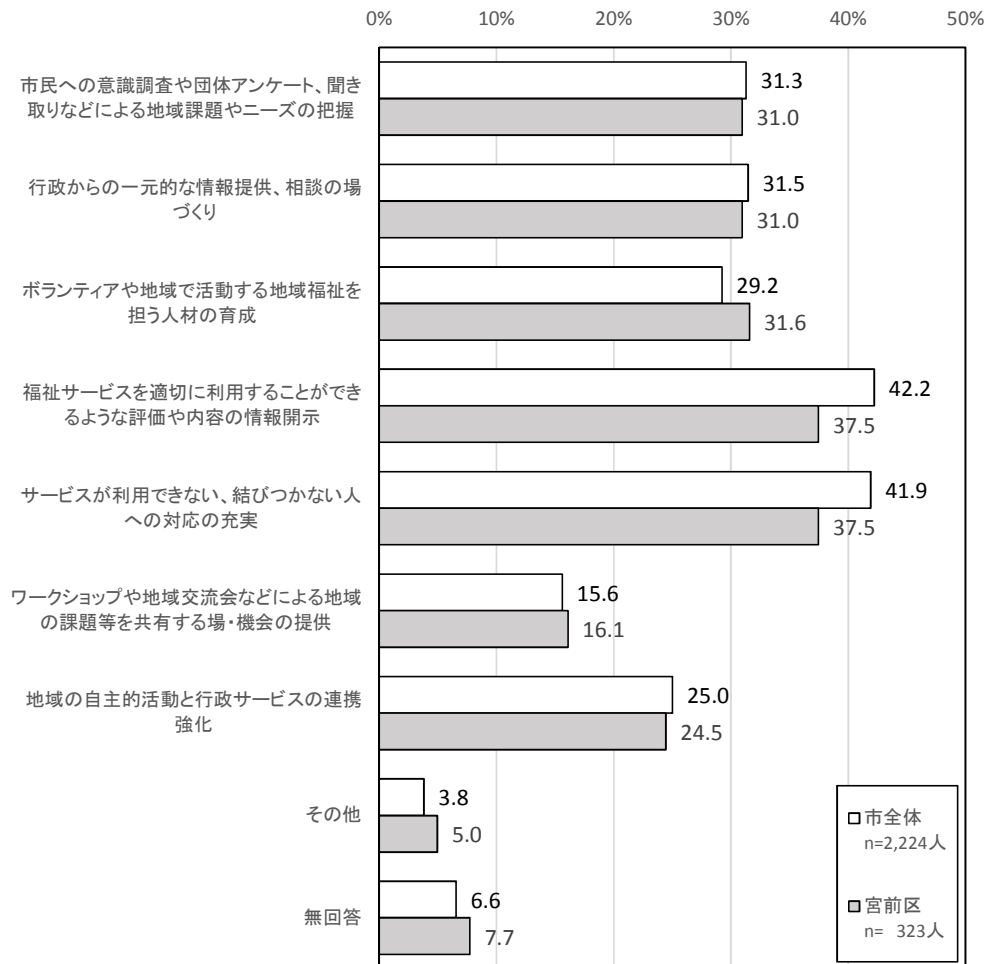
【参考】



問 43 今後、地域福祉を推進するために、行政が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

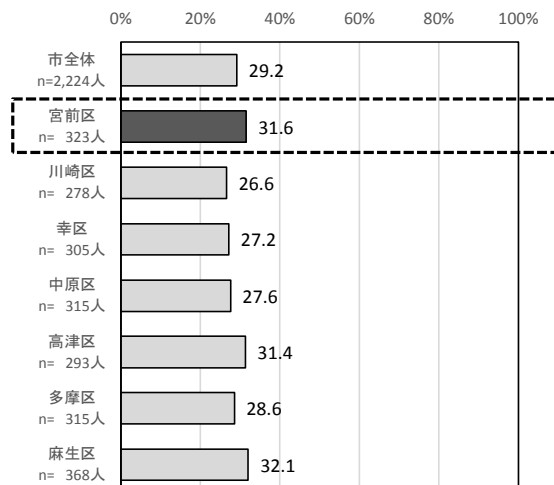
宮前区では、「福祉サービスを適切に利用することができるような評価や内容の情報開示」と「サービスが利用できない、結びつかない人への対応の充実」（37.5%）が最も多い。

市内6区と比較すると、「ボランティアや地域で活動する地域福祉を担う人材の育成」については31.6%で2番目に高くなっている。



【参考】

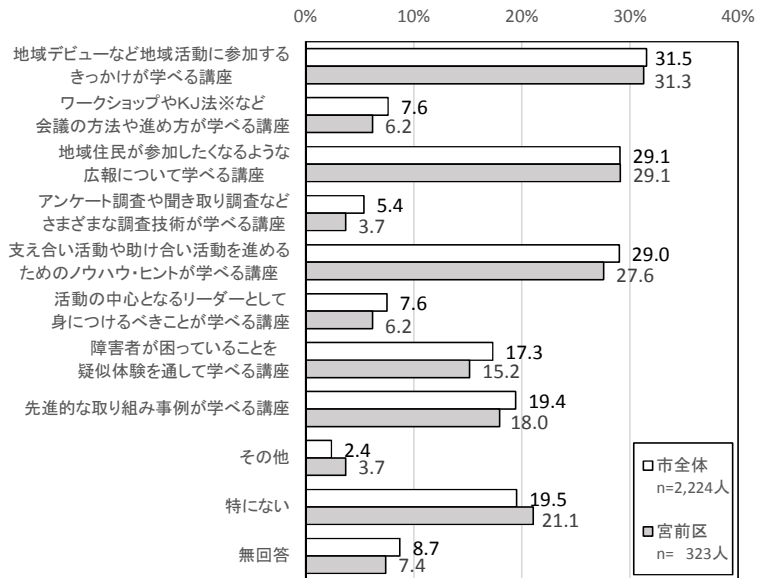
ボランティアや地域で活動する地域福祉を担う人材の育成



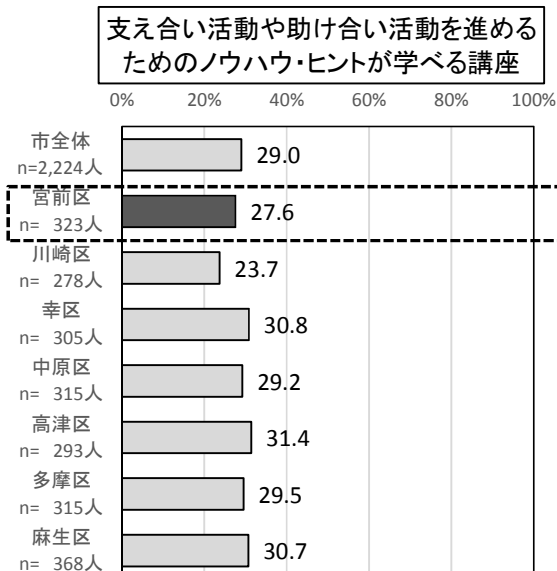
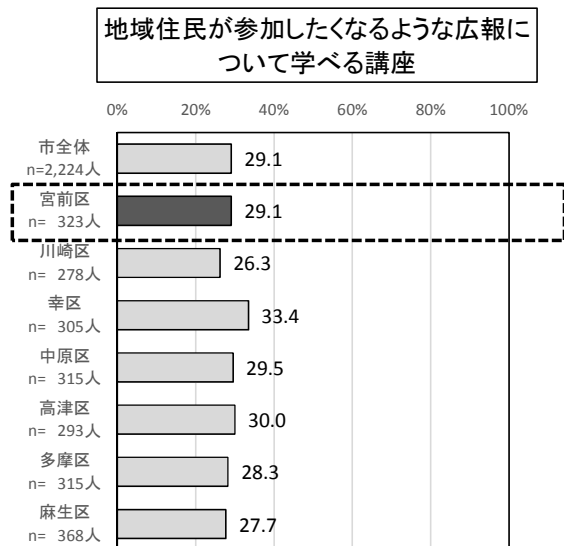
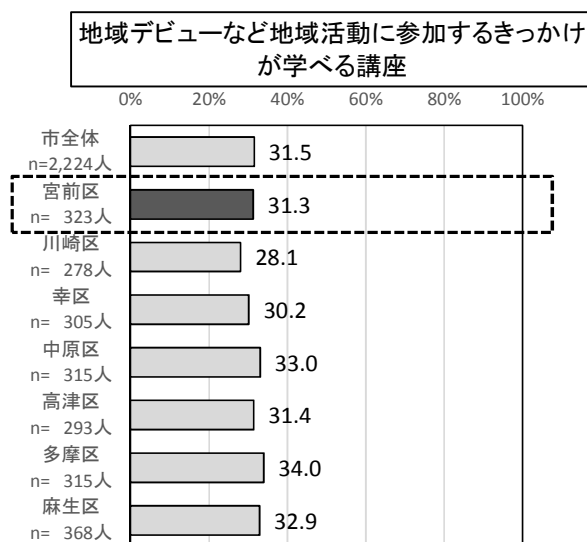
問 44 今後、地域福祉を促進するために、行政が開催する講座としてどのような内容の講座が必要とお考えですか。（あてはまるものすべてまでに○）

宮前区では、「地域デビューなど地域活動に参加するきっかけが学べる講座」が31.3%で最も多い。

市内6区と比較すると、「地域デビューなど地域活動に参加するきっかけが学べる講座」は31.3%で3番目に低い。また、「地域住民が参加したくなるような広報について学べる講座」は29.1%で4番目に高く、「支え合い活動や助け合い活動を進めるためのノウハウ・ヒントが学べる講座」は27.6%と2番目に低くなっている。

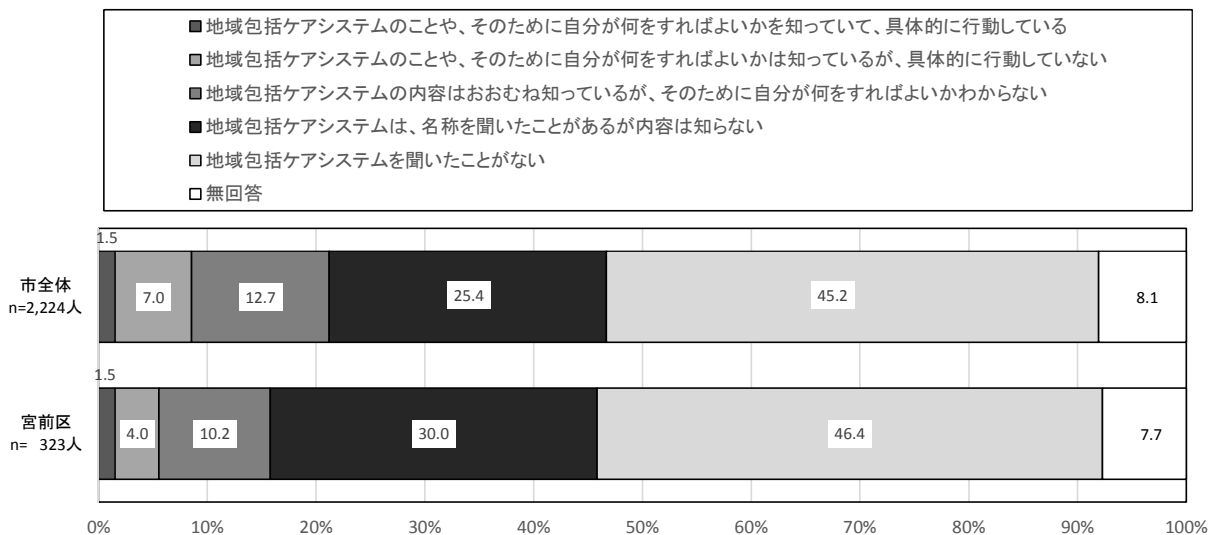


【参考】



問 45 川崎市では、超高齢社会の到来を見据えて、「地域包括ケアシステム」の構築を進めています。あなたの「地域包括ケアシステム」の理解度や行動について、あてはまるものをお答えください。（1つに○）

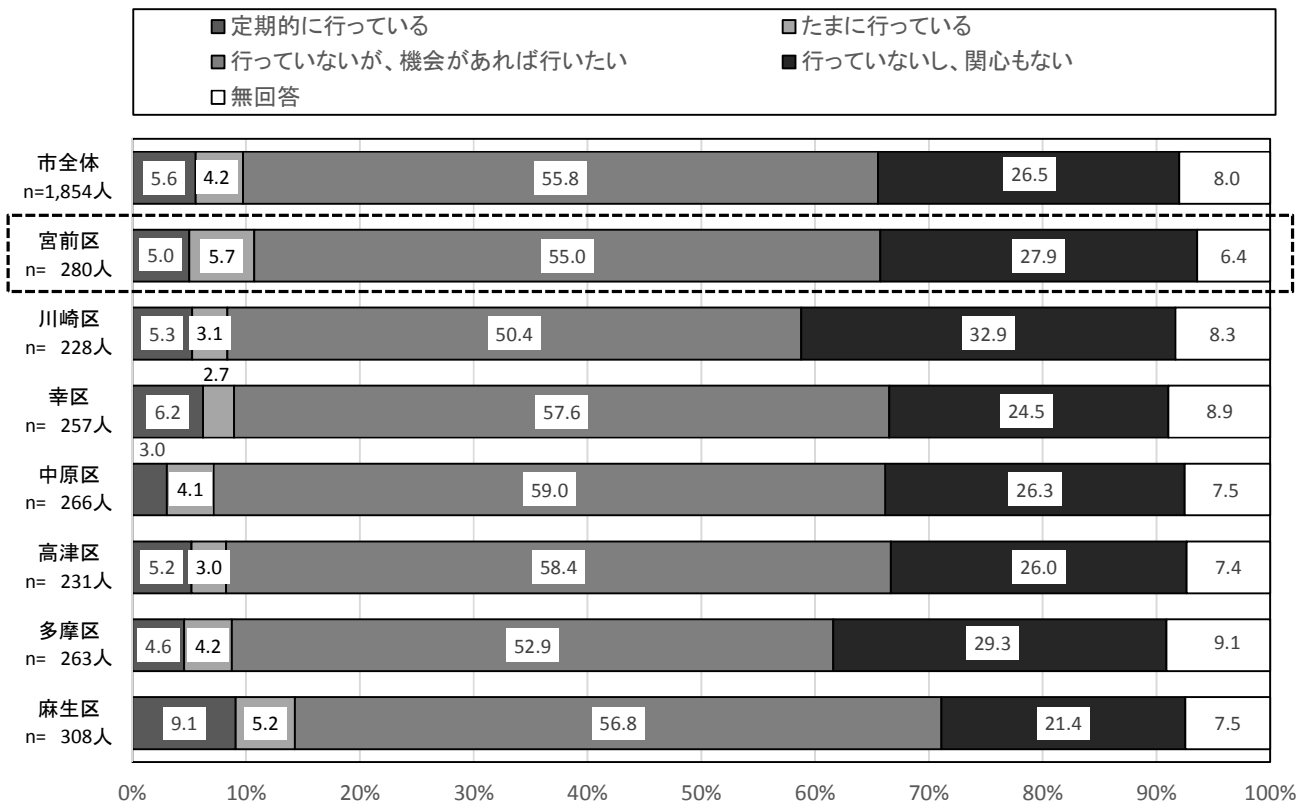
宮前区では、「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」の割合が46.4%で最も高く、次いで「地域包括ケアシステムは、名称を聞いたことがあるが内容は知らない」（30.0%）、「地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいかわからない」（10.2%）となっている。



問 45 - 1 《問 45 で「地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいかわからない」「地域包括ケアシステムは、名称を聞いたことがあるが内容は知らない」「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」にお答えの方》

地域包括ケアシステムにおいて、市民一人ひとりに期待される行動としては、自らの健康管理をしっかりと行うことをはじめ、近隣住民との交流や様々な地域活動に関わることにより、支え合い・助け合う地域づくりに関わることなどがあたります。このような行動を行っていますか。(1つに○)

宮前区では、「定期的に行っている」、「たまに行っている」の割合の合計が10.7%で市全体(9.8%)を上回っている。市内6区と比較すると、「定期的に行っている」、「たまに行っている」の割合の合計は麻生区に次いで高くなっている。また、「行っていないし、関心もない」の割合は27.9%で3番目に高い。



8. 自由回答のまとめ ※再掲を含みます

(1) 地域で問題になっていること

地域で問題になっていることとしてあげられた意見は、次のとおりである。

■ 地域で問題になっていること

意見の内容	件数
1. 子どもに関する問題	15
2. 地域防犯・防災に関する問題	21
3. 高齢者に関する問題	25
4. 地域のつながりに関する問題	24
5. 適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題	7
6. 障害児・者に関する問題	3
7. 地域活動や団体活動を行う拠点や場所がない（足りない）という問題	5
8. 家庭不安や心配ごとを誰にも相談できない人がいるという問題	1
9. 健康づくりに関する問題	1
10. 一人ひとりに必要な制度や地域活動が十分でないことが原因と考えられる問題	1
11. その他	11

1. 子どもに関する問題（15件）

区役所管内

	内容
1	子育てするための環境が地域で整っているかなどの不安がある。
2	子どもを虐待する親が増えてきているのでは。
3	マンションのエントランスでゲームしている小学生が多い。公園は遊具が少なく、子どもが遊べる場所が少ないように思える（他2件）。
4	昔にくらべ子どもの遊び場がなくなってきている。マンション内で目の届く範囲で遊ばせたいが組合の方々からうるさい等のクレームがある為少し遠い広い公園まで行くしかないが、目が届かないのであまり行かせたくない。安心して遊べるところがない。
5	真夏や冬などは特に近くに遊び場が（室内）があったらいいなと思う。
6	公園で無料のサッカー教室のようなことをしている大人がいて、子どもが野球などをして公園で遊べないと言っている。
7	子どもが安全に遊び健やかに成長できるように見守る機関が少ない。子どもを預かる場として保育園と学童の間のような役割も持った機関を作るべき。

向丘出張所管内

	内容
1	子どもが活動する範囲（街）をきれいにする。
2	大きな病院が近くにあるので開業医が少なく、あっても大変混んでいる。特に小児科がないのがこの地域での問題である。
3	子どもたちが安心して集まれるライブラリーのような公共の場があると良い。
4	変質者の弱者（子どもなど）への虐待など。
5	子どもの安全が十分に守られていない。日本ではスクールバスも義務化されていないし、学校内での安全も教師任せになっており、オンブズマンのような公正な第三者による観察の無い閉鎖的空間となっている。
6	多子家庭はどこに行っても肩身が狭い。もっと寛容な社会を作ってほしい。

2. 地域防犯・防災に関する問題（21件）

区役所管内

	内容
1	高齢者による交通事故の増加。
2	暴走するバイクが深夜とても多く、心配になります。（尻手黒川道路）
3	バイクの長時間暖気運転、車のマフラー改造運転。
4	不審者の発生。
5	不審者情報、防犯情報がまったく入ってこない（他1件）。
6	高齢者がうちにこもって相談する窓口等を知らない。より高齢化が進むと高齢者を狙う犯罪が増加してくる。
7	時々変な電話があり、近所の人にその話を話す。
8	近隣にも「一人暮らしの高齢者」の方が増えてきて、地震の際、防犯など気になります。
9	最近、子どもが巻き込まれる事件など多く、自分の子どもは大きくなったものの心配に思う。
10	外で子どもたちの遊んでいる姿を見てないのでどの家に子どもが居るのが分からない。最近では外でお母さん達の話をしている姿が見られなくなっていると思う。
11	子どもの安全には地域の目が必要。「大人はいつも誰かが見守っている」という様子が子ども達にわかるように下校時間や通学路の拠点にボランティアやPTAの当番が立ち防犯意識の高い地域である事を活動によって示せると良い。（子どもの見守り等）
12	台風、地震etc自然災害時、子どもを含めて、地域全体の防犯について問題。
13	すぐ近くは横浜市で生活圏が横浜市（青葉区）なので有事の際川崎市の避難所が遠いのが心配です。川崎のはずれなので停電の時も復旧がとても遅かった。
14	防災訓練を実施しても参加者が少なく関心の低さを感じた（他1件）。
15	緑地の宅地開発による人の増加。昔からの宅地の古くなったブロック塀のヒビや耐久性の不安。

向丘出張所管内

	内容
1	台風、火災など近年頻繁に発生してきているので問題あり。
2	目の前の部屋には空巣が入った。
3	ある程度は自治会があり、しっかり活動をしていただいているので問題はない。夜暗いところのチェックや危ない場所などは市で少しでも減らすようにしてほしいです。
4	防災警報等が伝わりにくい、バイクのナンバーを見にくくしているものが目立つので指導してほしい。ひったくり犯かも。

3. 高齢者に関する問題（25件）

区役所管内

	内容
1	1人で散歩しているお年寄りをよく見ます。家から出ない方を加えたらどれだけの数になるのかと。外で遊ぶ子どもの声あまり聞こえない所からでしょうか。
2	介護は今後非常に大きな問題となるので行政がもっと関わる必要があると考える。
3	近所に子どもが減っており全体的に高齢化している。昔、家を建てた親世代から次の世代に移れるような支援があるといいと思う。
4	高齢化が進み、介護等の手続きが面倒で人員不足だと思います。
5	独居高齢者対策として定期的な見守り支援の仕組みづくり。
6	フルタイム勤務と幼児がいるため親の介護に行けず心配です。
7	周りに高齢者が多いので月に1回の掃除の時、本当に高齢者ばかりで助けあいが必要だと考えます。

	内容
8	高齢者も障害者も情報がなすすぎで困るのを、役所の人は来てもらえれば支援するというけど、どんな支援があるのかわかりにくいし、手続きがわからないので、地域の人に教えたり教えてもらったりできない。
9	高齢者介護施設は多少あるが価格競争が行われていない為、安価な施設が存在しない。高額な施設のみ増えている。又、入所不可能の状態である。
10	経済的不安。
11	高齢者の講座や運動ができる、生きがいつくりの場をふやしてほしい（他1件）。
12	介護が必要になった時誰でも介護施設に入ることができるのか、介護施設があるのかどうか、その時の費用はどのくらいかかるのか、など不安である。
13	高齢者と云う言葉自体理解していない人が多い。障害者については、経験しない人（まわりにそういう人が居ない）は、全く辛さ、苦しさ、等わかっていない。
14	有馬第2団地は高齢者の割合が多く、若い人がほとんどいない。また一人暮らしの方が多い。
15	親の介護、高齢者の認知症などへの関わり方、地域の協力、社会からの孤立、街灯が少なく夜道が危険、防災訓練など。
16	自身がやや高齢になりつつある中で育児と、将来的な親の介護を十分に行えるかどうかの不安がある。
17	私自身がかかり高齢になり、つきあいが希薄になりがち。

向丘出張所管内

	内容
1	住んでいるマンションが、30年たち住民が高齢化している。
2	小さい子どもに対して理解のない高齢者に会うことがある。人とのつながりがうすくなり不安やさみしさをぶつけられているように感じる。公園や飲食店などでの暴言など。
3	介護を要する人が多い。高齢者の家に同居する子がいない。
4	高齢者が増えて、地域の活動が高齢者による事が多い。仕事の関係もあると思いますが、もっと若い方が活動に参加して欲しい。
5	今迄近所づきあいをしていない（できない）ことで、孤独死していた人が幾人かいました。
6	高齢者で1日誰とも話さない。小学生くらいの子が知らない人に話しかけられる。
7	高齢者の方がどんどん増えており、高齢者の方が住みやすい環境になっていないと考えます。

4. 地域のつながりに関する問題（24件）

区役所管内

	内容
1	この地域にはただ寝るためだけに帰ってくるのみ、仕事など活動の場は外にある。マンションの理事会活動に対してもさける。これからの事を考えればいかなものかと思いますが現実はこうです。
2	転勤などで人の出入りが頻繁にあるため、近所づきあいがほとんどない。きつかけもない。
3	まわりに認知症の方が増えている。個人的にはまわりの方ともっと交流したいが”やりたがり”と思われるのも困る。場がない事、等。
4	特にマンションでは町内会とのつながりがいい様なのでどうなっているのか知りたい。
5	子どもたちとコミュニケーションがとれていない。
6	転入者や集合住宅居住者は地域のルールや行政の支援について知る機会が無い。
7	寛容な大人が多数いるわけではない。

	内容
8	昔からの移住者と新しい移住者の交流の場が少なく、同じ駅でも引越してしまうと、交流が希薄。また子どもが小・中学生だと交流もあるだろうが高校生となると地域の方と交流も減る。
9	町内会に入らない家庭が増えている。回覧も回らないので地域の情報を仕入れる先がない人がいる。
10	地域のつながりが薄く、きっかけもなく魅力的なこともないので交流しようと思わない。
11	メール等が主流で、あいさつ、会話等がないので、人とのつながりを感じる事例は、ありません。
12	古くから暮らしている高齢世帯。持ち家を手放した後に土地を2分割して新しく若い世帯が増加。同じ町内会だが名前も分からず交流もない。
13	ご近所とはあいさつをする程度のつきあいで、家族構成、年齢等全く分からない。家の周りを歩いている人がいてもどこの家の方なのか、それとも不審者なのか見分けがつかない。大事が起きたとしてもピンポンしてまで声かけをする間柄になっていない。
14	私どもが住んでいる所はワンルームマンションが数多く建っています。自分だけ生活できれば独身の若い人はあいさつもせず年齢がいつている人は住みにくい町になってきました。
15	顔見知りによる子どもへの犯罪などがあり、近所の人であっても親しくするのがためられる雰囲気がある。子どもにもあいさつ以上のことはすすめられない。
16	マンション内でも知らない人がいる。同じ階の人はわかるが何とか、他の人はわからない。
17	自治会費は納めているが、具体的に行動したことがない。お隣さんともあいさつする程度なので、地元のつきあいは無いため。
18	地域の活動（掃除等）に参加されない方だと、どの様な方かもわからない。地域外の広い公園を利用出来る活動も必要かと思う。
19	日常的につながらずに生活できること。
20	日中働いていることもあり、近所に親しい知人がいないため、いざというとき、近くに頼れる人がいない。

向丘出張所管内

	内容
1	隣近所同士の交流がなくきっかけがない。そこをクリアしないと全て解決できない。
2	ゴミのポイ捨てやマンションの塀など器物破損。
3	日ごろの交流が面倒。
4	たとえご近所さんだとしても物騒な今、本当に信頼のできる方以外とは交流を持ちません。自らの事を話せば話す程盗みに入られる可能性や悪口を言われる可能性等に身構える必要もでてくるので交流が狭く薄くなるのが当然な事。

5. 適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題（7件）

区役所管内

	内容
1	分別ゴミの出し方。
2	情報量が少ない。
3	不審者情報など。
4	ニュースなど情報共有の中で問題をかかえている方が多い中で、地域の中にもこのように悩む方が多いのではないかと思います。早く私たちが気付いてあげられたら早期解決してあげられると思います。

	内容
5	情報をどこで収集したらいいかわからない。相談しに足を運んでいても知らないことが多く、その知らないことは誰に聞いたらいいのかわからず孤立しているように思ってしまう。たまたま知り合いの口コミで知る機会が多く、市役所窓口、療養センターの存在は何のためかと思うことが多い。

向丘出張所管内

	内容
1	地域を総括する情報管理元がないこと。「地域で問題になっていること」の情報を掲示するHPのようなものがあるとよいのではないかな。
2	行政が思う「地域」に「助けあい」を必要とする人達がどのくらいいるのか、どのくらい助けが必要なのか、明確なものがわからない。「助けあい」の意味が広くあいまいなものになっていて、昔ながらのおつきあいを求めているのか、新しい形を求めているのか非常に答えにくい。

6. 障害児・者に関する問題（3件）

区役所管内

	内容
1	運動する場所や施設が少ない。障害児に対する手助けが大まかで個々（精神的）の障害が全部ちがうのにひとくくり。利用できない。
2	行政上の手続きについてのサポート。
3	高齢者も障害者も情報がなさすぎて困るのを、役所の人は来てもらえれば支援するというけど、どんな支援があるのかわかりにくいし、手続きがわからないので、地域の人に教えたり教えてもらったりできない。

7. 地域活動や団体活動を行う拠点や場所がない（足りない）という問題（5件）

区役所管内

	内容
1	老人大学のような学びの場や（市や）区が主催するような講座を増やしてほしい。（趣味や生活全般に役立つような内容）
2	他の地方に見られるような「公民館」の様なものが少なく、類するものは遠く、人口に比べて足りない。結果、近所のつながりが少なくなっているように感じる。
3	子連れで集まれる場所が少なくいつも満員になっているので安く借りられる場所があるとありがたい。

向丘出張所管内

	内容
1	シニア会の中に（自治会）カラオケ教室があり、ストレスもなくなり、今は楽しくやっています。声かけしていますがなかなか入会してくれません。
2	集会所が少ない。

8. 家庭不安や心配ごとを誰にも相談できない人がいるという問題（1件）

区役所管内

	内容
1	福祉で受けられる制度など分かりづらい。

9. 健康づくりに関する問題（1件）

区役所管内

	内容
1	病状や薬の服用などでどのような食事が良いのか、日々のメニューなどの見直しなど相談にのってほしい。

10. 一人ひとりに必要な制度や地域活動が十分でないことが原因と考えられる問題（1件）

区役所管内

	内容
1	老人クラブに入会勧誘をするが孤独な生活をしている方ほど入会のニーズがない。しかし無理にでも入会し、共通の趣味、スポーツを楽しんでいる人と接するようなふれ合うきっかけの場づくりがもっと必要と考えます。

11. その他（11件）

区役所管内

	内容
1	主人がなくなり1年になります。それまでは車で買い物していたのですが82才でなくなり、私も運転できないので1週間に2度買い物に行きますが買いだめするのでつい重くなってしまふ。
2	各個が何をすべきか、又出来るのかがわからない。
3	災害ボランティア等、全国的に広がっている問題も考えると助け合う場所は限定されているとは思えない。
4	近くで生きがいを作りたいと思っても気楽に利用できる公の施設がない。81歳の私は移動は歩く。又はタクシー等しかなく家にとじこもっている。
5	自己中心的な考えの人がここ30年ぐらい非常に増加していると感じる。公共の場で自分の欲求を満たすためなら人の迷惑も意に介さないような人が増加しているように思える。
6	空き家が増えてくるだろう。
7	年代に関係なく町内会を退会する方が増えています。
8	本当に支援が必要な人々が市営住宅に入居できているのかどうか。必要のない人にまで生活保護を支給されているのではないか。色々な面も含め行政が確認しているのかと不信を感じる。
9	有馬9丁目はバスが通らない。年寄ばかりなのにバスがなく駅までの坂道が本当につらい。バス半額券があってもバスが通らないので使えません。その分税金を安くしてほしい。

向丘出張所管内

	内容
1	歩いて3～4分の場所に小学校があるが、避難場や投票所に指定されている所が、1kmくらい離れている小学校で、もし何かあった時や、もし大風だった時には、避難するほうが大変危険で行きたくない。
2	多少不便な世の中に便利すぎて時代の流れが速くて高齢者はついていけない。24時間コンビニなど不健康きわまりない。

(2) 今後、地域活動やボランティア活動に参加したい理由

今後、地域活動やボランティア活動に参加したい理由としてあげられた意見は、次のとおりである。

■ 今後、地域活動やボランティア活動に参加したい理由

意見の内容	件数
1. 自分自身や子どものため	6
2. 地域交流のため	9
3. 社会貢献のため	2
4. 健康維持のため	2
5. 時間に余裕があるから	0
6. 身近で関心・興味があるから	5
7. 仕事をしていた或いは資格があるから	3
8. 街の美化のため	3
9. 時間に余裕がなく、できない	2
10. 病気・高齢だからできない	1
11. 参加する気はあるが方法がわからない	1
12. その他	4

1. 自分自身や子どものため（6件）

区役所管内

	内容
1	今、子どもがまだ小さいので育児に関する情報を知りたい。
2	子どもと一緒に参加すると楽しそうだから。
3	子育てセミナーに何度か参加して気持ちが楽になったので、他の人にも同じようになってもらえたらという思いから。
4	現在、卓球に参加、月に4回位、高齢者でも楽しめる。

向丘出張所管内

	内容
1	自分でも楽しめるから。
2	自分の見解を広げたいため。

2. 地域交流のため（9件）

区役所管内

	内容
1	人と人とのつながりは大切だと思う。
2	人とかわりあいたいからです。
3	お互いに支え合えたらと思う。
4	自分の健康づくりを通して地域の人たちの役に立てる活動だから。
5	交流は大事だと思うから。
6	身近な人の役に立てるのであれば参加できる範囲でお手伝いしたいと思う。
7	昔から行っているから。
8	他人との関わりを増す事は自分の為だから。

向丘出張所管内

	内容
1	人とのつながりは必要と感じるから。

3. 社会貢献のため（2件）

区役所管内

	内容
1	これまでも参加してきたので継続したい。
2	今の環境の中でできる事をしていきたいと思います。

4. 健康維持のため（2件）

宮前区（区役所管内）

	内容
1	いろいろな行事には参加していないが、自分でウォーキングをしている。時々、1時間～2時間位。
2	高齢になってもいつまでも健康で自分の事はやって行きたい。

5. 時間に余裕があるから（0件）

6. 身近で関心・興味があるから（5件）

区役所管内

	内容
1	医療周辺業務の経験を活かせるきれいな街づくりに貢献できればと考える。文化、美術に興味のある分野がある。
2	スケジュールがあれば参加してみたいが仕事を休んでまでは参加できない。
3	しんゆり映画祭など。先日の報道（作品の上映に関するもの）で、市民ボランティアにより運営されていることを知り、興味がわいたので。
4	絵に興味がある。

向丘出張所管内

	内容
1	体力が無くても、すぐ体調悪くする自分でも、髪を長く伸ばすだけでできるボランティアだから。(31 cm以上の長さが必要) 長さが必要なので、1年以上伸ばす必要がある。

7. 仕事をしていてかいは資格があるから（3件）

区役所管内

	内容
1	医療周辺業務の経験を活かせるきれいな街づくりに貢献できればと考える。 文化、美術に興味のある分野がある。
2	自分が医療と関係のある仕事をしているため。
3	自身が保育士なので子育て関連の活動に興味があり、また経験を活かせそうだから。

8. 街の美化のため（3件）

区役所管内

	内容
1	ゴミを拾ったり、かたづけ等をする事が時々あるが、身近で簡単にできるから。
2	地域の美化、安全に協力できることはしていきたいと考えている。

向丘出張所管内

	内容
1	道にある犬の糞、たばこの吸い殻、雑草の間に空き缶、パンのあき袋、生活ごみが、私の生活範囲では少なくなりました。（私が毎日活動することによって）

9. 時間に余裕がなく、できない（2件）

区役所管内

	内容
1	スケジュールがあえば参加してみたいが仕事を休んでまでは参加できない。

向丘出張所管内

	内容
1	運転して時間にゆとりが出来たらしたい。

10. 病気・高齢だからできない（1件）

区役所管内

	内容
1	自分が高齢だから。

11. 参加する気はあるが方法がわからない（1件）

区役所管内

	内容
1	何をすべきか悩む。

12. その他（4件）

区役所管内

	内容
1	自分のことで精一杯です。
2	現在時点で困っていない（夫婦と近隣在住の子どもで助け合う）。夫婦のどちらかが他界したら生活環境を変える工夫をする必要が出てくる（介護ホーム入居など）。
3	明日は我が身。
4	外に目を向けるため。

(3) 『地域包括ケアシステム』の取組等に対する意見・要望

『地域包括ケアシステム』の取組等に対して寄せられた意見・要望は、次のとおりである。

■ 『地域包括ケアシステムの取組等』に対する意見・要望

意見の内容	件数
1. 取組の周知について	8
2. 市への意見・要望について	16
3. 地域住民とのつながりについて	4
4. 参加しやすい活動やメニューや仕組みについて	2
5. 今自分がやれることがない	0
6. 健康について	0
7. 取組の提案について	3
8. 取組への期待について	14
9. 守秘義務について	0
10. 相談窓口について	1
11. 多世代や異属性間での交流について	0
12. 地域防犯・防災について	1
13. サービスや手続きについて	0
14. 医療について	1
15. その他	8

1. 取組の周知について（8件）

区役所管内

	年代	内容
1	20～24歳	小学校、中学校など義務教育の段階でそのようなシステムがあることを学べたら良いと思った。
2	40～44歳	もっと多くの人に内容を知ってもらっていいと思う。市民や事業所とあるが地域によって大小がはっきりしていると思う。特に事業所については。なので市民にどうやったら知ってもらえるかという事を大事にした方がいいと思います。
3	45～49歳	具体的にそういう活動を行っているのか見えてこない。情報発信を強化してほしい。
4	55～59歳	高齢者や子育て中の方々には良く知られている取組だと思うが20代や独身世代の方はおそらく耳にしたことすらない言葉であり取組だと思う。SNS等を利用せず「地域～」とは何かを広めることが大切だと思う。
5	60～64歳	広報等を配布してほしい。
6	65～69歳	調査のアンケートを頂き、はじめて知る事ばかりです。現在の生活の中でこれからは自発的に行動し勉強したいと思います。初心者でもわかりやすい御指導をお願い致します。
7	70～74歳	地域包括支援センターがある所を知らない人が多い。あっても相談に行くのも遠かったり、相談したくても電話番号がわからなかったり、「何でも相談して下さい」と書いたようなものを一年に一度ずつ高齢者に送ってもらってもどこかへしまい込んでしまうので毎年1回周知して欲しい。
8	75歳以上	マトリックス等を作成し広報で告知して頂ければよいと思います。

2. 市への意見・要望について（16件）

区役所管内

	年代	内容
1	35～39 歳	このようなアンケートを実施しているのを存じておらず現状を把握しようとしていることに良い意味で驚きました。
2	45～49 歳	どこで誰がどのようなことで困っているのか。とった情報を収集し適切な対策を取ることが今後の川崎市の使命だと思います。アンケートだけでなく職員の方々がリアルに体験されてもいいのではないかと思います。
3	50～54 歳	地域活動にとって今後コンピュータの役割が大きくなると思います。スマホをある程度使えないといざと言う時の安否確認、情報の収集は難しい。今の 80 歳代と 30 年後の 80 歳代は情報収取面で大きくちがうはずだ。スマホ、PC などで「してほしいこと」「自分ができること」を発信して、そのデータを活用していく。行政からも紙ばかりではなくネットでの活動を展開してほしい。
4	50～54 歳	町内会との連携を密にするなどで個人と地域を結び付ける方法を模索していく必要があるのではと思う。住民同士の交流、地域活動といっても具体的に何が良いかかわからないし、何の目的で行った活動がどんな時に役立った等の事例を教えてもらえたら考えるモチベーションになると思う。
5	55～59 歳	地域包括ケアシステムを充実させると自助努力が減退し、行政や地域への依存体質が増長して弊害につながると思う。
6	60～64 歳	これからの高齢化においても危機管理においても、地域の助け合いは非常に重要だと痛感いたしました。必要性は理解していても今のままでは絵に描いた餅と同じです。今の時代、他人とのかかわりをもつことを嫌う方も多いたは思いますが、行政が後押しをしてきっかけを作ってくれたら徐々に助け合いの輪が広がって行くのではないのでしょうか。まずは向こう三軒両隣から勇気をもって声かけをしていきたいと思ひます。
7	65～69 歳	今現在、本人が困った立場にならないと実感がないので調査、アンケート含め意識が薄い。本当に困った時にどうすればいいのかは知っておくべきだけど。
8	65～69 歳	押しつけけない程度にやってもらいたい。うわすべりの言葉選びのように感じる。
9	70～74 歳	名称が悪い。何を目的にしているのか理解不能。
10	75 歳以上	地域包括支援センターのサービスとは別のものですが、アンケートにある「地域包括ケアシステム」の説明を読むと同じように思いますが、他にも似たような名称、分かりにくい団体名を良く目にします。
11	75 歳以上	一体的に提供される仕組と地域づくりの取組を感じた事がない。適切な役割分担が不明の為それぞれがバラバラ。いいかえれば何をどうしていてもすべて地域包括ケアシステムと表現されているのではないか。一体的な提供の仕組をもっとわかりやすく活動につなげられる様に。

向丘出張所管内

	年代	内容
1	35～39 歳	行政の方から積極的に声かけ行動してほしい。いつでもウェルカム状況にあってほしい。まず職員の方々が真摯に対応して欲しい。接しにくい職員が多い。我関せずな方が多い。上記のことが解決しないと進まない。取組できないと思ひます。 ※地域住人の生活状況や経済状況の安定がなされないと余裕ができないし、取りくめない。

	年代	内容
2	35～39 歳	助けあいと一言で言っても内容は様々。世代の違い、性別の違いなど条件が異なればほしい情報もほしい助けも異なると思います。切り離せるものではないのはわかりますが、高齢者をとりまく環境の問題と子育てや引きこもり等の問題を同じ視点で考える（ように思えたアンケートでしたので）ことは難しく違和感がありました。
3	50～54 歳	もう少し具体的な事例が出てこないとよくわかりません。
4	50～54 歳	高齢者に向けての取組になりがちですが、子育てについても充実した取り組みになってほしい。
5	65～69 歳	遠い存在の様に感じます。

3. 地域住民とのつながりについて（4件）

区役所管内

	年代	内容
1	45～49 歳	地域の関わり合いが少ないため（普段の仕事場が川崎でない）情報にふれる機会が非常に少ない。このため、実際にやっていることに対する理解ができていない。
2	50～54 歳	子どものいる世帯は子どもの学校や習い事を通じて、コミュニティが完成し、他世代家族との交流が少ない。そこからはじかれた子どものいない世帯や子どもが大きくなった世帯がつながれる機会を作る必要性を感じる。
3	60～64 歳	これからの高齢化においても危機管理においても、地域の助け合いは非常に重要だと痛感いたしました。必要性は理解していても今のままでは絵に描いた餅と同じです。今の時代、他人とのかかわりをもつことを嫌う方も多いとは思いますが、行政が後押しをしてきっかけを作ってくれたら徐々に助け合いの輪が広がって行くのではないのでしょうか。まずは向こう三軒両隣から勇気をもって声かけをしていきたいと思っています。

向丘出張所管内

	年代	内容
1	65～69 歳	近隣住民との交流はほどほどにしたい。必要以上に情報は出したくない。

4. 参加しやすい活動やメニューや仕組みについて（2件）

区役所管内

	年代	内容
1	40～44 歳	この取組が重要であることは十分理解できるが、いざ自分が参加して地域活動を行うことには高いハードルがある。仕事が忙しく、家庭での時間がとれない状況で、地域のことに時間をさくのは難しい。また時間に余裕のある人でも、なかなか参加しにくいと思うので、地域活動に参加するインセンティブを何か付与できないか。
2	75 歳以上	一体的に提供される仕組と地域づくりの取組方を感じた事がない。適切な役割分担が不明の為それぞれがバラバラ。いいかえれば何をどうしていてもすべて地域包括ケアシステムと表現されているのではないだろうか。一体的な提供の仕組をもっとわかりやすく活動につなげられる様に。

5. 今日自分がやれることがない（0件）

6. 健康について（0件）

7. 取組の提案について（3件）

区役所管内

	年代	内容
1	50～54 歳	超高齢化、高齢者の出かける場、通える場、居場所づくり。60代70代の生きがいの場が地ケアの中にうまくとり入れられるとよい。
2	70～74 歳	地域包括支援センターがある所を知らない人が多い。あっても相談に行くのも遠かったり、相談したくても電話番号がわからなかったり、「何でも相談して下さい」と書いたようなものを一年に一度ずつ高齢者に送ってもらってもどこかへしまい込んでしまうので毎年1回周知して欲しい。
3	75歳以上	マトリックス等を作成し広報で告知して頂ければよいと思います。

8. 取組への期待について（14件）

区役所管内

	年代	内容
1	20～24 歳	小学校、中学校など義務教育の段階でそのようなシステムがあることを学べたら良いと思った。
2	35～39 歳	助け合いではなく、どちらかに負担があるならボランティアはふえないと思う。ボランティアする側にメリットはない。学校の委員や PTA がいい例だと思う。市なり県から少しでもお金が出ればちがうのでは。
3	40～44 歳	この取組が重要であることは十分理解できるが、いざ自分が参加して地域活動を行うことには高いハードルがある。仕事が忙しく、家庭での時間がとれない状況で、地域のことに時間をさくのは難しい。また時間に余裕のある人でも、なかなか参加しにくいと思うので、地域活動に参加するインセンティブを何か付与できないか。
4	40～44 歳	それぞれの専門に分かれているので（1人だけでは負担になると思うので）良いと思います。
5	65～69 歳	今まで名前を知っているだけでしたが、これからは興味をもっていきます。
6	65～69 歳	調査のアンケートを頂き、はじめて知る事ばかりです。現在の生活の中でこれからは自発的に行動し勉強したいと思います。初心者でもわかりやすい御指導をお願い致します。
7	65～69 歳	押しつけけない程度にやってもらいたい。うわすべりの言葉選びのように感じる。
8	65～69 歳	すばらしい取組だと思います。川崎市の地域福祉計画に大いに期待しております。
9	70～74 歳	名称が悪い。何を目的にしているのか理解不能。

向丘出張所管内

	年代	内容
1	20～24 歳	まだ分かりません。
2	35～39 歳	正社員とか、大手の会社で契約社員としてでも働いていれば、格安～無料で受けられる人間ドックなどが、この地域包括システムというものでも格安～無料で受けられるようになるならば、関心は沸く。人間嫌いなので、交流というのがあるのが、面倒くさいわずらわしいという印象が強く、人間ドック等の見返りでもなければ、うつ病もあるし、よっぽどの事でない限り家から出たくない。
3	45～49 歳	イギリスの電車内で、高齢者を対象とした困ったときに話し相手のボランティアに電話をかけるサービスの広告もみたことがある。良いと思った。

	年代	内容
4	60～64 歳	理想だろうけど大変だなと思う。誰が上にたつのか。
5	70～74 歳	公立小学校等の設備（体育館）を利用して、システムの説明会や公的機関の職員の取組等の実情を説明して欲しい。

9. 守秘義務について（0件）

10. 相談窓口について（1件）

向丘出張所管内

	年代	内容
1	75 歳以上	ある地域包括支援センターが近いので相談に行ったら、地域が異なるので別のセンターにまわされたが、毎回いれ変り同じ内容を聞くのであきらめに終わった。地域包括支援センターを担当している会社により違いが多いので統一できないものか。

11. 多世代や異属性間での交流について（0件）

12. 地域防災・防犯について（1件）

区役所管内

	年代	内容
1	60～64 歳	防災についてスマホアプリの防災情報がよく鳴ります。大雨情報や土砂災害警報等は土・日曜の夜間によく鳴るような気がしますが、「川崎防災情報」はさっぱり鳴りません。本当に大災害の時にはどうなることやら。避難場所が開いていないとかにならないとよいけれど。

13. サービスや手続きについて（0件）

14. 医療について（1件）

区役所管内

	年代	内容
1	70～74 歳	医療機関までは分かりますが、医療機関の後のシステムが多岐に亘り理解が進んでいない。

15. その他（8件）

区役所管内

	年代	内容
1	50～54 歳	老人ホームで働いた経験から言うと介護を受ける人、1人1人がもう少し考えるように導いてほしい。
2	50～54 歳	地域活動にとって今後コンピュータの役割が大きくなると思います。スマホをある程度使えないといざと言う時の安否確認、情報の収集が難しい。今の 80 歳代と 30 年後の 80 歳代は情報収取面で大きくちがうはずだ。スマホ、PCなどで「してほしいこと」「自分ができること」を発信して、そのデータを活用していく。行政からも紙ばかりではなくネットでの活動を展開してほしい。
3	55～59 歳	地域包括ケアシステムを充実させると自助努力が減退し、行政や地域への依存体質が増長して老害につながると思う。
4	60～64 歳	今後は地域活動にも参加したい。このアンケートによりもう少し興味をもって取りくまなければならないと反省をした。

	年代	内容
5	70～74 歳	職を辞したのは難聴になり片耳が聞こえなくなり人との話が聞き取れなくなった事と、年からくる身体のだらみで仕事が困難になった為です。糖尿病、心臓病もあり、毎食のクスリがかかせない状況で、社会に関わって行動することは難しい状況です。でもなんとか自分の身の回りの事は出来ているので、できる限り自分で頑張っ生きていきたい。もっと何かあった時の為に近隣の人々とは連絡を取ってきたい。
6	75 歳以上	包括支援サービスとは別のものですが、※の内容を読むと同じように思いますが、他にも似たような名称、分かりにくい団体名を良く目にします。
7	75 歳以上	知らない。

向丘出張所管内

	年代	内容
1	50～54 歳	高齢者に向けての取組になりがちですが、子育てについても充実した取り組みになってほしい。

(4) 『川崎市地域福祉計画』に対する意見・要望

『川崎市地域福祉計画』に対して寄せられた意見・要望は、次のとおりである。

■ 『川崎市地域福祉計画』に対する意見・要望

意見の内容	件数
1. 取組の周知について	19
2. 市への意見	32
3. 地域住民とのつながりについて	6
4. 参加しやすい活動やメニューや仕組みについて	10
5. 今自分がやれることはない	0
6. 健康について	0
7. 取組の提案について	8
8. 取組への期待について	23
9. 守秘義務について	0
10. 相談窓口について	1
11. 地域防犯・防災について	1
12. サービスや手続きについて	0
13. 医療について	1
14. その他	10

1. 取組の周知について（19件）

区役所管内

	年代	内容
1	20～24歳	そのようなシステムがあることを学びたい（他2件）。
2	40～44歳	もっと多くの人に内容を知ってもらっていいと思う。市民や事業所とあるが地域によって大小がはっきりしていると思う。特に事業所については。なので市民にどういったら知ってもらえるかという事を大事にした方がいいと思います。
3	45～49歳	具体的にそういう活動を行っているのか見えてこない。情報発信を強化してほしい。
4	55～59歳	高齢者や子育て中の方々には良く知られている取組だと思うが20代や独身世代の方はおそらく耳にしたことすらない言葉であり取組だと思う。SNS等を利用しまずは「地域～」とは何かを広めることが大切だと思う。
5	60～64歳	広報等を配布してほしい。
6	65～69歳	調査のアンケートを頂き、はじめて知る事ばかりです。現在の生活の中でこれからは自発的に行動し勉強したいと思います。（他2件）。
7	70～74歳	地域包括支援センターがある所を知らない人が多い（他3件）。
8	75歳以上	広報で告知して頂ければよいと思います（他2件）。

向丘出張所管内

	年代	内容
1	45～49歳	弱者の側に立ったもっとストレートにかかわり合えるシステム作り。
2	55～59歳	経済的格差が広がる中で、どのような社会を目指すのか、その指針を示していくべき。

2. 市への意見（32件）

区役所管内

	年代	内容
1	35～39歳	このようなアンケートを実施しているのを存じておらず現状を把握しようとしていることに良い意味で驚きました。
2	45～49歳	どこで誰がどのようなことで困っているのか。情報を収集し適切な対策を取ることが今後の川崎市の使命と思います。アンケートだけでなく職員の方々がリアルに体験されてもいいのではないかと思います。
3	50～54歳	地域活動にとって今後コンピュータの役割が大きくなると思います。行政からも紙ばかりではなくネットでの活動を展開してほしい（他2件）。
4	50～54歳	町内会との連携を密にするなどで個人と地域を結び付ける方法を模索していく必要があるのではと思う。住民同士の交流、地域活動といっても具体的に何が良いかかわからないし、何の目的で行った活動がどんな時に役立った等の事例を教えてくださいましたら考えるモチベーションになると思う。
5	55～59歳	地域包括ケアシステムを充実させると自助努力が減退すると思う（他2件）。
6	60～64歳	今の時代、他人とのかかわりをもつことを嫌う方も多いたとは思いますが、行政が後押しをしてきっかけを作ってくれたら徐々に助け合いの輪が広がって行くのではないのでしょうか。まずは向こう三軒両隣から勇気をもって声かけをしていきたいと思えます（他2件）。
7	65～69歳	押しつけない程度にやってもらいたい（他2件）。
8	65～69歳	今現在、本人が困った立場にならないと実感がないので調査、アンケート含め意識が薄い。本当に困った時にどうすればいいのかは知っておくべきけど。
9	70～74歳	名称が悪い（他2件）。
10	75歳以上	似たような名称、分かりにくい団体名を良く目にします（他2件）。
11	75歳以上	一体的に提供される仕組と地域づくりの取組を感じた事がない。適切な役割分担が不明の為それぞれがバラバラ。いいかえれば何をどうしていてもすべて地域包括ケアシステムと表現されているのでは（他2件）。

向丘出張所管内

	年代	内容
1	35～39歳	行政の方から積極的に声かけ行動してほしい。いつでもウェルカム状況にあってほしい。まず職員の方々が真摯に対応して欲しい。接しにくい職員が多い。我関せずな方が多い。上記のことが解決しないと進まない。取組できないと思えます。※地域住人の生活状況や経済状況の安定がなされないと余裕ができないし、取りくめない。
2	35～39歳	助けあいと一言で言っても内容は様々。世代の違い、性別の違いなど条件が異なればほしい情報もほしい助けも異なると思えます。切り離せるものではないのはわかりますが、高齢者をとりまく環境の問題と子育てや引きこもり等の問題を同じ視点で考える（ように思えたアンケートでしたので）ことは難しく違和感がありました。
3	50～54歳	もう少し具体的な事例が出てこないとはよくわかりません。
4	50～54歳	子育てについても充実した取り組みになってほしい（他2件）。
5	65～69歳	遠い存在の様に感じます。

3. 地域住民とのつながりについて（6件）

区役所管内

	年代	内容
1	45～49 歳	地域の関わり合いが少ないため（普段の仕事場が川崎でない）情報にふれる機会が非常に少ない。このため、実際にやっていることに対する理解ができていない。
2	50～54 歳	子どものいる世帯は子どもの学校や習い事を通じて、コミュニティが完成し、他世代家族との交流が少ない。そこからはじかれた子どものいない世帯や子どもが大きくなった世帯がつながれる機会を作る必要性を感じる。
3	60～64 歳	これからの高齢化においても危機管理においても、地域の助け合いは非常に重要だと痛感いたしました。必要性は理解していても今のままでは絵に描いた餅と同じです。今の時代、他人との関わりをもつことを嫌う方も多いと思います（他2件）。

向丘出張所管内

	年代	内容
1	65～69 歳	近隣住民との交流はほどほどにしたい。必要以上に情報は出したくない。

4. 参加しやすい活動やメニューや仕組みについて（10件）

区役所管内

	年代	内容
1	40～44 歳	時間に余裕のある人でも、なかなか参加しにくいと思うので、地域活動に参加するインセンティブを何か付与できないか（他2件）。
2	70～74 歳	「何でも相談して下さい」と書いたようなもの一年に一度ずつ高齢者に送ってもらってもどこかへしまい込んでしまうので、毎年1回とか周知して欲しい（他3件）。
3	75 歳以上	一体的な提供の仕組みをもっとわかりやすく活動につなげられる様にしてほしい（他2件）。

5. 今自分がやれることはない（0件）

6. 健康について（0件）

7. 取組の提案について（8件）

区役所管内

	年代	内容
1	50～54 歳	超高齢化、高齢者の出かける場、通える場、居場所づくり。60代70代の生きがいの場が地ケアの中にうまくとり入れられるとよい。
2	70～74 歳	「何でも相談して下さい」と書いたようなもの一年に一度ずつ高齢者に送ってもらってもどこかへしまい込んでしまうので、毎年1回周知して欲しい（他3件）。
3	75 歳以上	マトリックス等を作成して頂ければよいと思います（他2件）。

8. 取組への期待について（23件）

区役所管内

	年代	内容
1	20～24 歳	福祉の観点からも、地域の危険な歩行者道路を広くしてベビーカー、子ども、高齢者、車椅子の人達が特に段差がなく、安全で安心して歩ける歩行者道路を整備してほしい。その中で特に近隣の交差点脇のドブ川沿いにある歩行者道路は大きなトラックが多く通るのにもかかわらず、非常に狭く気をつけないと歩行ができずベビーカーや車椅子の通行が困難です。ドブ川上は空間があるので歩行者道として整備し、安全安心な歩行者道を整備してください。強く要望します。それと危険な交差点には道路に色をつけたり、交差点の照明を明るくして下さい。よろしく願いいたします。
2	20～24 歳	小学校、中学校など義務教育の段階でそのようなシステムがあることを学べたら良いと思った。
3	35～39 歳	助け合いではなく、どちらかに負担があるならボランティアは増えないと思う。ボランティアする側にメリットはない。学校の委員や PTA がいい例だと思う。市なり県から少しでもお金が出ればちがう。
4	40～44 歳	時間に余裕のある人でも、なかなか参加しにくいと思うので、地域活動に参加するインセンティブを何か付与できないか（他2件）。
5	40～44 歳	それぞれの専門に分かれているので（1人だけでは負担になると思うので）良いと思います。
6	65～69 歳	今まで名前を知っているだけでしたが、これからは興味をもっていきます。
7	65～69 歳	初心者でもわかりやすい御指導をお願い致します（他2件）。
8	65～69 歳	押しつけけない程度にやってもらいたい（他2件）。
9	65～69 歳	すばらしい取組だと思えます。川崎市の地域福祉計画に大いに期待しております。
10	70～74 歳	何を目的にしているのか理解不能（他2件）。

向丘出張所管内

	年代	内容
1	20～24 歳	まだ分かりません。
2	35～39 歳	正社員とか、大手の会社で契約社員としてでも働いていれば、格安～無料で受けられる人間ドックなどが、この地域包括システムというものでも格安～無料で受けられるようになるならば、関心は沸く。人間嫌いなので、交流というのがあるのが、面倒くさいわずらわしいという印象が強く、人間ドック等の見返りでもなければ、うつ病もあるし、よっぽどの事でないと家から出たくない。
3	45～49 歳	イギリスの電車内で、高齢者を対象とした困ったときに話し相手のボランティアに電話をかけるサービスの広告もみたことがある。良いと思った。
4	60～64 歳	理想だろうけど大変だなと。誰が上にたつのか。
5	70～74 歳	公立小学校等の設備（体育館）を利用して、システムの説明会や公的機関の職員の取組等の実情を説明して欲しい。

9. 守秘義務について（0件）

10. 相談窓口について（1件）

向丘出張所管内

	年代	内容
1	75歳以上	ある地域包括支援センターが近いので相談に行ったら、地域が異なるので別のセンターにまわされたが毎回いれ変り同じ内容を聞くのであきらめに終わった。地域包括支援センターを担当している会社により違いが多いので統一できないものか。

11. 地域防犯・防災について（1件）

区役所管内

	年代	内容
1	60～64歳	防災についてスマホアプリの防災情報がよく鳴ります。大雨情報や土砂災害警報等は土・日曜の夜間によく鳴るような気がします。が、「川崎防災情報」はさっぱり鳴りません。本当に大災害の時にはどうなることやら。避難場所が開いていないとかにならないとよいけれど。

12. サービスや手続きについて（0件）

13. 医療について（1件）

区役所管内

	年代	内容
1	70～74歳	医療機関までは分かりますが、医療機関の後のシステムが多岐に亘り理解が進んでいない。

14. その他（10件）

区役所管内

	年代	内容
1	50～54歳	老人ホームで働いた経験から言うと介護を受ける人、1人1人がもう少し考えるように導いてほしい。
2	50～54歳	地域活動にとって今後コンピュータの役割が大きくなると思います。スマホをある程度使えないといざと言う時の安否確認、情報の収集が難しい。今の80歳代と30年後の80歳代は情報収取面で大きくちがうはずだ。スマホ、PCなどで「してほしいこと」「自分ができること」を発信して、そのデータを活用していく。行政からも紙ばかりではなくネットでの活動を展開してほしい。
3	50～59歳	地域包括ケアシステムを充実させると自助努力が減退し、行政や地域への依存体質が増長して老害につながると思う。
4	60～64歳	今後は地域活動にも参加したい。このアンケートによりもう少し興味をもって取りくまなければならないと反省をした。
5	75歳以上	地域包括支援センターのサービスとは別のもので、他にも似たような名称、分かりにくい団体名を良く目にします（他2件）。

向丘出張所管内

	年代	内容
1	50～54歳	子育てについても充実した取り組みになってほしい（他2件）。

資料

アンケート調査票

地域の生活課題に関する調査

みなさまには、日頃から川崎市の市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。現在、本市では『第5期川崎市地域福祉計画』の見直しに向け、市民や団体活動を行っている方々の（意識）調査を実施しております。

この（意識）調査は、『第5期川崎市地域福祉計画』の見直しに関わる調査の一つとして、無作為に選ばせていただきました市内在住の20歳以上の方を対象に、地域における生活課題などについての意識やご意見、ご要望をおたずねするものです。

お答えいただいた内容は、すべて統計的に処理し、行政上の基礎資料として活用することを目的としていますので、他の目的に使用することはありません。また、個々のご回答やプライバシーに関わる内容が公表されることは一切ありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和元年11月 川崎市長 福田 紀彦

【記入にあたってのお願い】

1. ご回答は、最初から順番にお答えください。
2. ご回答は、あてはまる選択肢の番号に○印をつけてください。
3. 質問によっては、○をつける選択肢の番号を「1つに○」「あてはまるものすべてに○」などと指定している場合は、指定の範囲内で○をつけてください。また、「その他」をお選びいただいた場合には、お手数ですが（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
4. 質問によっては、ご回答いただく方が限られる場合がありますので、矢印（→）やことわり書きなど、次にご回答いただく質問番号への案内にご注意ください。
5. ご記入が済みましたら、誠に恐縮ですが、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて、**12月20日（金）まで**にポストに投函してください。

【調査結果の公表】

この調査の結果は、地域福祉実態調査概況のうち「地域の生活課題に関する調査概況」として、川崎市ホームページ（<http://www.city.kawasaki.jp/>）に掲載します。

本調査について、ご不明な点・ご質問等がございましたら、お問い合わせください。

■お問い合わせ先

川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室地域福祉担当

電話番号：044-200-2626（直通）

FAX：044-200-3926

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地

E-mail：40keasui@city.kawasaki.jp

【最初に、あなたご本人やご家族のことについておたずねします】

問1 性別を教えてください。(1つに〇)

1. 男性

2. 女性

問2 現在の年齢は満何歳ですか。(1つに〇)

1. 20～24歳

5. 40～44歳

9. 60～64歳

2. 25～29歳

6. 45～49歳

10. 65～69歳

3. 30～34歳

7. 50～54歳

11. 70～74歳

4. 35～39歳

8. 55～59歳

12. 75歳以上

問3 お住まいはどこですか。(1つに〇)

1. 川崎区(区役所管内)

7. 高津区(区役所管内)

2. 川崎区(大師支所管内)

8. 高津区(橘出張所管内)

3. 川崎区(田島支所管内)

9. 宮前区(区役所管内)

4. 幸区(区役所管内)

10. 宮前区(向丘出張所管内)

5. 幸区(日吉出張所管内)

11. 多摩区(区役所管内)

6. 中原区

12. 多摩区(生田出張所管内)

13. 麻生区

問4 お住まいの町名をご記入ください。

※○丁目と続く場合は数字を【 】に記入してください。

町名		丁目	【 】丁目
----	--	----	-------

問5 現在お住まいの区には何年住んでいますか。(1つに〇)

1. 1年未満

3. 3～5年未満

5. 10～20年未満

2. 1～3年未満

4. 5～10年未満

6. 20年以上

問6 現在のお住まいの形態を教えてください。(1つに〇)

1. 持ち家(一戸建て)

4. 借家(マンション・アパート・公団・下宿等)

2. 持ち家(マンション・団地)

5. 社宅・寮・公務員住宅

3. 借家(一戸建て)

6. その他()

問7 一緒に暮らしているご家族はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 祖父母	5. 兄弟姉妹	9. いない(一人暮らし)
2. 父	6. 子	10. その他
3. 母	7. 孫	()
4. 配偶者	8. その他親族	

問8 一緒に暮らしているご家族(あなたを含む)のうち、以下の項目に該当する方はいらっしゃいますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族の中に65歳以上の方がいる
2. 家族の中に介護認定を受けている方がいる
3. 家族の中に障害者手帳(身体・療育・精神保健福祉)の交付を受けている方がいる
4. 家族の中に小学校就学前の子どもがいる
5. 家族の中に小学生の子どもがいる
6. 家族の中に中学生以上の18歳未満の子どもがいる
7. いずれにも該当する家族がいない

問9 就業の状況はどれに該当しますか。(ア及びイまたはウそれぞれ1つに○)

ア 就業状況

1. 就業している
2. 就業していない

イ 就業形態

1. 常勤・フルタイム
2. パート・アルバイト(通勤あり)
3. パート・アルバイト(通勤なし、内職等)
4. その他()

ウ 就業していない理由

1. 家事専業等	3. 学生
2. 定年退職者	4. その他()

問10 あなたの健康状態は、いかがですか。(1つに○)

1. 非常に健康
2. ほぼ健康
3. あまり健康でない
4. 健康でない

問11 あなたは現在、健康上の問題で6か月以上の期間にわたり、日常生活に何か影響がありますか。(1つに○)

- 1. ある (→問11-1 へ進む)
- 2. ない

《問11-1 は、問11 で「1. ある」とお答えの方におたずねします》

問11-1 それはどのようなことに影響がありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 日常生活動作（起床、衣服着脱、食事、入浴など）に影響がある
- 2. 外出（時間や作業量などが制限される）に影響がある
- 3. 仕事、家事（時間や作業量が制限される）に影響がある
- 4. 運動（スポーツを含む）に影響がある
- 5. その他（)

【「川崎市地域福祉計画」についておたずねします】

川崎市では、川崎らしい都市型の地域包括ケアシステムの構築をめざして、平成30年3月に「市民一人ひとりが共に支え合い安心して暮らせる ふるさとづくり」を基本理念とする『第5期川崎市地域福祉計画』及び7つの区で『区地域福祉計画』を策定しました。

地域福祉計画は、それぞれの生活の拠点である地域において、共に生きるまちづくりの精神を発揮して、市民と行政がともに地域社会の生活課題の解決に取り組むことにより、誰もが安心していきいきと健やかに暮らせるような地域社会をつくることを目的としています。

また、“地域福祉”とは、こうした地域社会をつくりあげていくための市民や行政の取り組みと言えます。

問12 あなたは、川崎市に『第5期川崎市地域福祉計画』及び『区地域福祉計画』があることをご存じですか。(1つに○)

- 1. 市の計画、区の計画の両方を知っている
- 2. 区の計画は知らないが、市の計画は知っている
- 3. 市の計画は知らないが、区の計画は知っている
- 4. 市の計画も区の計画も知らない (→問13 へ進む)

《問12-1は、問12で「1」～「3」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問12-1 計画は何で知りましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 市政だより | 6. 交流会・ワークショップ |
| 2. 市や区のホームページ | 7. シンポジウム |
| 3. チラシ・パンフレット | 8. 講演・講習会 |
| 4. 市や区の計画での取り組みに参加した | 9. ロコミ(友人・知人や近隣の方からの) |
| 5. 団体等の会合 | 10. その他() |

【あなたがお住まいの地域についておたずねします】

[問13以降は全員の方がお答えください]

問13 あなたは、「近所」の範囲を、どの程度だとお考えですか。(1つに○)

- | |
|-------------------------|
| 1. 両隣 |
| 2. 向こう三軒両隣程度 |
| 3. 同じ集合住宅(アパート、マンションなど) |
| 4. 歩いて5分(およそ100m)以内程度 |
| 5. 歩いて10分(およそ200m)以内程度 |
| 6. その他() |

問14 あなたは、ふだんご近所の方とどの程度のつきあいをしていますか。(1つに○)

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1. 家族のように親しくつきあっている | 4. あいさつをする程度 |
| 2. 家に行き来したり、親しく話をする | 5. ほとんどつきあいが無い |
| 3. ときどき話をする程度 | 6. その他() |

問15 あなたは、近所つきあいや地域住民同士の交流について、どの程度必要だとお考えですか。(1つに○)

- | |
|---|
| 1. 地域で助け合うことは大切であり、そのためにもふだんからの交流は必要だ |
| 2. いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方がよい |
| 3. 困った時は当然助け合うべきだが、日ごろの交流は面倒なのであまりしたくない |
| 4. 地域での助け合いは必要だと思わないが、地域で交流すること自体は大切だ |
| 5. 地域との交流より、気の合った仲間やグループで交流し、その中で助け合えばよい |
| 6. 困った時は行政などが支援すべきで、地域での助け合いや日ごろの交流は必要ない |
| 7. その他() |

問16 現在、町内会・自治会に加入していますか。(1つに○)

- | | |
|---------------------------|--------------|
| 1. 加入している | (→ 問17へ進む) |
| 2. 加入していたが、退会した・加入したことはない | (→ 問16-1へ進む) |

《問16-1は、問16で「2. 加入していたが、退会した・加入したことはない」とお答えの方におたずねします》

問16-1 現在加入していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|-------------------------|
| 1. 行事に参加できない |
| 2. きっかけがない |
| 3. 特に不便を感じない・必要性を感じない |
| 4. 集合住宅の管理組合に加入している |
| 5. 仕事、子育て、介護等が忙しくて時間がない |
| 6. 地域のつきあいがわずらわしい |
| 7. 会費に見合うメリットがない |
| 8. 加入の仕方がわからない |
| 9. 面倒だから |
| 10. 関心がない |
| 11. その他 () |

[問17以降は全員の方がお答えください]

問17 あなたは、助け合いをすることができる「地域」の範囲を、どの程度だとお考えですか。(1つに○)

- | | | |
|--------------|--------------|---------|
| 1. 隣近所程度 | 4. 中学校区程度 | 7. それ以上 |
| 2. 町内会・自治会程度 | 5. お住まいの区内程度 | 8. その他 |
| 3. 小学校区程度 | 6. 川崎市内程度 | () |

問18 あなたは、その「地域」において、いま何が問題だと感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 健康づくりに関する問題(ストレス、食育、生活習慣病など)
2. 高齢者に関する問題(介護、権利擁護、生きがいづくり、見守りなど)
3. 障害児・者に関する問題(地域生活支援、権利擁護、活動支援、障害に対する理解など)
4. 子どもに関する問題(育児不安、子育て支援、教育、しつけ、遊び場づくりなど)
5. 地域防犯・防災に関する問題(交通安全、子どもの見守り、火の用心、防災訓練など)
6. 地域のつながりに関する問題(近所づきあい、人と人との関係が希薄など)
7. 一人ひとりに必要な制度や地域活動が十分でないことが原因と考えられる問題
8. 家庭不安や心配ごとを誰にも相談できない人がいるという問題
9. 適切な情報が得られない、あることを知らない人がいるという問題
10. 地域活動や団体活動を行う拠点や場所がない(足りない)という問題
11. その他()
12. 特に問題だと感じていることはない(→ 問19へ進む)

《問18-1は、問18で「1」～「11」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問18-1 その問題は、具体的にどのようなことですか。事例などがあれば教えてください。

----- ----- -----

[問19以降は全員の方がお答えください]

問19 あなたは、家庭生活の中で次のような不安を感じたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 身の回りのことが、いつまで自分でできるかわからない
2. 介護が必要な家族を家庭で介護できる自信がない
3. 経済的に生活できるか不安である
4. 病気になったときに頼れる人が身近にいない
5. 子育てがうまくできるか不安である
6. その他()

問20 あなたの心配ごとを解決するために必要だと思われることはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 身近でいつでも相談できる場所があること |
| 2. 保健や福祉のサービスの利用料が低額であること |
| 3. 保健や福祉のサービスの利用手続きが簡単であること |
| 4. 緊急時にすぐに手助けをしてくれる人が身近にいること |
| 5. 利用できる保健や福祉のサービスの種類がたくさんあること |
| 6. 保健や福祉に関する情報を簡単に入手できること |
| 7. 保健や福祉のサービスの質を評価した情報があること |
| 8. その他 () |
| 9. 特に何も必要だとは思わない |

問21 あなたは、日常生活で心配ごとや悩みごとがあるとき、誰に相談していますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 同居している家族 | 8. 地域包括支援センター等専門相談機関 |
| 2. 友人・知人 | 9. 民生委員児童委員 |
| 3. 離れて暮らしている家族 | 10. 社会福祉協議会 |
| 4. 区役所地域みまもり支援センターの職員 | 11. 民間の相談機関(電話相談を含む) |
| 5. かかりつけの医療機関 | 12. インターネット |
| 6. 近所の人 | 13. その他 () |
| 7. 福祉施設やサービス提供事業所の職員 | 14. 相談する人はいるが、誰にも相談しない |
| | 15. 相談する人がいない |

問22 あなたには、友人と呼べる人がいますか。(1つに○)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. いる (→ 問22-1へ進む) | 2. いない (→ 問23へ進む) |
|--------------------|-------------------|

《問22-1、問22-2は、問22で「1. いる」とお答えの方におたずねします》

問22-1 何人くらいいますか。

	人
--	---

問22-2 その中で、実際に会ったことのないインターネット上の友人はいますか。

(1つに○)

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

[問23以降は全員の方がお答えください]

問23 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になり、助けを必要とするとき、誰に手助けを頼みたいですか。(3つまでに○)

- | | |
|--------------|----------------------|
| 1. 親 族 | 8. 区役所・市役所 |
| 2. 友人・知人 | 9. 地域の医療機関 |
| 3. 近所の人 | 10. ケアマネジャーやホームヘルパー等 |
| 4. 民生委員児童委員 | 11. その他() |
| 5. 社会福祉協議会 | 12. 誰もいない |
| 6. 地域の活動団体 | 13. 頼みたくない |
| 7. NPO等の民間団体 | |

問24 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちにどんな手助けをしてほしいですか。(3つまでに○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 安否確認の見守り・声かけ | 8. 外出の付添い |
| 2. 趣味など世間話の相手 | 9. 災害時の手助け |
| 3. 子育て・介護などの相談相手 | 10. ゴミ出し・雨戸の開け閉め |
| 4. 炊事・洗濯・掃除などの家事 | 11. 電球交換や簡単な大工仕事 |
| 5. 草むしり、冷蔵庫内の整理 | 12. その他() |
| 6. ちょっとした買物 | 13. 特にない |
| 7. 子どもの預かり | |

問25 地域の高齢者や障害者、子育て家庭などが安心して暮らすことができるよう、地域の支え合いとして、あなたご自身ができることは何ですか。(3つまでに○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 安否確認の見守り・声かけ | 8. 外出の付添い |
| 2. 趣味など世間話の相手 | 9. 災害時の手助け |
| 3. 子育て・介護などの相談相手 | 10. ゴミ出し・雨戸の開け閉め |
| 4. 炊事・洗濯・掃除などの家事 | 11. 電球交換や簡単な大工仕事 |
| 5. 草むしり、冷蔵庫内の整理 | 12. その他() |
| 6. ちょっとした買物 | 13. 特にない |
| 7. 子どもの預かり | |

問26 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(1つに○)

1. すでに制度を利用している
2. おおむね制度について知っている
3. 言葉は聞いたことはあるが、制度の内容は知らない
4. 知らない

問27 現在のあなたの生活状況・環境で、あなたやご家族が病気、けが、障害により、長期の医療や介護が必要となった場合に、病院には入院せず在宅で療養することは可能ですか。(1つに○)

1. 現在、在宅で療養している
2. 在宅で療養したいし、おそらく可能である
3. 在宅で療養したいが、おそらく不可能である
4. おそらく在宅で療養することは可能だがしたくない
5. おそらく在宅で療養することは不可能だし、したくない
6. その他 ()

問28 人生の最終段階における医療について、意思表示の書面や家族での話し合いが必要だと思いませんか。(1つに○)

1. 意思表示の書面は必要であり、すでに作成している
2. 意思表示の書面は必要であるが、まだ作成していない
3. 意思表示の書面は作成していないが、家族で話し合っている
4. 意思表示の書面は必要ないが、家族で話し合う必要はある
5. 意思表示の書面は必要ないし、家族で話し合う必要もない
6. すべて家族にまかせるので必要ない
7. すべて医療者や病院にまかせるので必要ない
8. その他 ()

問29 近年、誰にも気づかれずに死亡し、しばらくして発見されるという孤立死が社会問題となっています。孤立死が生じる原因として、どれが大きな問題だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 経済的に困窮している（お金がない）こと
2. 福祉や見守りなど行政の対応が不十分なこと
3. 地域の見守り体制が弱体化してきたこと
4. 一人暮らしや高齢者だけの世帯が増えていること
5. 本人が引きこもりがちな性格であること
6. 隣近所のつきあいが少なくなっていること
7. 家庭内のことに、他人が立ち入りにくいこと
8. 医療や介護が必要な高齢者が増加していること
9. その他（）
10. 特に問題はない
11. わからない

問30 孤立死を防ぐために、どのようなことが有効だと思いますか。特に有効だと思うものを5つまで選んで○をつけてください。(5つまでに○)

1. 地域住民による声かけ、見守り
2. 新聞・郵便配達等、民間の協力による情報共有
3. 民生委員児童委員による訪問、見守り
4. 水道、ガス、電気の利用に関する情報共有
5. 消防・警察・ごみ収集等、公的機関による確認
6. 定期的な電話や傾聴訪問等の話し相手
7. 地域で気軽に集えるサロン活動
8. 地域包括支援センター等による生活実態の把握
9. 配食等生活支援サービスを活用した見守り
10. 本人からの危険危機の通報
11. 機器による緊急通報システム
12. 介護保険等の各種福祉サービス事業所と連携した緊急時連絡網
13. その他（）
14. 特にない
15. わからない

【地域活動やボランティア活動についておたずねします】

問31 あなたは、次のような地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。現在参加しているものも含めてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 健康づくりに関する活動
- 2. 高齢者に関する活動
- 3. 障害児・者に関する活動
- 4. 子育てに関する活動
- 5. 医療に関する活動
- 6. 町内会・自治会に関する活動
- 7. 社会福祉協議会に関する活動
- 8. お祭りやイベントに関する活動
- 9. 地域安全に関する活動
- 10. 環境美化（ゴミ拾いなどを含む）に関する活動
- 11. 文化・芸術に関する活動
- 12. スポーツ（運動会などを含む）に関する活動
- 13. その他（ ）
- 14. 今は参加していないが条件が整えば参加したい（→問31-2～問31-5へ進む）
- 15. 参加したことがない（→問31-6～問31-7へ進む）

[問31で「1」～「13」のいずれかをお答えの方は問31-1に、
問31で「14」とお答えの方は問31-2～問31-5に、
問31で「15」とお答えの方は問31-6にそれぞれ進んでください]

《問31-1は、問31で「1」～「13」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問31-1 活動に参加した動機やきっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 人の役に立ちたいから
- 2. 自分たちのために必要な活動だから
- 3. 家族・友人・知人から誘われたから
- 4. 学校の授業などで機会があったから
- 5. 困っている人や団体から頼まれたから
- 6. 余暇を有効に活用したいから
- 7. 趣味や特技を活かしたいから
- 8. 楽しそうだから
- 9. つきあいのため、やむを得ず
- 10. その他（ ）
- 11. なんとなく

《問31-2～問30-5は、問31で「14」とお答えの方におたずねします》

問31-2 あなたは、今後どのような活動なら参加したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1. 健康づくりに関する活動 | 8. お祭りやイベントに関する活動 |
| 2. 高齢者に関する活動 | 9. 地域安全に関する活動 |
| 3. 障害児・者に関する活動 | 10. 環境美化(ゴミ拾いなどを含む)に関する活動 |
| 4. 子育てに関する活動 | 11. 文化・芸術に関する活動 |
| 5. 医療に関する活動 | 12. スポーツ(運動会などを含む)に関する活動 |
| 6. 町内会・自治会に関する活動 | 13. その他() |
| 7. 社会福祉協議会に関する活動 | 14. 具体的にはわからない |

問31-3 その理由は何ですか。具体的にお書きください。

----- -----

問31-4 参加される場合、活動可能な日はどのくらいですか。(1つに○)

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 週3回以上 | 3. 月2～3回 | 5. 月1回未満 |
| 2. 週1～2回 | 4. 月1回 | |

問31-5 参加される場合、活動可能な時間はどのくらいですか。(1つに○)

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1. 平日日中(10時～17時)2時間以内 | 5. 休日日中2時間以内 |
| 2. 平日日中4時間以内 | 6. 休日日中4時間以内 |
| 3. 平日日中6時間以内 | 7. 休日日中6時間以内 |
| 4. 平日夜間(17時～20時) | 8. 休日夜間(17時～20時) |

《問31-6～問31-7は、問31で「15」とお答えの方におたずねします》

問31-6 あなたが、地域活動やボランティア活動に参加したことがない理由は、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1. 仕事や家事が忙しく時間がない | 8. 一度はじめると拘束されてしまう |
| 2. きっかけがつかめない | 9. 行政や事業者が行えばよい |
| 3. 身近に活動グループや仲間がない(知らない) | 10. 人と接するのが苦手 |
| 4. 健康に自信がない | 11. 地域活動やボランティア活動はしたくない |
| 5. 家族や職場の理解が得られない | 12. その他() |
| 6. 興味を持てる活動がない | 13. 特に理由はない |
| 7. 育児や介護を必要とする家族がいる | |

問31-7 あなたは、どのような状況になれば、地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。(1つに○)

1. 活動する時間ができれば	6. 興味を持てる活動があれば
2. きっかけがあれば	7. ボランティア活動に参加していることが評価されるようになれば
3. 身近に活動グループや仲間がいれば	8. その他()
4. 体力や健康に自信があれば	9. 地域活動やボランティア活動はしたくない
5. 家族や職場の理解が得られれば	

【保健・福祉に関することについておたずねします】

[問32以降は全員の方がお答えください]

問32 あなたは、次の保健や福祉の団体・施設等をご存知ですか。(ア～チの団体・施設等について1・2のいずれか1つに○)

ア. 社会福祉協議会	1. 知っている	2. 知らない
イ. 民生委員児童委員	1. 知っている	2. 知らない
ウ. 区役所地域みまもり支援センター (福祉事務所・保健所支所)	1. 知っている	2. 知らない
エ. 地域包括支援センター	1. 知っている	2. 知らない
オ. 老人クラブ	1. 知っている	2. 知らない
カ. いきいきセンター(老人福祉センター)	1. 知っている	2. 知らない
キ. いこいの家(老人いこいの家)	1. 知っている	2. 知らない
ク. 障害者相談支援センター	1. 知っている	2. 知らない
ケ. 地域療育センター	1. 知っている	2. 知らない
コ. 地域リハビリテーションセンター	1. 知っている	2. 知らない
サ. 聴覚障害者情報文化センター	1. 知っている	2. 知らない
シ. 視覚障害者情報文化センター	1. 知っている	2. 知らない
ス. 児童相談所	1. 知っている	2. 知らない
セ. 地域子育て支援センター	1. 知っている	2. 知らない
ソ. こども文化センター	1. 知っている	2. 知らない
タ. 福祉パル(区社会福祉協議会)	1. 知っている	2. 知らない
チ. 総合福祉センター(エポックなかはら)	1. 知っている	2. 知らない

問33 あなたは、地区・区社会福祉協議会についてどの程度ご存知ですか。(1つに○)

- | | |
|---------------------------|-------------|
| 1. 名前も活動内容も知っている | |
| 2. 名前を知っており、活動内容も少しは知っている | |
| 3. 名前は知っているが、活動内容は知らない | } (→問34へ進む) |
| 4. 名前も活動内容も知らない | |

《問33-1は、問33で「1」または「2」とお答えの方におたずねします》

問33-1 あなたは、地区・区社会福祉協議会の活動として、今後どのようなことを期待していますか。(3つまでに○)

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 在宅福祉サービスの充実 | 6. 住民懇談会等の小地域活動の促進 |
| 2. 子育て支援の充実 | 7. NPOやボランティアグループへの支援 |
| 3. ボランティア活動の促進 | 8. 福祉関係団体の活動支援 |
| 4. 各種福祉講座・教室の開催 | 9. その他() |
| 5. 身近な相談の場としての機能強化 | 10. 特にない |

[問34以降は全員の方がお答えください]

問34 あなたは、保健や福祉の情報をどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------------------|----------------|
| 1. 市の広報 | 8. 町内会・自治会の回覧板 |
| 2. インターネットのホームページ | 9. 友人・知人 |
| 3. チラシ・パンフレット | 10. 学 校 |
| 4. 新聞・テレビ | 11. 近 隣 |
| 5. 民生委員児童委員 | 12. 団体等の広報紙等 |
| 6. 社会福祉協議会 | 13. その他() |
| 7. 区役所地域みまもり支援センター
(福祉事務所・保健所支所) | |

問35 あなたは、ふだんパソコンや携帯電話でインターネットにアクセスしたり、メールのやりとりをどのくらいしていますか。(1つに○)

- | | | |
|-------------|-----------|-----------|
| 1. ほとんど毎日 | 3. 週に1日程度 | 5. ほとんどない |
| 2. 週に2~3日程度 | 4. 月に数日程度 | |

【東日本大震災後の意識の変化についておたずねします】

問36 平成23年3月に起きた東日本大震災の後、近年、毎年各地で様々な災害が発生していますが、あなたの意識に変化がありましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 防災意識が高まった
2. 節電意識が高まった
3. 家族の絆の大切さを認識した
4. 地域の絆の大切さを認識した
5. 友人等との絆の大切さを認識した
6. 健康意識が高まった
7. 避難場所確保の必要性を感じた
8. 正しい情報を得ることの必要性を感じた
9. その他 ()
10. 特にない

問37 平成23年3月に起きた東日本大震災の後、近年、毎年各地で様々な災害が発生していますが、あなたが新たに始めたり強化したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 防災グッズの準備、食料や水の備蓄など
2. 建物の補強
3. 家具の固定
4. 停電時の対策
5. 緊急時における家族との連絡方法の確認
6. 近くの学校や公園などの避難場所の確認
7. 学校や勤め先からの帰宅ルートの確認
8. 子どもや高齢者などの世話を誰かに頼む
9. 隣近所の人へのあいさつや声かけ
10. 地域で主体的に防災につながる活動を行った
11. 防災訓練への参加
12. ボランティア活動への参加
13. その他 ()
14. 特にない

問38 東日本大震災から8年が経ちましたが、震災直後と比べて、現在のあなたの意識は変化しましたか。(1つに○)

1. 現在も、震災直後と変わらず防災への備えなどを意識している
2. 震災直後は、防災などへの意識が高まったが、現在は薄れてきている
3. 震災直後は、防災への備えなどを意識していなかったが、現在は意識している
4. 震災直後も現在も、防災などへの備えを特に意識していない
5. その他 ()
6. わからない

問39 あなたは、市・区が保有する高齢者や障害者の情報を、見守りや防災・防犯のために、他の部局や自主防災・防犯組織といった関係団体と共有することを、どのようにお考えですか。(1つに○)

1. 見守りや防災・防犯のためであれば、積極的に個人情報共有・活用すべき
2. 見守りや防災・防犯のためであれば、必要最小限の範囲で個人情報共有・活用してもよい
3. 見守りや防災・防犯のためであっても、個人情報共有・活用しないほうがよい
4. わからない

問40 あなたは次の情報のうち、『ふだんの見守り活動』のためだとしても、他人に知られたくないものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1. 現住所、電話番号 | 11. 電話や電子メールなどの通信履歴 |
| 2. 会社、学校等の連絡先 | 12. 病歴、身体の障害など |
| 3. 緊急時の親族等の連絡先 | 13. かかりつけ医、服薬、障害の程度 |
| 4. メールアドレス | 14. 介護保険の要介護度 |
| 5. 出生地 | 15. 福祉サービスの利用状況 |
| 6. 生年月日、年齢 | 16. 健康保険証の記号番号 |
| 7. 血液型 | 17. その他 () |
| 8. 顔写真などの画像 | 18. 特になし |
| 9. 家族構成 | 19. わからない |
| 10. 年金、生活保護などの公的扶助の受給の有無 | |

問41 あなたは次の情報のうち、『防災・防犯などの緊急時に備える』ためであっても、他人に知られたくないものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1. 現住所、電話番号 | 11. 電話や電子メールなどの通信履歴 |
| 2. 会社、学校等の連絡先 | 12. 病歴、身体の障害など |
| 3. 緊急時の親族等の連絡先 | 13. かかりつけ医、服薬、障害の程度 |
| 4. メールアドレス | 14. 介護保険の要介護度 |
| 5. 出生地 | 15. 福祉サービスの利用状況 |
| 6. 生年月日、年齢 | 16. 健康保険証の記号番号 |
| 7. 血液型 | 17. その他() |
| 8. 顔写真などの画像 | 18. 特にない |
| 9. 家族構成 | 19. わからない |
| 10. 年金、生活保護などの公的扶助の受給の有無 | |

【今後の地域福祉の推進についておたずねします】

問42 今後、地域福祉を推進するために、市民が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---|
| 1. 住民同士が自ら地域課題の把握やその解決方法を探るための話し合いの機会をつくること |
| 2. 地域の課題や問題に主体的に取り組むボランティアや地域で活動する人を増やすこと |
| 3. 地域での交流などを通して、住民同士の助け合いの意識を向上させること |
| 4. 地域で困っていることや自分ができることを知らせる情報が集まる場をつくること |
| 5. 家族以外の人で、身近に困りごとなどを相談できる人を増やすこと |
| 6. その他() |
| 7. 特に取り組むべきことはない |

問43 今後、地域福祉を推進するために、行政が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--|
| 1. 市民への意識調査や団体アンケート、聞き取りなどによる地域課題やニーズの把握 |
| 2. 行政からの一元的な情報提供、相談の場づくり |
| 3. ボランティアや地域で活動する地域福祉を担う人材の育成 |
| 4. 福祉サービスを適切に利用することができるような評価や内容の情報開示 |
| 5. サービスが利用できない、結びつかない人への対応の充実 |
| 6. ワークショップや地域交流会などによる地域の課題等を共有する場・機会の提供 |
| 7. 地域の自主的活動と行政サービスの連携強化 |
| 8. その他() |

問44 今後、地域福祉を推進するために、行政が開催する講座としてどのような内容の講座が必要とお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 地域デビューなど地域活動に参加するきっかけが学べる講座
2. ワークショップやKJ法※など会議の方法や進め方が学べる講座
3. 地域住民が参加したくなるような広報について学べる講座
4. アンケート調査や聞き取り調査などさまざまな調査技術が学べる講座
5. 支え合い活動や助け合い活動を進めるためのノウハウ・ヒントが学べる講座
6. 活動の中心となるリーダーとして身につけるべきことが学べる講座
7. 障害者が困っていることを疑似体験を通して学べる講座
8. 先進的な取り組み事例が学べる講座
9. その他 ()
10. 特にない

※KJ法：データをカードに記述し、カードをグループごとにまとめて図解し、情報や課題を整理していく手法

問45 川崎市では、超高齢社会の到来を見据えて、「地域包括ケアシステム」の構築を進めています。あなたの「地域包括ケアシステム」の理解度や行動について、あてはまるものをお答えください。

1. 地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかを知っていて、具体的に行動している
2. 地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかは知っているが、具体的に行動していない
3. 地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいかわからない
4. 地域包括ケアシステムは、名称を聞いたことがあるが内容は知らない
5. 地域包括ケアシステムを聞いたことがない

(→問 45-1 へ進む)

※「地域包括ケアシステム」とは…

誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けるため、住まい、医療、介護、予防、福祉・生活支援が切れ目なく、一体的に提供される仕組みと地域づくりの取組のことです。この取組を進めるには、市民や事業者、地域・ボランティア団体、行政など、地域全体でそれぞれが適切な役割分担により、取り組むことが大切です。

《問45-1は、問45で「3」～「5」のいずれかをお答えの方におたずねします》

問45-1 地域包括ケアシステムにおいて、市民一人ひとりに期待される行動としては、自らの健康管理をしっかりと行うことをはじめ、近隣住民との交流や様々な地域活動に関わることにより、支え合い・助け合う地域づくりに関わることなどがあたります。

このような行動を行っていますか。行っている場合、かっこ内にあなたが行っている取組等についてお書きください。

- | | |
|-----------------------|---|
| 1. 定期的に行っている（ | ） |
| 2. たまに行っている（ | ） |
| 3. 行っていないが、機会があれば行いたい | |
| 4. 行っていないし、関心もない | |

問46 「地域包括ケアシステム」の取組等について、御意見があればお書きください。

問47 最後に、『川崎市地域福祉計画』または『区地域福祉計画』に対するご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

記入もれがないかどうかもう一度お確かめのうえ、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて、

12月20日（金）までにお近くのポストに投函してください。

第5回川崎市地域福祉実態調査 結果概要（宮前区版）

令和2年3月発行

発行 川崎市

編集 川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地

TEL 044-200-2626（直通） FAX 044-200-3926

E-mail 40keasui@city.kawasaki.jp
